

# 全日本医師剣道連盟報



全日本医師剣道連盟創立 60 周年記念特別号



第 29 号

令和 2 年 2 月

**全日本医師剣道連盟**

事務局 〒305-0044 茨城県つくば市並木 3-23-25 林 明人

TEL & FAX: 029-855-7446

[info@japan-medical-kendo.jp](mailto:info@japan-medical-kendo.jp)

## ご案内

### 第 55 回全日本医師剣道大会 「めんそーれ沖縄大会」



会長 奥島憲彦

全国の医師剣友の皆様にはお元気にお過ごしのことと存じます。首里城火災に際しましては 全国の多くの先生方からお見舞いの言葉を頂戴いたしました。先生方のお心づかいに心より感謝申し上げます。沖縄県民にとりまして熊本における地震のように大きな衝撃であり、想定外の事実ショックを受けております。しかし、皆 心のどこかで再建に向けてすでに動き始めていると思います。

このたび、第 55 回全日本医師剣道大会を沖縄県で開催できますことは私たち沖縄県医師剣友会にとりまして大変 名誉なこと、現在「楽しい、思い出に残る大会」にすべく準備をすすめているところです。沖縄県での開催は平成 8 年 9 月故永山 薫会長のもと第 31 回大会開催以来、24 年ぶりの開催となります。

今回、第 55 回全日本医師剣道大会は 2020 年 4 月 18 日（土）～19 日（日）の日程で那覇空港から車で 15 分の位置にあります沖縄県立武道館アリーナで開催いたします。石原会長はじめ沖縄県剣道連盟の全面的協力を得て準備を行っております。4 月 18 日は例年通り、八段拝見立ち合い、審査形式立ち合い、稽古を予定しています。4 月 19 日は稽古、写真撮影、地区別団体戦、拝見立ち合い、個人戦、閉会式、稽古を予定しています。4 月 19 日の拝見立ち合いは参加者中、最高齢者の先生方の立ち合いを会員全員で拝見したいと考えています。何歳まで防具を着けて剣道ができるか、生涯剣道を求めるのも私たちの目標の一つと考えています。東京オリンピックの年でもあり、5 月の連休を控え ご多忙とは存じますが、皆様お誘いあわせの上ご参加くださいますようお願い申し上げます。そして、忙しい診療の合間に錬磨されている成果を披露していただきたいと思います。また、年齢、段位、出身大学、専門領域の異なる先生方と竹刀を交えて「交剣知愛」を実践していただき、「新しい出会いの場」となれば幸いです。剣道を通して新しい出会いがいくつも生まれる大会になってほしいと念願しています。

また、パシフィックホテルで開催する懇親会では沖縄の誇る琉球料理や泡盛、オリオンビールを存分に味わっていただくと同時に伝統に磨き上げられた琉球舞踊、歌三線、エイサー

を堪能できるように準備をしております。沖縄の魅力を体感できる懇親会にご家族お誘いあわせの上、是非、多くの先生方に参加していただきますようお願い申し上げます。

大会中は参加者が多くの先生方と竹刀を交えることができるように主会場以外に稽古ができる場を設けたいと考えております。また、4月とはいえ気温、湿度の高い沖縄ですので2日間、全館冷房で対応する予定です。

せっかくの来沖の機会ですので、是非、大会前後にお休みをとっていただき沖縄の青い海や伝統文化など沖縄観光も楽しんでいただければと思います。今回、宿泊やオプションツアーに関しましては「沖縄ツーリスト」が担当いたしますのでどうぞお問い合わせください。また、永山盛隆準備委員長夫妻の発案で19日（日）は同伴の奥様方を対象にしたカリスマバスガイドが案内する半日バスツアーを企画しております。是非、多くの奥様方にご参加いただきたいと思っております。現在、会員の皆様に満足していただける大会にすべく沖縄県医師剣友会のメンバーで準備を行っております。多くの医師剣友の皆様のご参加を心よりお待ちしております。

第55回全日本医師剣道大会「めんそーれ沖縄」事務局

〒901-0243 沖縄県豊見城市上田25番地 豊見城中央病院 整形外科内

事務局長 永山盛隆

[TEL:098-850-3811](tel:098-850-3811)

FAX:098-850-3810

E-MAIL:mori.nagayama1@gmail.com

ホテルや観光に関しましては沖縄ツーリスト 営業本部にお問い合わせください。

担当：伊佐 学（いさ まなぶ）「第55回全日本医師剣道大会係」

[TEL:098-857-2222](tel:098-857-2222)

FAX:098-857-2200

E-MAIL:isa1984@otsinfo.co.jp

## 【大会概要】

大会名 第55回全日本医師剣道大会～めんそーれ沖縄～  
会期 2020年4月18日(土)・19日(日)  
会場 県立武道館(空港から車で9分、4.2km)  
〒900 沖縄県那覇市奥武山52 ☎：098-858-2700  
懇親会会場 パシフィックホテル沖縄(空港から車で11分、5.2km)  
☎：098-868-5162

※4月17日(金)は県立武道館第二錬成道場にて県剣道連盟の稽古会が18:30よりあります。ご希望の先生は各自ご参加下さい(入場料160円)。

## 【大会日程】

4月18日(土) 12:00 受付開始(於：県立武道館)

13:00 開会式  
13:20 日本剣道形・演武  
13:40 八段模範立合い  
14:00 審査形式立合い  
15:40 自由稽古  
17:45 幹事会(於：パシフィックホテル沖縄)  
19:00 懇親会(於：パシフィックホテル沖縄)  
21:00 二次会

4月19日(日)

8:00 自由稽古  
8:45 集合写真  
9:00 団体戦(予選・決勝)  
11:30 昼食  
12:30 拝見試合  
13:00 東西対抗戦  
14:30 閉会式

大会参加費 20,000 円（宿泊費別）、懇親会費 15,000 円（同伴者 10,000 円）

参加の可否につきましては送信用紙にご記入の上、FAX にてご返信下さい。

第 55 回全日本医師剣道大会 事務局

901-0243

沖縄県豊見城市字上田 25 豊見城中央病院

整形外科 永山盛隆（事務局長）

☎：098-850-3811 FAX:098-850-3810

携帯：070-5818-2963

Email: [mori.nagayama1@gmail.com](mailto:mori.nagayama1@gmail.com)

※フェイスブックの設置も致しますのでご利用下さい。

<https://www.facebook.com/MedKendoOkinawa55/>

19 日(日)は同伴ご家族（希望者のみ）へカリスマガイドによるご家族南部観光ツアー（半日コース）もご用意致しております。

何卒、ご参加頂きます様お願い申し上げます。

事務局長 永山盛隆



「台湾、韓国、日本（沖縄）交流稽古会」  
in 第 55 回全日本医師剣道大会 めんそーれ沖縄

のご案内

第 55 回全日本医師剣道大会、めんそーれ沖縄ではオブザーバーとして台湾、韓国の医師の  
団体戦への参加を認めています。

つきましては、

「台湾、韓国、日本（沖縄）交流稽古会」を開催します。

日時：2020 年 4 月 18 日（土）AM 9:00～10:00

場所：県立武道館 2 階第二錬成場

ご都合のつかれる先生方は是非、ご参加ください。



表紙：首里城



## 第 55 回全日本医師剣道沖縄大会に向けて

この度、第 55 回全日本医師剣道沖縄大会の事務局長を担当させて頂いている永山盛隆と申します。令和 2 年 4 月 18 (土) .19 (日) に県立武道館にて奥島憲彦会長を中心に開催致します。沖縄県大会はこれで 2 度目となります。

前回大会は今から 23 年前の平成 8 年 9 月でした。

故永山薫先生 (6 段 : 耳鼻咽喉科) が会長、私が実行委員長で親子と間違われての大会でした。

その当時は県立武道館が新築された頃で、2 階の第二錬成道場を会場とし、全国から 90 名のご参加を頂きました。遠くハワイからも赤城昇先生を筆頭に 5 名の参加者がありました。日本剣道形は打太刀が奥島憲彦先生と仕太刀が私で、当時二人とも 5 段と未熟ながらの恥ずかしい剣道形で、無我夢中で行ったため内容は記憶にありません。あれから 20 年以上が経過し教士 7 段となった二人で再び太刀を交えるとは夢にも思っていなかったことです。歳を重ね剣道形の難しさをより理解している分、気持的には若かった頃よりもむしろ緊張致します。出来れば無心となって先生方の批評を乞いたいと存じます。

今回も県立武道館での大会となりますが、広いアリーナを主会場とし第二錬成道場は先生方の自由稽古の場にする予定です。

「めんそーれ沖縄」はキャッチフレーズですが、テーマは「交剣知愛」であり、ご参加される先生方が楽しく交流を深め、思い出に残るような大会を目指しております。

残念ながら 10 月 31 日のハロウィンに首里城は火災で焼失しましたが、落ち込むことなく沖縄の地でできるローカルなおもてなしを企画しております。

また昨年に続き、団体戦のみですが韓国と台湾からの先生方もご参加予定となり、国際交流の場「琉球」もアピールできるかもしれません。

尚、大会準備の段階でいろいろ不手際があり、大変ご迷惑をおかけしていることをお詫び申し上げます。

多くの先生方のご参加をお待ち致しております。

## 全日本医師剣道連盟創立 60 周年記念年報 挨拶

連盟創立 60 周年記念年報発刊に感謝！



全日本医師剣道連盟 会長 大祐 廣伸

令和元年 5 月に「第 54 回全日本医師剣道大会～どんとこい東京～」が開催され、私達の全日本医師剣道連盟は目出度く創立 60 周年を迎える事が出来ました。

この記念すべき東京大会幹事会で連盟創立 60 周年記念年報発刊をご提案申し上げました所、幹事の皆様より快くご承認を賜りました。連盟創立 60 周年という大きな節目に創生期の思い出或いは特に印象に残った大会の一コマなど数多くの皆様より玉稿を賜りました事、喪心より感謝申し上げます。お陰様で充実した年報となりました。

既に連盟ホームページには設立時の並々ならぬ思い入れの文章が掲げられておりますが、大きな節目である創立 60 周年記念年報として幅広い会員の方々の思いを一冊に纏める事で連盟の進むべき新しい発想が生まれ、大会運営などを見直す良い機会になる事を切望致します。昨年度は名古屋に於きまして日本医学会総会が開催された経緯もあり、東京での大会には大会運営上独自の判断に因り連盟会員のみならず、韓国及び台湾から医科系の剣友参加を戴きました。大変盛大に充実した記念すべき大会となった訳ですが、海外からの剣友参加に対する規程など不備な箇所の変更の吟味が必要になると思います。皆様のお知恵を拝借致したく存じます。

一昨年度は、日本全国の大学医学部剣道部に当連盟年報をお送り致しました。私達全日本医師剣道連盟の存在或いは年 1 回の大会開催などの活動を知って戴き、壮年の先生方の更なる参加を期待する好機と捉えました。令和 2 年 4 月 18 日（土）・19 日（日）両日に沖縄県立武道館に於きまして、大会長の奥島憲彦先生並びに大会事務局長の永山盛隆先生を筆頭とする沖縄県医師剣道連盟の方々により開催予定の「第 55 回沖縄大会～めんそーれ沖縄～」に於きましても、是非多くの若い会員皆様の参加を切に期待する所です。

最後になりましたが、記念年報を一貫して編集並びに発刊戴いた当連盟の事務局長の林明人先生に深く感謝の意を表します。

合掌

今回の連盟報は、全日本医師剣道連盟創立 60 周年記念特別号（1959 年創立）として発刊しました。

2020 年開催の沖縄大会のご案内に引き続き、

第 1 部：会員の皆様からの寄稿文と写真をいただき掲載しております。

順不同、肩書きは自己申告、敬称は省略させていただきました。

第 2 部：全日本医師剣道連盟のホームページの年報アーカイブから抜粋しました。

頁数の関係で小さくなっておりますが、内容は大変興味深いものばかりです。

第 1 回大会（東京後樂園）の写真なども含まれております。

是非、ルーペをご使用の上ご覧ください。

また、ホームページでもご覧いただけます。

（林 明人）



創立 60 周年記念ピンバッチは全日本医師剣道連盟会員の矜持のシンボルです。

## 第 1 部

### 60 周年記念寄稿文



●長崎北徳洲会病院 鬼塚正成

マイアミ留学中、ラストサムライが上映されて剣道ブームの中、その波に乗って私は剣道を再開しました。いつか、一緒に稽古した仲間と剣を交えて酒を飲める日を楽しみにしています。最近では、脳外科学会期間中にも稽古をしています。学会会場に防具を持っていくのは恥ずかしいですが、剣道仲間が増えるのは嬉しいことです。8月に大腿骨頭置換術を受けますが、来年の大会に出場すべく術後リハビリに励みます。沖縄でお会いしましょう。



●兵庫県剣道連盟所属、尼崎市アイワ病院勤務 三好博文

剣道と腸内細菌叢

以前、面白い講演を聞いた。“青黛”という漢方薬を潰瘍性大腸炎患者に投与する治療法である。“青黛”は日本でいうところの藍で、剣道家にはおなじみのあの青い色素である。私自身は色素殺菌力の反面、有害であるに違いないと思っていた。しかしこの物質は色素ではなく粒子で、なんとこれを一日に9gも服用するのだ。これを服用することによって患者の腸内細菌叢が変わるのだ。近頃、腸内細菌叢が関係する疾患が次々と見つまっている。最近、あるベンチャー企業が腸内細菌叢を簡単に調べる方法を開発し、2万円出せば将来どのような疾患に罹患するかを調べてもらえるそうである。そういえば単なる印象であるが剣道家には、大腸憩室症や心房細動が妙に多いように感じる。剣道衣を着ることによって発症、あるいは予防できる疾患があるのかもしれない。



白黒写真の説明

昭和45年6月大阪医科大学剣道部新入生歓迎コンパ記念写真。

前列中央が新入生の筆者、向かって左が同級の片山外一、現福井県剣道連盟会長、筆者の右がやはり同級の伊藤則幸。前列左端が前々大阪医科大学剣道部師範、武専卒の剣道範士八段、吉村鼎先生。前列右端がその当時の剣道部長 安井広明教授、三列目右端が当時の監督、奥村悦司先生。非常に強い（酒と剣道）先輩方が多数おられ、週4-5回の厳しい練習と楽しい第二道場は人生最高の思い出である。

カラー写真の説明

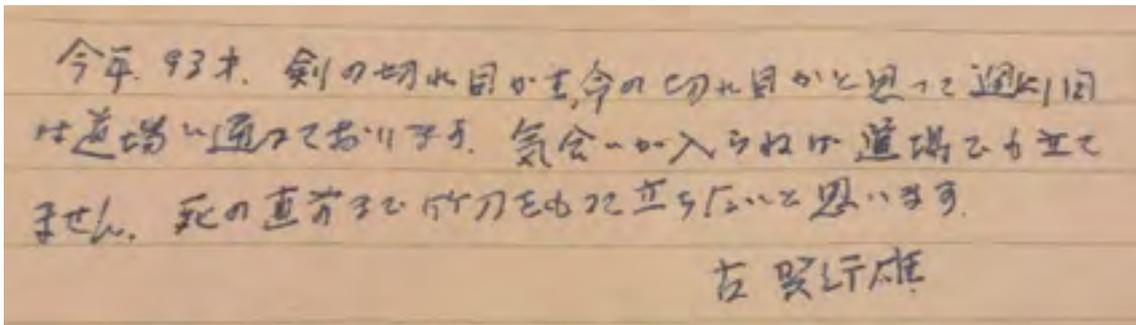
白黒写真からおおよそ半世紀の新入生歓迎稽古会。中央が前師範の鏡山博行先生。その右が現師範の手塚好博先生。左が筆者、三好博文、剣友会会長。さらにその左が枝重恭一副会長。手塚師範の右が芦田光副会長である。

●東京都剣道連盟所属 日大医学部卒 門野由紀子

15年前に初めて全日本医師剣道大会に参加し、久しぶりに第53回岩手北上で開催された大会に参加しました。地域別の団体戦では、大将が東京の稲村征夫先生でした。2回とも大将戦となり、相手チームの年齢差のある大将と互角に戦ってくださり、大変盛り上がりました。チーム全員が心ひとつになり、久しぶりに学生に戻った気持ちになりました。後輩たちにも連盟加盟・大会参加を勧めたいと思います。



●佐賀県剣道連盟名誉顧問 古賀行雄



HOME 佐賀新聞ニュース まちの話題

拡大写真

小学生へ熱血指導半世紀、卒寿剣士・古賀行雄さん



小学生を指導する古賀さん。激しいかかり稽古の相手 なども務める＝武雄市の白岩体育館

●兵庫県 中島クリニック 中島 進

第43回・兵庫大会の事務局長を担当させて頂きました中島です。平成20年4月19日・20日の両日にわたり兵庫県立武道館（姫路市）で開催させて頂きました。不慣れにて、不備、至らぬところ多々ございましたことを改めてお詫び申し上げます。ただ、先生方の立ち会いをずっと拝見させて頂いて、気迫に満ちた素晴らしい立ち会いが非常に多かったことが強く印象に残っています。その点では良い大会だったかなと少し慰めになっています。

私事ですが、産婦人科クリニックを開業して23年になります。剣道以外に趣味も無く、四六時中剣道のことが脳裏から離れないといった生活を送っています。ただ、諸事情で近頃はまったく外（道場）での稽古はできていません。その分、自宅やクリニックで、基本稽古

を中心に一人稽古に励んでいます。

60周年記念誌発行大変お世話様です。診療の都合で、幹事会にもなかなか出席できず、大変失礼しています。今後ともよろしくお願い申し上げます。

## ●宮坂昌之（大阪）

「継続は力なり、行住坐臥、竹刀をすぐに手に取れるよう、傍に置いておきなさい」

全日本医師剣道連盟（全医剣）の創立60周年おめでとうございます。私が全医剣大会に初めてお世話になったのは、平成7年（1995年）の第30回大会（岐阜：村瀬守男会長）の時からです。これまで、第31回（沖縄）、第33回（鹿児島）、第54回（東京）以外の大会はすべて参加させていただいてきたように思います。

最初の大会以来、これまで約四半世紀、多くの先生方と出会い、たくさんのことを学ばせていただきました。なかでも、非常に印象が深いのは、大祢一郎先生とお会いできたことです。大祢先生は、私が勤務していた大阪大学医学部のご出身ということもあり、阪大剣友会総会にお出でになる際には阪大道場にお見えになっていました。このため、何度か稽古をつけていただき、貴重なアドバイスをいただきました。今でもよく覚えているのは、大祢先生から「継続は力なり、したがって、行住坐臥、いつでもすぐに竹刀に触れられるように、自分の居室、書斎、寝室など、どこにでも竹刀を置いておくこと」、「何かあったらすぐに竹刀を握り、竹刀を振ってみること」、そして「竹刀が自分のからだの一部と思えるぐらいになるまで使い込むこと」というお言葉をいただいたことでした。それ以来、事あるごとに竹刀に触れ、素振りをするようにしていますが、自分の納得できるような竹刀の使い方にはまだほど遠いものがあります。大祢先生は書の達人でもあり、阪大道場の壁には、大祢先生の書がかけられています。

また、全医剣大会に参加して、鳥取の湯村正仁先生の凛とした立ち姿、見事な面打ちを何度も拝見し、大変、感銘を受けました。それ以来、面打ちの素晴らしさにとりつかれ、日々、打ち込み台に向かって面打ちを練習するのですが、なかなか満足できるような面打ちが出来るようにはなりません。

茨城の新井俊之先生の見事な足さばき、理にかなった端麗なお稽古も印象に深いものがありました。

平成28年の第51回大会（茨城）では、模範演武をされた高崎慶男範士にお会いすることができ、翌年の京都大会で、直接にお稽古をいただいたのも一生記憶に残る出来事です。面打ちのきびしさを学ばせていただきました。

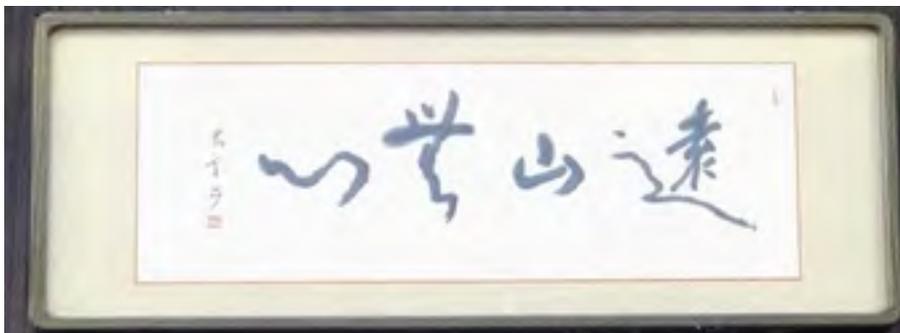
もう一つ記憶に残るのは、平成19年の第42回全医剣大会を大阪で開催させていただいたことです。そのすぐ前の平成16年に大阪で第39回大会があり、鏡山博行先生、長野拓三先生が主催をされたばかりだったのですが、日本医学会総会が大阪で開かれることとなり、長野先生からもう一度やりましょうと励ましのお言葉をいただいたこともあり、西本孝先生、

西本知二先生、北川秀雄先生、鏡山先生、長野先生を始めとする大阪府剣道連盟の諸先生方にお手伝いをいただき、豊中市千里体育館で第42回大会を開かせていただきました。谷岡恒雄先生と日本剣道形の演武をさせていただいたとともに、大阪府剣道連盟からは多くの範士八段の先生方にご出席いただき、とても晴れがましい会であったことを覚えております。

また、3年間ほどですが、伊藤元明先生が全医剣会長をお辞めになった後、全医連事務局を西本孝先生と一緒に引き継ぎ、西本先生が会計担当、私が全日本医師剣道連盟報とホームページの担当ということで、分担してお手伝いをさせていただきました。そして、この間に連盟報をすべてパソコン上で作るように切り替え、現在の形の連盟報ができてまいりました。その後、事務局は、現在は茨城の林明人先生に引き継いでいただき、順調に活動が進んでおります。中でも、過去の連盟報がすべてPDF化され、ホームページ上から閲覧できるようになったことは嬉しいことです。

さて、私事ですが、今年で大阪大学の特任教授の職を辞し、現在は招へい教授という形で、書き仕事を中心に、のんびりと仕事をさせていただいております。大阪大学では幸い、ほぼ毎朝、剣道場に教職員と近隣の高段者の方が集まり、約30分間ですが、切り返し、基本打ち、2分間の立会いを数本、最後に打ち込みと切り返しで終了、という形で、基本技の稽古をする機会があります。年2回の八段審査で、何とか少しでも今よりましな立会いが出来るようにと思い、基本に立ち返って技の練習を繰り返していますが、まだ目標にはかなりの距離があります。しかし、「継続は力なり」と考えて、努力を続けていきたいと思っております。

全医剣の皆さまには、これまでどおり、交剣知愛ということで、お稽古、ご指導をお願いできれば幸いです。よろしく申し上げます。



#### ●第41回全日本医師剣道大会会長 野見山延

全日本医師剣道連盟50周年おめでとうございます。

早いですね。昔の思い出といえば子供を連れて新潟で行われた大会に出場したことが思い出されます。今回は神奈川で開催しました第41回の思い出とご報告をしたいと思っております。

今もそうですが一番難しかったことは大会会場の確保でした。なんとか相模原市で行いたいとあちらこちら探したのですが、ほとんど1年前の抽選でしか受けられないとのことで開催を返上しないといけないかと思ったのですが、家内の友人に相模女子大学栄養学の助教授（当時）がいらっしゃり、その紹介でやっと高校の体育館をお借りすることができました。2試合場の広さでしたが当時としては十分な広さでした。テーマは皆で稽古、美味しいもの

を食べよう、でこの2点を重点事項としました。

稽古には県剣道連盟のご協力を得て九段（故倉沢先生）を含む範士6名、教士八段4名、医師剣道連盟から範士2名（故鬼倉先生、湯村先生）の先生がたに当時まだ七段で現役で試合に出られていた宮崎兄弟に入っていました。また当時全剣連副会長の故加賀谷先生にも参加していただきました。このメンバーは今も最高の元立ちだったと自負しています。大会の合間に相模女子大高等部チアリーダーが演技を披露してくれました。八段の先生方が一番喜んで見ていただいたようでした。

懇親会では相模女子大栄養学助教授の野田先生の肝入りでセンチュリーホテルの美味しいもの、特に参加していただいた奥様方にとっても美味しいデザートを食べさせていただこうと工夫していただきました。これまでの経験で懇親会中では初めの来賓挨拶以外は何も入れずに懇親を深めていただくことにしました。八段の先生方に各テーブルに座っていただき会員の皆さんとお話しをしていただき、神奈川の層の厚さと実感していただきました。宮崎兄弟にも参加していただきたかったのですが「とんでもありません。恐れ多くて無理です」と固辞されたのがちょっと残念でしたが今考えると無理もなかったなと思っています。加賀谷先生、神奈川の先生がたには一緒に宿泊していただき、懇親を深めていただきました。

参加いただいた先生がたには今はもうお会いできなくなった先生方が多数いらっしゃいました。今回参加者名簿を拝見して懐かしく、ちょっと悲しく、見返しました。特に山崎衛先生にはこの大会をとっても喜んでいただき、大会ののちお手紙をいただきました。また故人となられましたが飯岡先生、新井先生、鬼倉先生、根本先生、飯塚先生はじめ多くの先生の雄姿が思い出されます。当時は80歳代での参加は普通で、90歳をこえてもお顔を見せていただけました。最近湯村先生が最高齢のような気がしますのでちょっと寂しいですね。私も稽古ができなくなっても故根本先生がいわれていた「剣道はやらんものが一番強い（なんともいえる）」の境地で頑張ろうと思っています。

当時は神奈川に医師の剣道家がどれだけいらっしゃるかわからず、医師以外の多くの方々のおかげで実行することができました。県剣道連盟、相模原市剣道連盟、道場関係者、北里大学医学部剣道部、特に家内を中心にママさん剣士の皆さんが計画実行、プログラム作りなど裏方を一手に引き受けて実行していただいたおかげでなんとか参加した先生方に喜んでいただけたと思います。この大会の後から神奈川の先生がたとも連絡が取れるようになりました。

温故知新といわれますが、医師剣道連盟の先輩方の教えは剣道専門家の先生方の教えとはまた違った含蓄のある内容です。これを思い出しながら専門家の先生方のおしえ、自分の経験をふくめ皆さんにお伝えできたらと思っているこの頃です。





●宮城県 信州大医昭和46年卒 剣道5段 引地功侃（ひきちよしなお）

全日本医師剣道連盟第60回大会に参加した。東京医科大学の立派な記念会館前には医聖ヒポクラテスの胸像が建立され、【どんとこい東京大会】の立て看板。剣道道場内に東京医大体育会旗、気合の入った試合と掛り稽古が行なわれた。懇親会では木場の親方衆による景気付けの木遣り唄、東医体剣道大会で常に勇名を馳せた東医だな、流石粋なはからいだなど感心し、襟章とポロシャツを購入、記念品の朱色の竹刀袋を有難く頂戴した。



●宮坂信之 東京医科歯科大学名誉教授（昭和48年卒）

このたびは全日本医師剣道連盟60周年とのこと、誠におめでとうございます。  
私も連盟の一員にさせていただきながら、長い期間が経ってしまいました。  
これを機に、大学以降の自分の剣道の歴史を振り返ってみたいと思います。  
実は剣道は高校で止めるつもりでしたが、剣道部の部員誘致に引っかかって(?)しま

い、また厳しい剣道の稽古を続けることになりました。しかし、我々の学年はラッキーで、入学した年に道場に使う教養部体育館ができ、師範として警視庁師範だった森田広治八段が着任され、みっちりとしごかれました。翌年には寺川顧問のご尽力により教養部に専用の道場ができ、白心堂と命名。写真1は私が剣道部主将を務めたときに白心堂の前で合宿の際に撮ったスナップ写真です。

卒業後、第一内科に入局してからは余り稽古をする時間もなかったのですが、1979年からカリフォルニア大学サンフランシスコ校にポストドクとして留学。サンフランシスコには仏教会があり、週1回、インストラクターとして稽古をすることができました。

1982年に帰国をしたのですが、森田師範が重い病気になられ、我々の手で看取ることになりました。その後、私は東京女子医大に転出したのですが、新しい師範として警視庁から梯正治先生（現八段教士、全日本剣道連盟審議員）になられました。梯先生は、のちに警視庁剣道指導室の主席師範とされましたが、稽古では壁が聳えているように跳ね返され、当然のことながらもっと稽古をしないとだめだと思われ知られました。その後、大学剣道部部長となったこともあり、仕事の合間に少しずつ稽古量を増やしました。先々代の剣道部長であった山本肇学長のご高配で、道場にエアコンが入ったのですが、何と山本先生は日本学士院賞の賞金の一部でエアコン設置をして下さいました。

2011年には東京医科歯科大学医学部附属病院病院長を拝命し、剣道部では盛大にお祝いをしてくださいました。写真2には当時の先輩や後輩、先生方が写っています。写真3は雑誌「剣道時代」に私の紹介記事が掲載され、その時に撮影してもらったものです。

2013年には定年退官をし、その後に剣道部OB会（有心会）会長も務めるようになりました。今は、月曜日は梯師範がおられる乃木神社尚武館道場に稽古に行き、火曜日と木曜日は梯先生に師事しながら現役学生の剣道指導を行っています。

全日本剣道連盟では伊藤元明先生、松永政美先生の後を受けて医・科学委員長を務めており、「剣道医学Q&A」の刊行にあたっては全日本医師剣道連盟会員の方々に執筆者として大きな協力をいただきました。ここに改めて御礼を申し上げます。

今後とも全日本医師剣道連盟の一員として、「生涯剣道」をモットーに稽古を続け、本連盟にできる限りの貢献をしたいと考えている次第です。



●長崎県 牟田 幹久

懐かしい剣友との再会、そして、新しい出会い

全日本医師剣道連盟創立 60 周年おめでとうございます。私も本連盟が誕生した年に生まれ、一緒に還暦を迎えました。

本会の魅力、それは何といても学生時代の剣友と再会できること。卒業後剣道から離れていましたが、地元で父の診療所を継承したのをきっかけに再び竹刀を握りました。久留米大学の後輩の森君から本会を紹介してもらい初めて参加したのが第 36 回熊本大会でした。その時に我々世代のスーパースター熊大の甲斐君と卒業以来の再会。剣道では負けても、宴会では私が上。彼はどう思ったかしれませんが、私には非常に懐かしい再会でした。それ以後は本会で彼と稽古できることが何よりも楽しみとなりました。また、学生時代は遠くから試合を見つめるだけの憧れの先輩方、熊大の諸木さん、鳥取大の堀江さん、名古屋大の永山さんなども本会で竹刀を交えさせてもらえるようになりました。そして、全国各地に新しい剣友もでき、毎年交流できることが何よりも剣道が続ける励みです。

みんな年をとり、顔を合わせなくなっても「きっと稽古している。また会える。」と信じ、この大会だけは参加し続けるつもりです。



再会 平成 13 年 第 36 回大会  
於 熊本 左から 甲斐、牟田、森



出会い平成 28 年第 51 回大会於茨城左から  
阿保、荻原、鬼塚、香田八段、牟田、萬木

●第 50 回全日本医師剣道大会（京都大会）会長 京都府幹事 吉村了勇  
（近江八幡市立総合医療センター 参与）

60 周年に寄せてー私と京滋医師剣道連盟の関わり

皆様におかれましてはますますのご清祥の事、お慶び申し上げます。平成 27 年 4 月に第 50 回大会を京都で実施することが出来ました。この紙面をお借りして改めて会員の皆様にお礼申し上げます。京都での大会は、第 5 回（昭和 45 年）高岡謙次会長、第 10 回（昭和 50 年）会長不詳、第 21 回（昭和 61 年）根本浩介会長、第 26 回（平成 3 年）横関誠夫会長に

よる開催について24年振りに5回目となりました。京都では重城先生、有馬先生、根本先生という、いわゆる三巨頭がおられるときは医師剣道としての活動も活発で、丁度私も学生時代であり、3人の先生に稽古を付けて頂いた事が懐かしい記憶として残っております。残念ながら三人の先生がお亡くなりになり、また横関保彦先生も早逝され、その後活動も休眠状態になっておりました。平成27年4月には京都で医学会総会が開かれる予定であり、その時には京都医師剣道が当番世話人となるべきであると、西本知二先生(昭和53年京都府立医大卒業)が大会の3-4年前に一念発起して、先ず休眠状態の京都医師剣道の再生に乗り出しました。私にも声が掛かり一人、二人と仲間を増やし、滋賀県も一体に京滋医師剣道連盟を立ち上げ、年2回の稽古会を行う事にし、しだいに組織を充実させていきました。ちょうど私が京都府立医大の剣道部部長をしておりました関係で大会の会長を、西本先生が実行委員長として会を進めていきました。私事になりますが、学生時代に4段を頂いていましたが、S53年に府立医大を卒業し、その後は年1-2回の稽古が約28年(完全な空白が約10年)続きました。息子が中学で剣道を始め、時を同じくして剣道部部長になれと言われ剣道再開の道筋が出来てまいりました。卒業時に根本先生から「しばらくは忙しいかもしれないが、将来剣道の方から近づくことがある、その機会を逃さないように」という言葉を頂いていました。丁度そのタイミングかなと思いました。同時期に京都府庁に剣道部があり伊藤雄三郎範士がご指導されており、その道場に紹介して頂き週1-2回の稽古を続けてきており、現在錬士6段を頂いております。京滋医師剣道連盟の再生の道筋を付けた西本先生が亡くなり、痛恨の極みですが京滋医師剣道はその志を継いで現在も石井先生を代表幹事として活動を続けて来ております。今後とも全日本医師剣道連盟の一員として「交剣知愛」を大事に、微力ながら尽力していきたいと思っておりますので宜しくご指導お願い申し上げます。最後に会員皆様のご健勝と日々の稽古でのご精進を祈念申し上げます。



●三重県桑名市 第45回大会会長 中山尚夫

第45回全日本医師剣道大会（三重・伊勢大会）を主管して

長年医師剣道大会にお世話になりながらも、その主催者側に立つことはあり得ないだろう。なぜなら三重県の医師現役剣士は、当時2~3人しかおらず、開催能力はゼロに等しいと決め込んでいたからである。しかし、当時の連盟会長伊藤元明先生から、4年後の開催は三重で行って頂きたいとのご要請を受け、返事に窮している間に、いつの間にか、承諾決定との結果が先走っていて、大阪（当時）の長野拓三先生からは、正式に返答する前にお礼の言葉を頂いた。四日市市内で内科開業されている若手の剣友中村泰先生に、苦境を相談すると、「じゃあ、やりましょうよ」と、力強い答えを頂いた。嬉しさに思わず「ありがとう」と叫んだのだった。全ての始まりとなったこの時の中村先生の力強い言葉と、お顔は今も忘れない。三重の地でお引き受けするならば、伊勢以外にはない。江戸時代から庶民の夢だった「お伊勢参り」を剣道大会と重ねてほしかったからである。準備に入って早々、頼もしい元気な仲間二人が加わってくれた。三重大学OBで勤務医である久留宮隆先生と、愛知県蟹江において内科開業の増田健太郎先生である。増田先生は愛知県在住にもかかわらず、三重に比較的近い桑名に稽古にこられる親しい剣友であり、東海学生剣道連盟の顧問医師仲間でもある。長いようで短い4年の歳月、案を練り、宿泊候補のホテルを実地に検証するため、4人で宿泊し食事も試食したりもした。当時、大勢を宿泊させる新型のホテルは伊勢市内にはなく、立派な宿泊施設はかなり離れた海沿いの観光地鳥羽に出向くしかない。それでは、往復に時間も要し、全ての出費がかさむことになる。ならば少々古く規模の小さい伊勢市駅に近いシティホテルにする以外にはないだろう。どこに泊まろうが寝れば人は皆同じ。旅費の節約にもなる。次は会場の件。伊勢には幸い全国規模の大会が開催出来る大規模な「三重県営サン・アリーナ」がある。丁度伊勢市と鳥羽の中間に位置する広大な丘陵地にあり、ここならば戦いの場には相応しい。ここを1年以上前に予約することになるのだが、伊勢大神宮近くの県営体育館よりは、はるかに費用が掛かる。この県営体育館は全国的な我らの医師剣道大会には少々みすぼらしいので没。ようやく会場、宿泊施設が決まった。あとは、参加者集めと名簿作りとプログラム作り。これらは中村先生が中心になって動いてくれた。一番困ったのは、金策である。4人の内2人は勤務医。薬品会社にはツテもない。先輩にあたる県医師会長に頭を下げて僅かな協賛を得たが、伊勢市医師会長には断られた。開業の中村先生が奔走して少々を集めて頂き、あとは身内から協賛金を当てにした。大会が迫って来ると、あとは会場の準備。「アリーナ」は何を使うにも費用が掛かる。だから、大小看板類も、掲示も、全て自分が書いた。会場正面天井の大看板も、発砲スチロール板を張り合わせて、大文字も自分が書いた。或る時は医師、ある時は大工、ある時は看板屋。「ぼ・ぼ・ぼくらは少年探偵団」の日々だった。いよいよ迎えた大会。不便な遠路にも関わらず予想外に多くの会員、ご家族が参加して下さった。大会初日の早朝6時からの伊勢大神宮「御垣内参拝」<sup>みかきうちさんばい</sup>にも多くの参加を得て、清々しい参

拝の後の開会となった。内宮の垣の内側に入っの参拝は滅多に一般人が経験出来ることではない。参拝会員からは感謝の言葉を頂いた。懇親会では、「伊勢音頭保存会」の多人数の会員に数種類に及ぶ伝統的伊勢音頭を披露してもらった。保存会会長さんとは既知だったのが幸いした。大会冒頭の剣道形は、自分が仕太刀をとり、中村大会委員長相手に「大日本帝国剣道形」の中山博道範士の形を敢えて演武させてもらった。多分多くの若い医師会員には帝国剣道形の意味も内容も分かってもらえなかっただろう。続いて、三重県亀山に残る無形文化財、「心形刀流」赤心会の多数の会員による居合の形演武が行われた。赤心会の宗家の方々との交流があったからの実現であった。第45回全日本医師剣道大会はかくして無事終了したのであったが、すべての行事が終わった直後に猛烈なめまいに見舞われた。張りつめていた緊張ストレスから解き放された反動だったのであろう。大会主催とは、かくも大変な仕事だったのか。改めて今日までお世話になってきた関係医師会員に対して感謝の念を深くしたことであった。



## ●長崎 萬木信人

### 全日本医師剣道大会 八段の先生の思い出

僕が久しぶりに参加したのは、久留米で開催された大会です。そこで、鹿児島島の楠本忠雄八段と出会った。足の指で間合いを詰める尺取虫を教わった。自宅に良い刀があるので見においでと誘われていたが、間に合わなかった。何処の大会だったかは忘れたが、湯村正仁八段が、普通ならあり得ない事だが、四段の選手と試合をされた。ドンと打てば終わったはずだが、十分相手に剣道をさせて、「何にも出来なかったよ・・・」と言って笑いながら戻られた時人格を見た。北海道では古川和男八段から竹刀を巻き上げら

れ長崎まで飛ばされた。栄花兄弟は流石で綺麗に身体を真っ二つに切られた気がした。神奈川の網代忠宏範士にはたまたま籠手抜き面が思い切り決まったが、後から、「今、頸椎症で苦しンドル」と聞かされて恐縮した。宮崎史裕選手は重戦車みたいな攻めで、体格が似ているので参考にしたいと思った。宮崎正裕選手とも是非剣を交えたかったが、超人気者で並んでも時間切れで回ってこなかった。大阪では島野大洋・泰山範士に稽古をつけて頂き無性に喜んだ記憶がある。小林三留八段の剣はととても難しかった。作道正夫範士には気が充実したと思いき無心で初太刀を面に飛び込んだが袴に足を取られ転んでしまい滅茶苦茶格好悪かった。千葉では八段に上がったばかりの重松公明先生にお願いした。髭剃り跡が青々とした気持ちのいい剣だった。井島章八段は体重の乗った剣で、籠手を抜いた瞬間の顔を憶えている。終わってから面ひもの位置が1本ずれているといわれて笑い合った。その後越谷市の東西対抗の会場で会った時しっかり覚えてもらっていた。仙台では警視庁の佐藤勝信八段と稽古をお願いしたが、終わってからの会話で「・・・僕を打とうと思ったでしょう?・・・」と

言われたのを妙に憶えている。非常なる好人物でした。その後長崎で再会したが、<sup>こうべ</sup>頭の低い気持ちのいい八段だった。福島の佐藤孝康八段は面を取ると優しい顔だが面を着けるとガラッと変わり力強い振りになるのが印象に残る。茨城の水田重則八段は動きが早くまるで牛若丸だった。愛知の東良美八段は本当に人格が顔に現れた方で、僕に「八段上がりますよ!」とリップサービスをしてくれた。鍋山隆弘八段には、後輩が思い切りの外し胴を打たれ物凄いい大蛇腫れを作っていた。流石に八段の打ちと思われる。将来必ず八段に上がる高鍋進七段も嬉しくなる程愛嬌がありニコニコニコして非常に好感を持った。佐藤成明範士と我が後輩の香田郡秀八段が演じた五行の形は素晴らしかった。昔から知っているあのクン坊も立派になったもんだと思った。今回の東京大会では、寺地種寿八段と彼の高校時代の話が出来たし、僕が一番強いと思われ岩佐英範八段とも少し距離が縮まってTwo shot も撮れたし良かった、よかった、で過ぎました。こうして思い出してみると錚々たる八段の先生方に教えを受けていることに驚きます。全日本医師剣道大会の有難味が良くわかりました。僕も何とかあと一段上に行きたいものです。



長崎大会



長崎チーム優勝

オリンピック競技に剣道があってもいいじゃんねえ

令和元年、NHKの大河ドラマ、阿部サダヲ演じるマーちゃんこと田畑政治なら、こう言うかもしれない。更にもう続ける。大体、日本の柔道を見てごらん。最初、いろいろあったみたいだったけどオリンピック種目に登録されて、数あるオリンピック種目の中でも、今やまさに金看板だ。東京2020で空手道も入った。剣道も入らない手はないじゃんねえ。私は、剣道もオリンピックに加入して欲しい。なぜ世界選手権はあるのにオリンピックはないのか。日本や世界の剣道人口は増やさなくていいのだろうか。

以前、やわらちゃんこと田村亮子選手のオリンピックの活躍を見て自分の道場へ行き、敬愛する当時80歳の三股量館長に尋ねたことがある。この館長は、みんな一緒に剣道やろうの方だった。そこには、JR職員、警察官やそのOB、サラリーマンをはじめ多くの剣士がおり県下屈指である。私が彼に、剣道も柔道みたいにオリンピック競技になったらいいですねと言った時の返答が忘れられない。答えて曰く、とんでもない。カラフルな胴着を着て、試合に勝てば飛び跳ねる。古来の礼節を失ってしまい日本の武道を安易に世界に出すべきでなかったと。また当時私は、近くにある北村壽雄先生主宰の豊府小剣で、二人の子供も連れて楽しく剣道させて頂いた。この北村先生に同じ質問はしたことはないが、彼は終戦直後のマッカーサー元帥指令により、国内の刀、竹刀や剣道防具の廃棄、焼却を余儀なくされたことを話してくれたことがある。何とか彼は、自身の防具は隠し通したと言う。見つかる大変な事になると怯えながら。大正15年生まれの彼は、今だに小剣で週4回の元立ちを勤めている。時折私の外来に見えて、稽古した夜は排尿回数は少ないが、そうでないと頻尿で困るねと笑っている。

私の外来で、子供たちにスポーツについて聞くと、20年前は10人に1-2人くらいは剣道と答える子がいたが、今はほとんど聞かなくなった。今は圧倒的にサッカー。なぜか。それは、漫画、TVやYouTubeなどで目の当たりにする機会が圧倒的に多いからに他ならない。TVで剣道の放送(地上波)があるのは、文化の日の日本選手権。その他は九州では玉竜旗くらいである。かつて友人から、日本選手権のTVを見たけど、かっこいいねえ。でも、旗が上がってもよくわからんと言われたことがある。その通りだと思う。日頃から目にしない限り、勝敗の機微や面白さは分かりづらい。

一方、小中高の剣道大会を見てみるとどうだろう。観衆として周りにいる保護者は剣道未経験者が多いが、皆さん1、2年もすれば勝敗の機微が分かる。何度か観るうちに、駆け引きまでも理解して、我が子やそのチームに助言ができる熱狂者も出てくるし、剣道を始める方さえいる。

剣道ファンならご記憶とおもわれるが、TVで放送された「ただ一撃にかける」。これは平成15年、第12回世界剣道選手権大会の番組。韓国との決勝戦。大将の栄花直輝選手が突きの一撃で見事日本を優勝に導いた瞬間である。打突後の残心までもきれいである。この選手権は、英国グラスゴーで開催された。普通の体育館が会場であったが、なんとエリザベス女王夫妻がご臨席したとある。きっとあの一撃に感嘆されたことだろう。この記事を見て思

い出すのが、平成 17 年に我が大分県別府市で開催させていただいた第 40 回全日本医師剣道大会（広瀬信道会長）である。市長や県知事にご列席頂いた。さすがに皇室はお見えにならなかったが、知事は予定時間を大幅にのばして、とても興味深く観戦されていたことを後で聞いた。現在剣道は、毎年色々な地域、職域で試合が行われ、審判講習会も定期的に行われている。マアちゃんなら、もったいないじゃんねえ。もっと TV で気軽に見られるようにしましょうよ。盛り上がりましょうよ。サッカーのドリブルやパスのように、剣道にもカッコいい場面が一杯あるんだから。ねえまずはみんなで見ようよ、ときっと言ってくれる。日本の富士山、芸者、サムライは世界周知。このサムライが、江戸時代から道場で、剣と礼儀と学問とを学んで日本は発展してきた。今こそ、この古来の精神、文化を国内外に発信すべき時ではないか。私は小 3 で剣道を始めた。将に、昭和 39 年東京オリンピックの時である。師匠は父。町の子供たちを集めて始めたのが父であった。当時は、小学校の講堂だった。しかしこの小学校はとっくに廃校になった。人口が減る中、生粋の江戸っ子ならぬ生粋の日本人は 30 年、50 年後どれほどの割合になっているだろうか。

おしまいに私事で恐縮だが長女に子供が誕生した。早くも三代での剣道談義を期待しているところだ。この孫の頃には柔道のように、剣道オリンピック男子、女子が来ているといねとみんなで話している。

マアちゃんや嘉納治五郎先生のような方はおられないものか。

そのためなら、自分にできる事があれば惜しまないつもりなのだ。



私と北村壽雄先生（右）



私の家族。生後 5 か月のさくら。

### ●岩手県 菅 義行（剣道教士七段）

医剣一如と出会いから

先達の方々が築かれてきた全日本医師剣道連盟が創立 60 周年を迎えられることにお祝いを申し上げます。

> 剣道の再開

岩手県で「医剣一如」を実践されてきた中村和好先生が年第 32 回全日本医師剣道大会（平成 9）を開催された際、お誘いを頂きました。当時、私は開業して剣道を 17 年ぶりに 3 人の子供達と一緒に再開したばかりで出場をお断りしました。

#### > 剣道の転機

再開 5 年目、学生剣道経験のみでは指導者として問題があることに気づいた。やっと中学恩師の菅崎吉雄範士の道場に入門を決断した。はじめに「試合で負けない剣道を続けたいか」、「正しい剣道で六段昇段を目指したいか」と問われ、私は、「正しい剣道をめざしたい」と指導稽古をお願いした。家内の撮ったビデオを晩酌の肴にし、中学生・協会員との稽古で工夫を繰り返していた。

ちょうど同時期、日本臨床整形外科医会のメーリングで「剣道スポ少で指導をしています。」と書き込むと、まだ面識がなかった高知県の枝重恭一先生から「全日本医師剣道大会・札幌（平成 14 年 9 月）があります。参加しませんか。」とお誘いメールに乗って参加した。

その大会に参加した 2 か月後、東京武道館で 2 回目の六段挑戦で合格することができた。また、一緒に入門した子供達も全国大会出場を果たすことができ、六段に合格できたことで十分満足でしたが、次の年の県民大会でアキレス腱を断裂して「精神面の弱さ」に気づき、その修業のためにも七段に挑戦することにした。

#### > 剣道観の変化

初参加した札幌大会で最も印象的であったのが ご高齢（90 歳程）である茨城の大柵一郎先生と熊本の笠原先生との拝見試合を見て、まさに不老剣士の夢を抱きました。それから毎年参加して良い医療を目指す姿勢が剣道を深めていくこと、剣道を正しく高める姿勢が医療の中で生かされる「医剣一如」を実践されている先生方と立ち会い、稽古、剣道談義と毎年、交剣知愛を楽しんでいます。

平成 16 年から全日本剣道演武大会（京都）に毎年参加し、範士湯村 仁先生から 3 日間、厳しい朝稽古を頂く幸せを感じつつ、根本浩介先生には八段審査会場の空気が波動する「感動する 1 本とは」を実感させて頂いた。徐々に、勝てばいいという競技剣道ではなく、打つ者も打たれる者も、見ている方々も感動する 1 本でありたいと武道剣道へと剣道観に目覚めました。

恩師菅崎範士から剣道七段への指導稽古では、競技剣道で身についた首を曲げる悪癖（条件反射）を徹底的に直すことと、打つ機会の見極めを心がけるという二つの課題（全剣連 上級者 高段者の陥りやすい剣道修練上の問題点）に向かい合い、深める稽古をして平成 20 年七段に 1 回で合格できました。

この合格で剣道と医療の道は相通じるものだと思うようになった。剣道を通して自分自身の修業度が分かり、剣道の悪い面を治すと診療面にも変化が起きてくる。すなわち、剣道を通して自分の欠点を見つめることになり、それが医療にも生かされて医療の質が高まってゆく。その逆も真なりで、まさに「医剣一如」の両輪を頑張ることで、共に高まっていくのだと確信できるようになった。

#### > 大会の開催

私の人生で最大イベントは平成 30 年第 53 回全日本医師剣道大会 いざ いわて北上大会を開催したことです。ご参加して下さった多くの皆様、ご協力・支援された多くの方々、並びに実行委員長 川上 格先生、事務局長 茂木 隆先生、実行委員会の皆様のお蔭で成功裏に終わることができ感謝を申し上げます。この大会の懇親会企画で、岩手県剣道連盟役員と全日本医師剣道連盟役員と意見交換ができる場を設定しました。そのお蔭で平成 31. 年 4 月から岩手県剣道連盟に「医療安全委員会」が設置できたことに御礼を申し上げます。

これからも全日本医師剣道連盟の会員各位と共に品位・品格のある「医剣一如」の生涯剣道をめざしていきましょう。



日本剣道形 右：川上先生 左：菅

## 八段審査

令和元年5月2日（審査2日目）in 京都

八段審査に臨みました。2回目です。前回同様1次も通らず撃沈でした。

合格者の手記は沢山目にしますが、不合格者の手記は見当たりません。皆さんも“他人の不幸は蜜の味”として読んでいただければ幸いです。

話は審査1週間前にさかのぼります。同郷の栄花直輝選手が八段戦で優勝、その決勝戦において決めた面、何度見ても素晴らしく感動ものでした。八段戦は気と気のぶつかり合い、お互いの攻め合いから、どこでどのように技をだすのかを見てい

ても面白いし、ワクワクします。そこで気剣体一致の技が決まると心が奪われます。ビデオで何度も“面”の部分再生し見終わった5分後には竹刀を持って素振りをしている自分がいました。“あの面を打ちたい” “あのような面が審査でないかなあ”と心の底から思いながら。気持ちが高ぶって素振りをしていると、必ず“天井にぶつけるんじゃないよ”という壁の向こうから怒鳴り声が聞こえてきます(天井には夢中になりすぎた証が多数残っています)。

審査前日、京都に午後4時に着きました。

オリンピック水泳金メダリスト北川康介選手曰く「ゴールでのイメージは最終で壁に手をついた時ではなく、その後電光掲示板のタイムを見てガッポーズしている姿である、でなければ記録は伸ばせない」と。よって、私も同様に一次・二次審査通過し剣道形合格まででなく、その後の写真撮影までをイメージすることを心に決め、宿泊ホテル（オークラ）に着くやいなや地下の理髪店へ、そこは個室で、高級感にあふれ、北海道人にはなんとも上品に聞こえる京都弁でお迎えです。田舎モンの私は個室・高級感・京都弁これだけで何も言えず、お任せでドキドキしながら寝ることなく髪を切ってもらい、仕上がりは上品な京都の旦さんに!。大変満足。やはり会計は8千円。笑顔を作り“ありがとう”など言いつつ、いつも8千円支払っているかの如く態度を見せつつ店を後にした。その後は、近くの美味しいと評判の普通の値段のとんかつ屋で飯を食べ、直ぐにホテルに戻った。ホテルでは剣道形の一人稽古をして（時々木刀の先が天井に当たり、壊してないか確かめながら）、11時頃、就寝。

審査当日。6時に起床。審査は午後からも、朝風呂に入り、体をほぐすためラジオ体操らしき体操をするも、体操の一つ一つの動作に“痛たった”と言いながら年齢から感じる体の硬さを嘆く。朝食後、友人のN先生から電話あり、稽古してから審査に臨むとの連絡。10時に審査会場に向かう。前回の審査では、会場に着いた瞬間に竹刀袋の肩紐が切れてしまった。嫌な予感がよぎり、その通り不合格になった。今回は全て防具等点検、大丈夫!と念を押し、



会場に入る。…入った瞬間、他人の竹刀袋が目に入った。なんとそこには“七転八起”と書かれてあった。(竹刀袋に書く言葉?!俺は七回も転んだら起き上がるのだろうか?)その後、N先生と落ち合い、面打ちなどの打ち込みだけを行う。竹刀が軽く感じた。剣道の動きができること確認。絶好調である。

その後、大阪の柴田先生に会うも、審査前ということもあり、互いに挨拶だけ交わす。宮坂先生も見かけるが、垂れネームがないので、先生が東京か、大阪か、わからず声をかけられなかった。

審査直前。ゼッケンをつけ、面紐を結ぶ(審査前、N先生に面紐がほどけないように水に濡らしておけと言われる)。しかし、面紐を濡らしすぎたのか紐のすべり悪くきつく閉まらない。今更どうしようもない。ほどけないことを祈り椅子に座る。さすが審査2回目ともなると震えがない。緊張はしているがいい感じだ。

審査開始、(この年になると蹲踞は膝の安定が悪くグラグラするが)蹲踞綺麗にできる。よし。立ち上がる相手が見える。よし。攻める。さらに半歩攻める。相手出てくる。お互い小手を打つ。バタバタ。(ばか・なぜ小手を打つ。初立ちは面だろう)、もう一回仕切り直し。よし。攻める。面を打つ。当たる。しかし、重みなし(私は以前から打ち軽し・人間性軽し)。もう一度。面。重みなし。次は、次は…と打ちすぎとなる(私は以前から無駄打ち・無駄口多し)。二人目、渡りの小手・面を打つ。当たる。重さ・鋭さなし。右への返し胴。当たる。鋭さ・気品なし・打ち軽し・無駄打ち多し。終了。礼して戻る。“ビデオ撮ったよ”と友人のF君そばにくる。“どうだった?”と聞くと、“う~ん”と首をかしげる。“そうだな”と言い、自分自身も不合格であること確信し、すぐに着替える。しかたない、これが今の私の実力だ。

二次審査を拝見する。北海道からは二人の先生が一次通過。やはり当たり前の人が1次を通る。二次審査間際、M先生と廊下ですれ違い“頑張っ”と背中に手をあてると、新しい胴着に着替えていたことが分かった。さすがである。二次の準備もしているのである。私はもちろん今回胴着を1枚しか持っていかなかった。確かに、わずか二人の立ち合いであったが、汗は胴着に浸みるほどかいていた。八段審査の心構えの重みを感じた。2次審査が始まった。二人の先生は勢いがあり、姿勢良く技も品格もあり生きていたが、なぜか打ち切れずの動作も見られた。もったいない。二次の合格者に名前はなかった。

今回感じたことは、八段は七段の延長線にあるのではないということ。そこには七段にはない“格”を求められていることがわかった。その“格”とはなにか。一本一本相手の心を打つ技が必要である。重み・鋭さ・品である。…並大抵の志では合格は無理である。この最高峰の八段はさらに遠く感じた。

人間の心の発達生涯を通じて続いているそうです。心が老いないためにも、八段審査に挑戦し、いつか生涯発達の成果を合格という言葉で表現したいです。明日からまた先生に、仲間に胸を借り11月東京の審査に向け頑張ろうと思います。(今度は胴着2着を持っていくので無駄にしないよう1次だけは通りたい)吉田松陰の言葉「人は志と仲間成長する！」を信じて。

●前全日本医師剣道連盟会長 鏡山博行

医師剣道連盟設立60に当たって

医師剣道連盟発足60周年を、皆様方と一緒に迎えましたこと誠にめでたく、ご同慶の至りであります。医療、医学研究に携わる傍ら、剣道に取り組まれている方々の、生涯剣道実践の場として、堅実に歩んで来る事が出来ましたのも、先輩方の並々ならぬご努力の賜物であります。60年の長きにわたって、医師剣道連盟を愛され育てこられました、数多の先輩方に深く感謝申し上げます。



一口に60年と申しますが、第1回大会が開かれた昭和34年は、私が大学を卒業する2年前です。今の明仁上皇陛下と美智子上皇后陛下のご成婚パレードに、日本中が沸いた年であり、前回の東京オリンピックの5年前です。第1回から第4回大会までは間隔があいていますが、第5回（昭和45年）以降は毎年開かれ（第46回は東日本大震災のため中止）、医師が人間形成に努め、社会的使命を果たすうえで多大なる貢献をしてまいりました。医師剣道連盟の還暦を迎えるに当たって、来し方を振り返り、心機一転行く方を見据え、一層の発展を期したいものです。

スイスの教育家ペスタロッチ（1746－1827）が、「学問や芸術を教える場所は至る所にあるが、人間学を教える場は世界中何処にもない」と嘆いたそうであります。今、私たちは、「それは日本にある。人間形成を目指す日本の武道教育こそ人間教育の真髄である」と声を大にして言うことができます。本連盟の重要な使命は剣道を通じて、人間学を社会に発信して行くことではないでしょうか。

私が最初に本連盟と関りを持ったのは、昭和58年の第18回（大阪 大会委員長中村周吉郎先生）です。それまであまり関心がなかったのですが、20年振りの大阪での大会でもあり、お手伝いすることになりました。長野拓三先生が最も若い実行委員で、最も活発に動かれたことが印象に残っています。大阪医大へ赴任して日も浅く、稽古も碌にしていなかったので見学するのみでしたが、大阪の九段の先生を元立ちに並べ、その後大阪の重鎮なられた、池田勇治、西 善延両先生がまだ若く、端の方で稽古をされていたのを記憶しています。それからしばらくは、多忙にかまけて足が遠のいており、本格的に参加するようになったのは、平成12年の第35回広島大会（十河勝正大会長）からで、その時伊藤元明先生と組み合わされました。初対面でありましたが、大変気持ちよく立ち合えたことが、印象に残っております。

私が剣道を始めたのは昭和26年、高校1回生の時で、GHQ指令で禁じられていた学校剣道が、解禁される前でした。対日講和条約が締結されたので、間もなく学校で剣道ができるようになるとの情報を手にいれた先輩がおられ、剣道同好会を作ろうと入会希望者を募られました。中高一貫校でしたので、運動部に入りたい人はすでに入っており、集まったのは、全員初めてならば何とかついていけるのではないかと考えた、言わば運動部の落ちこぼれの集団でした。そんな私ですので、80歳半ばでまだ剣道続けているのは不思議な気が

します。当時「生涯剣道」など聞いたこともなく、お年寄りで剣道している方は、ほとんどプロの先生だったと思います。自分が80歳を超えて剣道をしている姿、七段で剣道をしている姿など、夢にも見ることはありませんでした。これも指導していただいた先生方や、素晴らしい剣道仲間にも恵まれたお蔭と改めて感謝しています。今では生活の一部になっており、昨年脳梗塞のため、完全失語の状態になったのですが、幸運なことに手足に麻痺はなく、喋れなくても剣道はできると安心した次第です。

剣道に対する考えは、年を重ねるとともに変わってくるものです。若いころは勝ちたい、負けると面白くない、あの人はやりにくい、あの人はやりたくないなどあったのですが、年取るにつれて勝てなくなって、かえって剣道が楽しくなり、今は誰とやっても楽しめるようになりました。「剣道は、命を捨てて切りかかってくる相手から、身を守る技術を基に発展してきたものであり、生か死かの厳しい状況の中で、生きなければならない真剣さを求めるものである」との先達の言葉があります。そのような厳しい状況に身を置いた、日頃の稽古の中で、美しい死に方を求める（美しく立派に打たれよう）、そのためには美しい生き方を求める（相手に心から「参った」と納得してもらおう一本を打とう）ことを、目的にしていますが、なかなか難しい。

## ● 広島 十河勝正

### 第17回全日本医師剣道大会の回想

昭和57年10月10日に第17回いし全日本剣道大会を開催させていただきました。私は38歳から息子に剣道を習わせようと思い、近くの剣道教室に連れて行きました。偶然に知り合いの先生がおられ、その先生から私に剣道をするように勧められて、息子よりも私の方が夢中に成って剣道の虜になってしまいました。その後県立体育館道場に稽古に行っていました。そこで、偶然にも、大祢廣伸会長が広島大学に手の整形外科の勉強に来られて広島体育館剣道場に稽古に来られていました。その時に初めてお会いしました。全日本医師剣道連盟の存在を知ったのは、その時で昭和51年だと思います。来年(昭和52年)下関で第12回の医師剣道大会が開催されますので参加されませんかと勧められました。下関大会に参加して生まれて始めて剣道の試合をしました。必死で試合をしました。1敗1引き分けでした。その後は毎年必ず医師大会に参加して、女房をビデオ撮影係として夫婦で参加しました。この頃は夫婦で参加するのは伊藤元明先生ご夫妻と私だけだった様に思います。その後、段々と夫婦と家族ずれの参加の先生方が増加したように思う。伊藤元明先生のご令室様が医師剣連の奥様方を集めてお茶会を開かれて皆様が大変喜ばれたのは印象的でした。第17回(昭和57年)広島大会の前年の静岡大会ではタイミング良く個人優勝させていただきました。この頃は一生懸命剣道の稽古に打ち込み大変な努力をしました。その努力が実り、生まれて始めて個人優勝をさせていただきました。広島大会はどうして引き受けたのかはきり分かりません。昭和52年に医療関係の剣道愛好家の剣道クラブ(広島医療剣道倶楽部)を創設したのが

支えになったように思います。広島県医師剣道連盟を創設し、幸い広島剣連の先生方が助けて頂きましたが、ほとんど一人で準備してきましたように思います。中倉清・石原忠美・大西友次・羽賀忠利先生と広島からは大森玄伯・中西康・浦本徹誠・熊本正・名越大賢先生羅等が参加して頂き羽賀先生と石原先生の日本剣道形・範士八段大柁一郎・教士七段椿田俊之・ゴードン・ワーナー・小倉肇先生による居合披露が行われました。全日本剣道連盟会長・大島功先生が本大会に来賓として参加していただきました。会場で広島名物もみじ饅頭と抹茶で皆さんをもてなしたのは大変好評でした。広島県剣連の皆様・広大医学部剣道・広島医療剣道倶楽部の皆さんや多くの他の皆さんの助けを得て製薬会社の MR に細かい番組や試合の組み合わせの事務的な協力を得て、広島キリンビール工場体育館(今は、工場はなくなりイオンモールに成っております)にて無事開催を終えました。60歳以上の部の個人戦は愛知の村瀬守男先生、49歳以下の部で大分の広瀬信道先生が優勝、49歳以下の部で岡山の小倉肇先生がそれぞれ優勝されました。

広島グランドホテル(今は中心部に建て替え、リーガロイヤルホテルとなり二回目の広島医師剣道大会の懇親会・宿泊とした)に懇親の場を移し和気あいあいと杯を交わし正に楽しい交剣知愛でした。翌日は宮島観光で更に親睦を深められました。



第35回全日本医師剣道大会

第17回大会の18年後に2回目の医師剣道大会を開催しました。ホテルのすぐ傍に広島県立体育館が新築され武道場も新設されました。広島医療剣道倶楽部も創設から25年経過して、皆さんのお陰で充実期を迎えていましたので、医師剣連からの要望もあり仲間と相談し

てもう一度開催することに成りました。この頃、広島の大森玄伯範士から国際社会人剣道クラブ中国地区クラブの創設の依頼を頼まれ仕事も忙しかったのですが剣道が好きで引き受けてしまいました。忙しくしたお陰で多くの方々から協力を得ることが出来ました。剣道仲間と相談して前回とは違って一人で準備するのではなく、皆さんにそれぞれ役目を分担して計画を練ることに成りました。大会会場も新設された県立武道場で宿泊・懇親会場となったホテルも徒歩5分の所にあり開催立地条件としては非常に恵まれていました。開催予定の広島大会の前が東京医大開催の東京大会でした。その時に私が恩師と自称している(鹿児島の有満範士からの進言で)中倉清範士が広島大会は来年でしたかね?と尋ねられました。頭脳明晰な中倉先生からこの様に尋ねられて内心びっくりしました。草葉の陰から応援していただいたと感謝しております。ハワイからはハワイ医師剣道クラブの赤城・渡慶次・黒沢・猫本先生等が遠路はるばるホノルルと姉妹都市の広島大会に参加して頂き大会を盛り上げて頂いたと感謝しております。岡山からは石原忠美範士にご参加いただき前日の稽古会の講評が大変好評でした。模範試合は熊本正(広島)ー有満政明(鹿児島)、後藤清光(大分)ー名越大賢(広島)、湯村正仁(鳥取)ー松井明(岡山)、梯正治(東京)ー作道正夫(大阪)等の教士八段の先生によって格調の高い試合が行われました。92歳の大祢一郎先生、同じく同年配の笹原登先生の剣道に対する情熱には頭があがりません。瀬尾憲司大会副会長の閉会の辞で大会は終わりました。皆様からの評価を耳にすると大会は成功裡に終わったと関係者一同喜びました。この大会では医療剣クラブの皆さんがそれぞれの立場で協力を頂きました。懇親会のアトラクションは現広島医療剣道倶楽部会長・中西保二先生が計画してくれました。大阪に移られた倉都先生には資金面の協力を頂き運営がスムーズに行き感謝しております。私は82歳ですので、恐らく私が3回目の大会を開催することはないと思います。広島医療剣道倶楽部の若い先生が手を挙げていただける事を願っております。

## ●堀江 貴 (島根県、堀江耳鼻咽喉科医院)

### わが剣道人生と西医体

私が剣道を始めたのは小学校5年生で、同級生が20人の過疎の村(当時人口3000人、島根県旧吉田村)でした。最初の指導者は駐在所の警察官の方でした。中学になりバスケット部に入部しましたが、1年の2学期にはバスケット部が人数不足から廃部となり、残った唯一の剣道部に入り直し、無邪気に、それなりに稽古していました。高校は県内随一の進学校である松江北高に進みました。文武両道が合言葉で当然のごとく剣道部に入部しますが当時、剣道部は人気がなく3年生3名で2年生はいませんでした。1年の夏が終り、3年生が部活動を卒業すると我々1年生男子5名と女子2名の少数となりました。そこで指導していただいたのが当時24歳、23歳の太西正悦、和幸兄弟先生でした。高校の先輩で、共に高校、大学で名を馳せた猛者で少数精鋭、徹底的にしごかれました突かれても突かれても前に出る稽古でした。高校生ながら島根県警機動隊の稽古にも参加させていただき「負けじ魂」

を磨くことができました。3年次には沖縄特別国体(昭和48年本土復帰記念大会)に島根県代表として出場しました。1回戦で開催の沖縄県と対戦しましたが、残念ながら敗退しました。優勝は鹿児島県だったと記憶しています。一浪して鳥取大学に入学し、本学の剣道部に入ります。体育会剣道部はどこでも当時はスパルタで理不尽、上級生の言うことは絶対の世界でした。授業中でも、雨が降り出すと朝稽古で濡れた先輩の稽古着を取り込むため部室に向かったものです。高校時代に少々のことではへこたれない精神を学び、「元気のいいのが入った」と1年生からレギュラーで使ってもらいました。鳥大は医進課程の2年間は鳥取、専門課程は90Km離れた米子での生活でした。米子に移ると部活動は医学部のみとなりガラッと雰囲気が変わります。稽古日も週3回となり、和気藹々、個性的で才能あふれる先輩の存在が眩しく映りました。秋の学祭では剣道部が「白波」という芋焼酎の模擬店を出店し、コンサートでは先輩が作詞作曲したオリジナル曲を熱唱、冬には大山でスキー合宿と正に青春を謳歌しました。専門課程1年次には鳥取県代表で長野国体に出場しました。1回戦で奈良県と対戦、相手は松田勇人選手(国士舘大出、現在八段)、レベルの差を実感しつつ敗退しました。学生時代最大のイベントは西医体主管(昭和55年)でした。昭和51年には京都での大会にて个性的で素晴らしい先輩方とともに団体優勝を飾りました。鳥大先輩の故横関保彦先生に大会1日終了後ビアガーデンで歓待していただき、結束力を強め、勝ち進むことができました。優しい笑顔が忘れられません。当時は熊本大学が特段に強く、西医体の主管が決定してから部室には「打倒、熊大」を掲げ日々稽古しました。今のようにパソコンもなく、大会運営も部員が手分けして手探り、手作りで行いました。剣道人口の少ない県にあって、審判の手配については米子市剣道連盟を中心に行っていただき感謝の気持ちでいっぱいです。当時の連盟会長は故中曾栄吾先生で鳥大医学部剣道部師範を長年勤めていただきました。背筋が伸び、70代でも足さばきが滑らかで、次々と技が繰り出され、驚嘆したものです。先生によると「旧制中学時代、徹底的に打ち込みをさせられたおかげかな」とのことでした。

私は男ばかり5人兄弟の4男坊です。父親は戦時中満州で従軍し、シベリア抑留を経て帰還しました。村役場に奉職、48歳で吉田村村長に当選し3期務めました。村長退任後肺がん侵され療養していましたが昭和55年には容態が悪化し、西医体の準備、稽古授業、実習をしつつ週末には60Km離れた病院に見舞う生活をしていました。しかし治療の甲斐なく、大会の前月に62歳で逝去しました。大会では団体準優勝、個人戦では前年覇者の熊大、諸木浩一選手と2年連続の対決となり、何とか優勝を遂げることができました。嵐のような数か月でしたが、天国から父親が応援してくれたと今でも思っています。今でも諸木先生とは全国医師剣道大会で剣を交わし、旧交を温めています。

卒業後は大学での臨床に明け暮れ、年に数回しか稽古ができない時期が続きました。同世代でいち早く医師剣道大会に参加していたのが、岡山大学出身の故渡辺博義先生でした。医者立場から剣道界に貢献する道を模索する姿勢に憧憬の念を抱いていましたが、50歳を前に夭折され、残念でなりません。医師剣道大会では故大柁一郎先生はじめ並外れた才能に努力を重ねて、大会に臨まれる先生方の姿勢に驚嘆しています。今後とも若い世代を取り込んで益々発展することを祈念します。



- 1) S51 西医体優勝の年、OB 総会での現役、OB の集合写真
- 2) 横関先生と・・・右から 2 人目が横関先生です。
- 3) S55 西医体主管年の OB 総会時の現役、OB の集合写真
- 4) 渡辺先生と・・・右から 2 人目が渡邊先生

●昭和大学 大西司

昭和 33 年 11 月に弘法大師の故郷、香川県善通寺で生まれました。剣道が大好きで小学生の時から一人で素振りをしていました。中学に剣道部がなかったので、大学生になってようやく本格的に剣道を始めました。稽古を補うために音羽の野間道場入門して朝稽古に通いました。大学卒業まで大塚の学生修道院という寮に入り、6時半に起床、付属の道場で毎朝 10 分ほど肥田式強健術という武道の要素を取り入れた体操を習いました。院長の川合義信先生が強健術は剣道にも応用できると木刀で打ち込まれた姿の美しさが今も目に焼き付いています。「竹刀を真剣と使って使うように。」と教わりました。

昭和大学剣道部を卒業して無事医師となり 33 年が経ちました。学生時代から現会長の大柵廣伸先生、お父様の大柵一郎先生にも手ほどきを受けました。医師剣道大会に参加するようになり、大学先輩の清水浩二先生はもちろんですが、浜松の笠松紀雄先生、長崎の阿保貴



章先生には特に親しくして頂きました。不思議な出会いは鹿児島の諸木浩一先生です。鹿児島の病院に出張していた23年前、熊大剣道部出身の先生がおられました。剣道が大好きですという、鹿児島市立病院の脳外科に諸木という後輩がいるから訪ねてみなさいと言われてきました。行ってみると、長身の先生が白衣姿で出てこられました。剣道の話をしてお別れしました。その後10年以上も経って医師剣道大会で再開した時はとても嬉しかったです。毎回稽古をお願いするようにはしていますが、一度だけ試合で立ち会いました。真剣に竹刀を交え一本だけ面を全力で打ち込みました。ここ何年かは阿保先生にも励まされ、連続して参加しています。おかげさまで、全国にたくさんの剣友ができました。京都の50回大会では偶然、同郷、香川県の伊藤保憲先生と同室させて頂きました。今年の東京大会では、韓国の医師剣道連盟も参加され、副会長の金億先生と知り合いました。今も親しくさせて頂いています。様々な国際間の事情がある中で、世界国を超えた付き合いができるのは医学と剣道であると思います。これからもできるだけ参加させていただきます。今後とも「交剣知愛」よろしくお願い致します。

## ●茨城県 大祢 廣伸

### 父大祢一郎の剣道に対する眩き

父大祢一郎は大阪出身ですが、第二次世界大戦中茨城県土浦市にある霞ヶ浦海軍病院任官中終戦を迎え土浦に在住しました。晩年地元の稽古会毎に剣道に対する思いを文章にして参加者に配りました。その数は約参百を数えます。その中から三つの文章をご紹介します。

眩き その壺

剣道の『三つの位』について

**重要**

剣道の『三つの位』と云う言葉を知っていますか？剣道では難しい事が多いことは皆さん経験済みだと思います。心の問題と技術の問題の2つに分けて、今日は技術を考えましょう。姿勢と構えが出来たら打つと云う動作を研究しましょう。

打つ為には先ず「目」ですね。相手を良く観察しスキを発見しましょう。打つには先ず「足」ですね。即ち体さばき・踏み込みです。次は「竹刀の持ち方」でしょう。第3に「打ち込み」です。

今日はこの「打ち込み」について考えたいと思います。昔からこの打ち込みによって相手を斃すのですから一番重要な事です。今日の剣道では先ず当たる事を考えますね。“即ち悪口に、今の剣道はあてっこ剣道だと云われるわけです”これを幾ら上手に当てても試合ならば旗も上がるでしょう。即ち五段以下ならば許されもするでしょうが六段以上には上がりません。某氏曰く“七段は打って居る間は合格しません。打たれる様になると合格しますよ”と。私もそうだと思います。即ち表現は悪いかも知れませんが、打って当てている間は駄目です。剣道形の様に出させて勝つ事を覚えるのです。即ち受ケツパナシではいけません。

受けるや否や反撃する事を勉強しましょう。

そこで打ち方！と云う問題になります。一口で云うと火が出る様な打ちが大切です。その為には打ち下ろす打ち方にあります。スリの様な早業は駄目です。ゆっくり下ろしてピタリと止める事が大切で、特に残心が大切である事を忘れないように。そうすると六段でも七段でも八段でも合格します。

\*火の出る打ちを昔から『石火の位』と云いますが、出来る為には速くては駄目で‘しずく’が落ちる様な速さで打下ろす事が必要です。これが極意です。

眩き その式

「打たずに打つ」これが極意かな？

平成4年3月11日

**重要**

「打たずに打つ」これが極意かな？こんな事を考えている。毎月一回日本武道館で全国的な合同稽古会が行われている。今月は去る九日（月）に稽古会があって出席した。九段の大野操一郎先生そして中倉清先生その他五十名位八段以上の先生が元立ちとなって稽古があり、最後15分間は教士八段の先生が範士の先生に稽古を戴く事になっている。九日の日には岩崎八段が掛かってきた。

自分の稽古も大切であるが、先生達の稽古振りを見学することは特に大切ではないかと思う。大先生の稽古を見学して考えたことが表題の「打たずに打つ」と云う事である。打たずに打つことなんだな・・・と。もう少し説明を加えると「昔から大業より小業に至る」といわれていて、初心の間（決まりは無いが三～四段まで）は大業で十分修行する。七段までは中業、八段以上は小業。この小業を突き詰めれば無業でしょう。「無業で打つ」これは外から見れば無業であるが内面的な業で打つのである。丁度人間の心臓の様に自分では意識しないが全身に血液を送って休まないのと同じである。

新影（陰）流の流祖は上泉伊勢守。二代は数名いるがその中の一人奥山休賀斎、三代小笠原源信斎長治（この人は中国に渡って和寇、まあ海賊だが上陸して暴れ回った）この弟子即ち四代になる紙谷伝心斎頼春（神谷とも書く）この人は刀を振り翳しただけで手洗いに浮かした紙を半分に切ったといわれる。

これだ！

眩き その参

満90歳となって何を覚えたか

平成10年5月16日

**秘**

よく先生達が「ためて打て」と申されます。即ち早く打たない事です。ためて置いて（スローに打ち下ろして）打つ（当たる）瞬間に力一杯速く打つのです。そうでないと強く打てないのです。その時もう一つ秘密があるのです。

それを今日皆様に披露します。今述べた事を露の位と申します。現代の人は試合に勝つ事を目標にして居ますが、昔の人は実際に相手を死に至らしめる又は戦闘不能におとし入れる事が目的です。即切れなければ無効です。

それで各流派を見ますと、飯篠長威斎は香取神宮の梅の木を三年間毎日叩いて枯らしたと云われて居ます。即どう打てば効果の有る打ちになるか？を実験して「一太刀」を悟ったと考えられます。その流れをくむ自顕流も立木を求めて居ます。そして「掌中力あり用いざれば空也」と喝破しました。塚原ト伝も子供に伝えて居なかったと見えて臨終に際し息子に「我が流に一つ太刀（ひとつだち）の秘太刀があるがこれは伊勢の国守畠山に伝えてあるから行って教われと云い残したと伝えられて居ます（現在ではどう云う太刀かわからないと現存の門弟は申して居ます）」何れも掌中の握る力を重視した太刀です。

一口に云えば「刀の柄をしっかりと持つ事」ですが、そこに秘密が在るのです。即「くそ握り」に力一杯握った手は駄目であって宮本武蔵は是を「居付いた手」と申して「居付くは死んだ手だ」と注意して居ます。居付かないでしっかり強く持った手を活きた手と申して居ます。百練自得しかありません。この打ちを持田先生に見ました。見た当時はアレで良いのか？と思いました。解かる迄に30年かかりました。

## 第25回 全日本医師剣道大会



打太刀 範士8段大祢一郎 仕太刀 教士6段大祢廣伸



期日 平成2年9月23日  
会場 つくば市第3市民センター

主催 全日本医師剣道連盟  
主管 茨城県医師剣道連盟

### ●岩手県 川上 格

#### リバ剣のススメ

「リバ剣」（リバイバル剣士）という言葉が広まって久しい。私もその一人ではあるが、多くの先生方は医師剣道家としてリバ剣の道を歩み、「医剣一如」を貫きながら、剣道を続ける意義、効果について熟知し実感されている事と思います。最近私も50歳を前に未熟ながら自分なりの剣道を続ける意義、効果について考えてみた。

まず1つ目は健康剣道としての効果である。38歳の時に地元に戻り父の医院を継承したが、気が付けば毎日の診療に追われ、孤独感とともに徐々に増える仕事をこなすだけの

日々に悶々としていた。41歳になった頃、地元剣道会の恩師からお誘いがあり17年ぶりに竹刀を握る事となった。リバ剣の始まりである。再開当初は道場へ運ぶ足取りが重かった。というのも昔のイメージで打突しても思うように技が決まらず、最後には完膚無きまで打ちのめされ稽古のたびに敗北感や虚無感のようなものを感じていた。ブランクとはこんなにも大きいものか、次第にそう思うようになると剣道再開の熱意は薄れ、たった週一回の稽古でさえ今日は風邪気味、今日は腰が痛いなどと自分自身で何かと理由をつけて稽古を休みがちになっていた。それでも細々と剣道が続いていたある時、それは稽古翌日であったが、診療をしながら自分の体が非常に軽い感覚になっていることに気付いた。筋肉痛はあるがむしろ心地のいい疲労感である。内視鏡検査をやっているも手指の感覚がファイバーに上手く伝わるような感覚で非常に集中して検査を行っていた。また診察の際も患者さんとの会話が弾み普段に増してコミュニケーションが取れていると実感した。スポーツ全般に仕事のモチベーションを上げる効果はあると思うが、剣道は集中力の鍛錬や呼吸法、発声法など様々な効果があり、体の健康はもとより心の健康（前向きさ）も向上させてくれるのだと考えている。

2つ目は自分自身や物事を客観的に捉え考えるようになったことである。剣道の悪癖は小さい頃から体に染み付いているため一朝一夕には改善しない。その悪癖を修正するため稽古に励んでいるのだが、その際自分をいかに客観視し考察できるかが重要と考えている。先日「身体知性」（佐藤友亮著）という本を読んだ。「身体」と「知性（感情）」のつながりを記した本で共感する部分が多かったのだが、著者は武道の稽古を行う意義として「個」の自我意識を縮小させることがパフォーマンスの向上に不可欠であるということ述べている。剣道の稽古は他人と自分の垣根を低くして心と身体によるコミュニケーションを行うため、自分の感情をコントロールする力（感情の平坦化）と客観性が身につく効果があるらしい。稽古を通じ身体を介した感情形成を積み重ねることで「医剣一如」を実践する下地が出来るのだろう。最近剣道を良くしようと考えると考えるほど、診療についても今のままでいいのか熟考するようになり、視野を広げ、柔軟な考えを持つことの重要性について気付かされている。

リバ剣当初は剣道が続けてきた方々に対し引け目を感じていたが、今ではむしろブランクがあったことを前向きに考え、以前とは違った目線で剣道捉えることができている。リバ剣もなかなか良いものだと思う。また現在剣道が続けられている全日本医師剣道大会を通して多くの先生方との繋がりができたことが大きいと感じている。これからも多くの医師剣道家が医剣一如を志し全日本医師剣道連盟が益々発展しますよう心から願っています。これからもどうぞよろしくお願い致します。





●岩手県 歯科医師 安達孝二

私は第53回いわて北上大会で大会実行委員・選手として全日本医師剣道大会に初参加させていただきました。交剣知愛を体感できたことは、素晴らしい経験となりました。ただただ感謝です。今や家族、ペットを巻き込み剣道を楽しんでおります。



●千葉県 末吉孝一郎

近況報告

順天堂大学浦安病院救急診療科の末吉と申します。この度は60周年おめでとうございます。私は2017年4月よりハーバード大学へ留学する機会を得ました。留学の目的は勿論研究ですが、ボストンで剣道をするのも目的の一つで、渡米前よりボストンの剣道事情を十分にリサーチし万全の準備で渡米いたしました。

ボストンには秀風会とボストン剣道協会の二つの大きな道場があり、またハーバード大学、ボストン大学にも剣道部があり、多くの人々が熱心に稽古に励んでいます。私はマサチューセッツ州で初めての七段ということで、熱烈な歓迎を受けました。私が所属した秀風会には40名ほどの会員がおり子供から大人まで熱心に稽古を続けています。特に大人から剣道を始めの方が多く、その熱心さは日本人以上です。

稽古は週2回、大人から子供まで、また初心者から高段者までが同時に稽古します。剣道を始めたきっかけは様々ですが、剣道における礼法に皆とても気を配っており、竹刀を床に置く際にも細心の注意を払っているのがとても印象的でした。私は教える立場にはありましたが、逆に多くのことを学ばせていただきました。2年3か月の滞在ではありましたが、ボストンで剣道を指導できたことは一生の財産になりました。もしボストンへ行かれる機会がございましたら是非防具を持参されることをお勧めいたします。きっと剣道をこよなく愛す素晴らしい仲間と素晴らしい稽古ができます！！



●鳥取 湯村 正仁

美しい剣道

美しい剣道は 誰が見ても美しい  
 美しい剣道は 理にかなっている  
 美しい剣道は 相手との協調の結果である  
 美しい剣道は 不断の研鑽と鍛錬の結果である  
 美しい剣道は みんなの憧れである  
 美しい剣道は 誰にでもできる  
 美しい剣道には 無理がない  
 美しい剣道には 無駄がない  
 美しい剣道には 無法がない

美しい剣道では 心が揺れない  
 美しい剣道では 自然と調和した動きがある  
 美しい剣道では 心身の停滞がない  
 美しい剣道では 視線が動かない  
 美しい剣道では どこにも力みがない



美しい剣道は誰にとっても憧れであり、目標である。

ここに至る一番の近道は「基本に徹した剣道」を心がけることである。この目標をしっかりと見つめて外さないことである。試合に勝ちたい！ 上の段級位を取りたい！ いろいろ誘惑は多いが、これらの迷いが道を複雑にして基本から外れるもととなる。美しい剣道は基本に則った剣道で構成される。

基本とは何を基準とすればよいのか？

剣道の誕生以来、過去の剣人が命を的に作りあげて来た現在の剣道であり、今なお過去の諸流派の流れがあって、指導者によりその考えかたには差がある。しかし、最も基本的な事項には大差はないと考える。財全日本剣道連盟は基本について徹底して統一を図っているように思える。その理由は、八段昇段審査では全剣連が剣道講習会において指導する内容から外れたものは合格しないということである。過去の合格者にはこの点かなりのばらつきがあり、昔の流派の名残がみられた。現在ではそれは見逃されない。

「守破離」から考えると、八段合格をもって「守」の段階の卒業と考えてもよいのではなかろうか。この先の「破離」に至って個々の剣道の美しさが表現されるようになる。高段者の立ち合いはそのような目で見てほしいと思う。

私は範士の称号を戴いてすでに 20 年を経過するが、いまでも時々、基本と「日本剣道形」の指導書を紐解く。その度ごとに新たな着眼点を発見することができる。それに従って自分の剣道を見直し、指導法を工夫する。剣道雑誌で見る写真などは間違った方向に進む元となるように感じる。何が正しいのか？ 常に基本書に立ち返ってみることである。

## ●新潟市医師会理事 荻荘 則幸

天皇、皇后両陛下をお迎えして（行幸啓）

（令和元年 9 月 17 日 新潟県障害者リハビリテーションセンターにて）

この原稿を書いている令和元年 10 月 22 日、皇居・宮殿「松の間」における即位礼正殿の儀が平安絵巻さながらに挙行されています。高御座に上った天皇陛下、御帳台に上がられた十二単を身につけた皇后さまが明るく照らし出される様子を見るにつけ、感慨がひとしお湧いてきます。

令和元年 9 月 17 日（火曜日）に天皇・皇后両陛下を私が理事長を務める社会福祉法人“豊潤舎”で運営させて頂いている“新潟県障害者リハビリテーションセンター”にお迎えし、センター内を御案内するという光栄な大役を仰せつかいました。天皇、皇后両陛下は新潟市内の朱鷺メッセで 9 月 16 日に開催された「国民文化祭」「全国障害者芸術・文化祭」の開会式出席のために新潟県を訪問し、その翌日に当センターにお越し下さいました。（天皇陛下のお出ましを“行幸”、皇后陛下のお出ましを“幸啓”、両陛下のお出ましを“行幸啓”）

当センターはその前身が昭和 25 年に新潟市川岸町（新潟県立がんセンター新潟病院の近く）に設置された身体障害者、四肢・肢体不自由の方々のためのリハビリ（更生）施設“新潟県身体障害者更生指導所”でした。当時は戦後間もないため、手足の切断の方々や、ポリオ等の感染症による後遺症の方々がたくさん利用されていました。

平成 9 年 4 月に現在の JR 亀田駅東口、新潟ふれ愛プラザ内に移転され、さらに平成 18 年からは民間活力の利用による、指定管理者制度のもと、民営に移行されました。名称も時の泉田知事に提案し“新潟県障害者リハビリテーションセンター”と改名させて頂き、社会福祉法人“豊潤舎”で委託を受けました。

当センターは、現在 52 名の障がい者の方々利用されています。時代の移り変わりとともに利用者の疾病構造もかわり、利用者の多くが脳血管障害（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）、頭部外傷（交通事故・労災事故）、神経難病、高次脳機能障害等々の方々で、平均年齢は 43 歳と、人生の中で一番大切な年代の方々が多いです。利用されている皆様の目標は就労（復職）が大きな目標とされています。“当センター”は通所でも、また入所でも利用でき、新潟県内の各自治体が窓口になっています。リハビリ訓練の内容は多岐に渡っています。理学療法士（PT）、作業療法士（OT）、言語聴覚士（ST）による医学的なりハビリ（機能訓練）から、在宅生活のための基本動作の習得（生活訓練）、また、社会復帰のための就労移行支援等を行っています。

今回の行幸啓に関して、新潟県庁から 6 月に連絡を頂き、7 月中旬には第 1 回の予行が実施されました。宮内庁、皇宮警察、警察庁、県警本部、県庁秘書課、県庁障害福祉課等々の担当が来所され、細かなチェックを受けながら、その後、当日の朝まで幾度となく予行は繰り返されました。予行を繰り返す中で天皇陛下の“侍従職”の方々とは接する機会が多々ありました。奈良時代からの約束ごとと慣例の世界に生きる侍従の方々はとても聡明（私がお話しした方は東京大学卒の官僚でした）で、てきぱきとしていました。予行を取り仕切っているのは若い侍従の方でした。毎月の様に日本全国に出かけて、完璧な分刻みのスケジュールを作り上げ、また、事故が起きないように細心の注意を払っていました。

行幸啓に際し、私達は、履歴書を提出していましたが、当日の 3 週間前と 1 週間前の 2 回、お近くで接する職員も含め、健康調査票の提出を求められました。県警本部との警備の打ち合わせや、現場の確認作業は 1 か月前からは連日のように行われ、警備の物々しさを実感いたしました。1 週間前には新潟県知事（花角英世氏）が直接来所され、当日の動線と一緒に確認させて頂きました。予行はさらに 2 日前と当日の早朝からも行われました。最後の最後まで分刻みのスケジュールを安全、無事に遂行することが求められました。

両陛下の“御着”（到着のこと）の 1 時間位前に侍従の方から天皇陛下よりのお土産ですと風月堂の“ゴルフ”を頂きました。その際の侍従の方の格式高い、古式ゆかしき言葉での“口上”は私には全く理解できませんでしたが、最後に現代語で天皇陛下の御着の際にはきちんと御礼の言葉を述べるように言われました。思わず、私は普通の日本語で良いのですか？と尋ねました。

令和元年9月17日午前9時21分（時間は正確です）に秋晴れの中、黒のトヨタセンチュリー（普通のナンバープレートはなく、その代わりに金色の菊の御紋章がついていました）が皇宮警察と新潟県警察の白バイ隊に先導され正面玄関に到着、車を降りた両陛下は玄関の周りの約100名の一般奉迎の方々に丁寧に笑顔で手を振った後に、施設内に向かわれました。この時に玄関先でお迎えした方々は、加藤勝信厚生労働大臣、宮田亮平文化庁長官、藤山育郎新潟県福祉保健部長、そして私でした。侍従に言われたように天皇陛下に御礼の言葉を述べさせて頂きましたが、何をどう言ったかは緊張しており記憶がなく、ただ両陛下の暖かな笑顔だけが脳裏に残っています。

両陛下は二階の御休憩室にてしばらく休息後、陛下は上着を脱ぎ、Yシャツ姿で一階のリハビリ室にお出ましになられました。（この休憩室にはお水、お茶、銘柄が指定されたスポーツドリンクが用意されていました。）リハビリ室の入り口で両陛下をお迎えし、施設の変遷、現在の活動内容について歩きながら説明させて頂き、当センター利用者の障がいを持つ方々のリハビリを見て頂きました。

直接、両陛下がリハビリの現場でお声掛けを頂いた方は40代から50代の男性の皆さんで脳血管障害の後遺症で手足の不自由な方々でした。動かなくなった前腕・手に電気刺激装置で刺激を与え、物を把持するリハビリを行う方、半身が不自由でも仕分け作業の訓練を行ない公務員を目指す方や、自動車免許の更新のために障がいを持つ方々専用のソフトを組み込んだドライブシミュレーターを使用し、手足が不自由でも車の運転に復帰を目指す方々を両陛下にご覧頂きました。その際にいろいろな御質問をなされたり、やさしい励ましのお言葉をかけられたりされていました。ドライブシミュレーターの所では、皇后陛下は御自身が運転をされていた20年前のお話しをされていました。私のすぐ背後には、分刻みのスケジュール通りに進むようにタイムキーパーの職員がぴたりとついていました。さらにその職員の後ろには宮内庁の侍従が時計に目を光らせていました。後半になると、さかんに私の背後のタイムキーパーから次に進むようにと合図がくる中で、皇后様はたくさんのお質問をされていました。リハビリ室での御視察のあと、リハビリ室の出口で両陛下は私にねぎらいのお言葉をかけて下さいました。（まさか、3人で立ち話しをするなんて・・・！！）

私は今、誰とお話しをしているのかと夢見心地でした。とにかく体全体からかもし出されるロイヤルファミリーのオーラは言葉では表現できないものでした。日本国、日本国民の全体の象徴である天皇陛下に恐れ多くも私ごときが・・・という至福の時間でした。

その後、センター内の体育館で開催されている障がい者による“大凧作り”を御視察後、当センターを御出発（御発）されました。御発の際にもお見送りしていた約20名の車椅子の障がい者1人1人にお二人で優し



く中腰になりながらお言葉をかけていただきました。今回の行幸啓で経験させて頂いた、両陛下の気品あふれる自然体の所作とともに、そのお人柄を感じさせる暖かさ、親しみやすさ、さらに飾らない平素なお言葉を職員、利用者一同、感動と感謝の念を持って末永く忘れることなく大切にしていきたいと思えます。



(新潟県から写真提供)

●全日本歯科医師剣道連盟理事 岡山 秋田和俊

全日本医師道連盟 60 周年に寄せて。

私が医師剣道大会に初めて参加させて頂いたのは平成 4 年（高松市）第 27 回大会でした。早いもので 27 年の時が流れ、これまで会員の先生方には大変お世話になり心より御礼申し上げます。

様々な思い出の中でも生涯剣道を貫かれた笹原登先生と大称一郎先生の立ち合いは、今も懐かしく蘇ってきます。これからも本大会が益々御発展されることを祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。





●慈恵医大 S43年卒 浜 弘毅

全日医剣道連創立60周年に思いを馳せて  
創立60周年誠におめでとうございます。

～出会い～

全日本医師剣道連盟の存在を知ったのは、昭和54年のことであった。ちょうど医学会総会を慈恵医大の当時の学長 樋口 一成先生が会頭をされた折、関連行事の剣道大会を慈恵医大の剣道部OBがお世話をさせていただいた時で、その時私は37歳であった。

翌々年の静岡大会から、何をおいても年一回のこの大会に照準を合わせ参加してきた。お陰で北は北海道から南は沖縄まで毎年いろいろな地を訪れ、多くの剣友と出会い交剣知愛を楽しむことが出来た。

～昔の思い出～

最近、ちょっと年を重ねすぎたせいか、その気がなくなってしまったのか残念なことだが、まだ若かりし頃、大会当日の剣道の楽しみはそれとして、前夜の懇親会が終わった後にホテル内の二次会ではなく皆で夜の街に繰り出すのが楽しみの一つであり、一献傾けながら“剣道談義”に花を咲かせたものであった。

あの頃、関東と関西の若手？が集まり自然発生的に“若手会”というものが出来 剣道談義の後は、カラオケ東西対抗をやったものだった。

京都に今は亡き横関兄弟がおり、特に弟さんは歌が上手くフランク永井ばりの低音の魅力にしびれたものだった。若手会の会長に大阪の佐藤先生がおり、我々より大分年が上だったのだがいつも「なんで年寄の俺が若手会の会長なんだ」と嬉しそうに言っていたのが想い出される。先生も歌が好きで堀内孝雄の“影法師”を歌っていたのを思い出す。カラオケが終わると減った腹を満たすため夜中の食べ歩きをやった。鳥取の大会だったか、岡山の湯村先生がバリバリの頃（今もバリバリだが…）先生が学生の頃世話になった食堂のオバチャンのところへ行こうと最後まで残った数人でラーメンか何か食べさせてもらってホテルへ戻ったら朝5時だった。ほとんど寝る間もなく大会会場へ行ったことを覚えている。そんな事が平気で出来た頃が懐かしい。

～大会当日の思い出～

かなり昔になるかも知れないが、私が初めて参加した頃は、午前中に立合が1回、昼食をとり午後に立合が1回。その他は剣道家の高段者の先生との稽古、医師剣連の先輩との稽古、1年ぶりに会う同年輩との稽古が主だった。1回の立合に重みがあり、良い立合が出来るように1年間精進した。勝った負けたではなく、お互いに良い立合が出来た時は、本当に嬉しかった。

今のように試合というものはほとんど無かった。たまに主催県の意向で個人戦トーナメントが組まれたこともあったが稀のことだった。何かゆったりと剣道の1日が流れていたように記憶している。

「争心あれば壮心なし」とか「身体に関せず、精神の優者が真の優者である」という古人の教えがある。しかし、いつの頃からか時代の流れでもあるのか、少年剣道の世界もやはり、医師剣道大会の場に於いても、最近では試合が多くなってきている。立合も審査形式とってABCDで続けて2つの立合をする事が多い。また、地区別団体戦、個人戦、東西対抗、年代別等とにかく試合が多く1日中試合をやっているような気がする。若い人はやはり試合に魅力を感じるのであるだろうか？試合が好きな人が多くなったのか…？昔の医師剣道大会の良き雰囲気を感じたものとしては昔が懐かしく年1回会う剣友との「稽古」が楽しみであった。昔に戻せとはいわないが主催される方にそんな大会の一考も期待したいものである。

～今思うこと～

かなり前の事であるが、東京での大会の懇親会の折、森島健男先生から「浜さん、明日の稽古では、一本も打つな、相手の剣筋を見きわめよ」というようなことを指導された。当日先生は稽古を横で見られていたが、相手の攻めに動じると剣先がぶれて打たれる。不動という事がいかに難しいかを知り、打たれてもよいから動じない心を鍛えようと稽古してきた。

武道の武という字を分解すると〔 戈 と 止 〕、〔 戈を止める 〕という意味で武道は自分の身を守る道と考えている。実際、相手と真剣を抜き合わせた時、相手が切りかかってきたら、この時は自分の身を守らねばならないから、それだけの力は持っていなければならぬが、相手が切つてこないのに自分から相手を殺生しに行くことはないと考えている。もっと言えば切りあいをしなくても、相手に刀をひかせるだけの「気」を持っていたら素晴らしいと思う。切り合いをせずに済めばお互いに傷つくこともなく結構なことであると思う。そんなことを考え生涯剣道の道を歩いている。

故 宮地 誠 範士八段先生（慈恵医大の師範でもあった）が、つねづね言われていたことは

『医者たる者、打って堂々、打たれて堂々、王者の剣であれ！』と。

最後に、これからの全日本医師剣道連盟の永遠の発展を期して擱筆す。

## 交剣知愛

勤務医定年直前の現在まで剣道を続けていることを、若いときの自分は予想していただろうかと、ふと思うときがあります。痛い・臭い・苦しい稽古を投げ出すのが嫌で意地のみで続けていた中学生時代。その後、試合で勝つという一つの目標のために、部活動の仲間との稽古による修練をしていた学生時代でした。当時は意識をしていなかったこの「交剣知愛」という精神は、その時事実上始まっており、社会人となったその後も「素晴らしい仲間」との絆を堅持し、また更に新たな輪を作り続け、自分の人生に深く大きな影響を及ぼしてきたと思われまます。

医業は世界が狭いということによく言われていますが、私が剣道を再開したこの20数年、通った市剣道連盟の道場や警察の道場で様々な方々との出会いがあります。前者の道場は、教師、企業、公務員、自営など多職種の剣士との交剣を通じた交流です。後者の警察に関しては、たまたま当地へ警察署長で赴任された大学時代の先輩に電話で直接お誘いを受け日曜の稽古会へ参加、警察関係の猛者剣士に日々勉強させて頂いております。稽古や稽古後を通じて剣士の皆様の別の世界に触れさせて頂き、社会人としても勉強させて頂いております。

剣道家の皆様におかれましては、自身の剣道に関する色々な課題を認知し、その克服に向けて稽古での苦闘が長い期間続いていると思われまます。私の数年の課題は、左右の足の前後幅、左踵の上げ方、左膝かがみの張り方、腰の張り方で、それぞれお互い連動して成り立つ構えの問題ですが、何が自分にとって最も適した構えかとの試行錯誤は、死ぬまで続きそうな気配です。2019年9月全日本剣道東西対抗が私のいる浜松で開催され、関わりから救護班長を仰せつかりました。若い剣士が主流となっている全日本剣道選手権と異なり、「各年齢層」のトップ剣士によるプライドを掛けた引き分け無しの真剣試合を、コート脇間近に大変興味深く観戦しました。構えや足さばきをずっと見つめていました。若年齢層の剣士の足幅が広く、それに比べて8段クラスの足幅が狭く（これまで教えられ教えている基本通り）立ち姿が凛として美しかったことが最も大きな印象でした。その大会前日、通っている道場の朝稽古に、日本語の話せない韓国の剣士がインターネットでこの稽古を調べ出して突然タクシーで参加、世界中の剣士がYouTubeでこの東西対抗を注目していること、自分も楽しみで「防具を担いで」来日し観戦に来たことを話されました。YouTubeで世界が求めているのは、勝ち負けそのものよりも理路整然とした日本剣道のあるべき姿が高段者の試合で学べることだと思いました。話は戻りますが、足幅の広さや相手の打突の受け方は年齢や身体能力で変わっていくものと思われまますが、「生涯剣道」、我々が目指すものは皆、最終的に同じだ、という認識でいます。

この医師剣道に参加して10余年、直接ご指導や背中を見せて導いて下さる先輩剣士の先生方、また学生時代のライバル関係を勝手に継続意識させてもらい日常の修行の励みにさせて頂いている同年代剣士の先生方、日頃の多忙勤務の中活気ある剣道で刺激を与えて頂いている若手剣士の先生方、本当にありがとうございます。全日本医師剣道連盟創立60周年おめでとうございました。連盟運営に携わる諸先生に深謝致します。



第 54 回全日本医師剣道大会  
(東京)」  
出身大学別団体戦  
優勝メンバー

●千葉県幹事 新藤 寛

鎧を削る

全日本医師剣道連盟の創立60周年を心よりお祝い申し上げます。この記念誌が発行される令和2年は子年で昭和35年生まれの私にとっても還暦の年であります。

今、千葉大学医学部剣道部の部誌第5号(平成25年12月発行)を開いています。年代を越えて一人一人の剣道に対する大切な思いが伝わってきます。剣道にどのように向き合ってきたか、剣道が自分の人生をどれほど豊かにしてくれたか、剣道への感謝の気持ちが綴られています。私がこのような仲間にもまれて過ごしてきたことを振り返るとあらためて幸せに感じています。

私は父の影響で幼少期に剣道を始め大学まで継続しましたが、外科医となってからは剣道から遠ざかっていました。平成9年のある日、自宅の向いの小学校の体育館から聞こえた竹刀の音に誘われて中を覗きました。懐かしい稽古の風景。激しい気のぶつかり合い。そこから再び剣道の歯車が回り始めました。娘二人が剣道を始めました。一緒に指導をと誘われて再び竹刀を握ることになりました。高浜剣友会という少年剣友会で、ここで多くのすばらしい仲間と子供達に出会うことができました。指導者たるものは自ら範を示せとの号令のもと、指導者チームで千葉市民総合体育大会に出場し平成15年には団体戦優勝を果たしました。その時、勝利を一番喜んでくれたのは教え子達とその親御さん達であったことを今も鮮明に思い出します。先日創立40周年の記念式典が行われましたが、当時の子供たちは立派に社会人として活躍されていて、とても懐かしく嬉しい時間を共有することができました。現在も剣道を継続し輝かしい成績を残している方々も多数います。剣道を通じた活動で人との絆を強く感じています。

平成18年4月に診療所を開院しました。翌年の平成19年春に初めて第42回全日本医

師剣道大会大阪大会へ参加させていただきました。大会二日目のみの日帰りでしたが勤務医時代には叶わなかった大会に参加できたことがとても嬉しかったです。故遠山富也先生と笠松紀雄先生以外は知人もいませんでしたが温かく迎え入れて下さり感謝しています。参加賞として立派な竹刀入れと後日には大会のDVDを戴き感激しました。このDVDは自己の剣道を反省する題材となり本当に有り難いことでした。

第43回兵庫大会では翌年に迫った千葉大会の準備のため実行委員の皆様には大変お世話になりました。

第44回大会が千葉で開催されました。この年は新型インフルエンザが発生した年で大会の開催さえ危ぶまれました。直前までキャンセルが発生しましたが、何とか千葉大会の当日を迎えられたのは関係皆様のお陰と感謝し懐かしく思い出されます。私も実行委員として大会運営に携わりました。大会会長は故遠山富也先生、大会副会長が守正英先生でした。千葉県剣道連盟の皆様には全面的にご協力をいただきました。その後千葉県の公式試合での救護担当医師として少しでも御恩返しができればと活動しています。大会1日目の居合演武では立身流と天真正伝香取神道流が披露されました。大会2日目の中島流砲術千葉城鉄砲隊の演武では発砲の爆音に参加者全員が度肝を抜かれました。剣道形は守正英先生と私が演武させていただきました。刀は刃引きで行いました。刃は落としてありますが刀身は真剣そのものの鋼です。守正英先生が第20回（昭和61年9月14日）の千葉大会の剣道形演武の際に用意された真剣です。この時の経験とご指導いただいた内容は私の剣道にとってとても貴重なものとなっています。命をかけた真剣勝負での鎧を削る瞬間を考究し、稽古でも真剣に全力を尽くしたいと考えています。

今までの人生の中では、何度も心の鎧を削って勝負してきたではないか。心の鎧を削りながら真っ直ぐに打ち込んできたではないか。そう振り返りながら還暦を迎えようとしています。これからも健康で剣道と診療に励んで行きたいと考えています。

その後に開催された、三重、鳥取、宮城、長崎、京都、茨城、高知、岩手、東京の各大会をとおして多くの先生と竹刀をまじえ盃をかわし親睦を深めることが出来ました。たいへん有り難うございました。これからも御指導を宜しく御願い申し上げます。大会でまたお会いできることを楽しみにしています。



## ●整形外科 大久保康一

全日本医師剣道連盟創立60周年おめでとうございます。私は剣道を高校から始め、故土居安夫先生（範士八段）に先生が他界される平成15年まで師匠としてご指導いただきました。病院が江東区ですので、ロマンを持ち続けて他界された山崎衛先生には大変にお世話になりました。私は平成11年に7段、13年に教士の称号を頂きました。その後更なる昇段を



目指し、週3回診療が終わってから稽古、日曜にも稽古、更にコナミスポーツに出かけ筋トレを行うという生活を続けておりました。ところが13年前から稽古の後に右股関節に痛みを感じるようになり、X線の検査の結果 右一次性変形性股関節症による痛みと診断致しました。しかしその後も同じように稽古を続け、東京剣道祭、京都での全日本剣道演武大会、医師剣道大会などに出場しておりましたので、X線検査でのう胞形成や、関節裂隙が更に狭くなり病態と痛みが進行いたしました。そして6年前から蹲踞が出来なくなり、稽古の後や歩行時に、また安静時にジーンとした痛みを感じるようになりました。



そこで考えました。人工股関節を受けたら剣道が出来るかです。剣道はコンタクトスポーツなのでぶつかったり倒れたりすると人工股関節が破損する可能性があり、私は適応にはならないと考えました。また1回でも多く、1日でも長く剣道を続けるにはどうしたらいいのかと。その結果は、更なる昇段は目指さないこと、稽古量を減らし、無理せず楽しく週2回、大会には参加しないこと、股関節への負荷を減らすため体重を減らすこと（これが一番困難なことで、いつも腹が減っている感じですがそれでも容易に減量しません）、そして生涯剣道を目指すことにいたしました。

現在は末期変股症になってしまいましたが、なんとか1時間若い方とでも稽古ができます。なぜか 剣道の動き、特に足さばきは摺足、送り足が基本で歩み足はほとんどありません。即ち常に体重を両足にかけて動いているということです。ですから何かの動きの中での歩いてしまったり、全体重が右足にかかると股関節に痛みを感じます。更に不思議なことに面や小手を打っても股関節に痛みを感じないことです。後は気力と技で勝負です。即ち本体をしっかりと構え（左腰、左手、左足を意識し、臍を天井に向ける）、歩幅を狭くして動きを少なくし、攻めて相手の出る出頭を捉えて小さく鋭く出頭面を打つことを心がけております。このような私の稽古を見た方が、【大久保先生は股関節が悪いの？】と言われることがあります。【本当に悪いですよ（笑）。剣道は年を取っても、又いろいろなところが悪くても出来る素晴らしい武道です】と返事します。しかし面を取るとがらりと変わり、跛行しながら歩いております。

最近では更に右股関節痛と腰部脊柱管狭窄症との痛みで NSAID と坐薬が欠かせない毎日で

す。しかし剣道に対する情熱は相変わらずですが、そろそろ人工股関節手術をうける日が近づいているようにも感じます。全日本医師剣道連盟の益々の発展を御祈念申し上げます。

●阿蘇医療センター 病院事業管理者・院長 甲斐 豊

熊本地震から3年 ～災害に備えるところ～

はじめに 2016（平成28）年の熊本地震の発災から3年7か月が経過しました。地震の際は、多くの方々からご支援いただきました。そのお礼を含め、地震での貴重な経験を報告させていただきます。この時の経験をまとめ伝えることが、次に起こるであろう災害へ備えるための試金石になれば幸いです。

大規模災害発生への備え 大規模災害で重要なキーワードは、BCP（Business Continuity Plan の略、事業継続計画）です。緊急事態が発生した場合、事業復旧に対するBCPを導入している企業は、事業を継続・発展できる可能性が高く、導入していない企業は事業を縮小するか、廃業に追い込まれる恐れがあるといわれています。医療においても、災害など発生直後から本格的機能を発揮させるため、いかにBCPを策定しておくかが重要なポイントです。阿蘇医療センターは2014年8月、免震機能を備えた災害拠点病院としてオープンしました。このおかげで、発災以降も病院機能は維持され、入院患者と職員の安全が確保され、多数の被災傷病者・救急患者を24時間体制で受け入れることが可能でした。さらにDMAT（Disaster Medical Assistance Team の略、災害派遣医療チーム）が全国から当院に集結し、当院を拠点に、阿蘇医療圏のみならず県内の被災地へ支援活動が展開され、災害拠点病院としての機能と役割を十分に果たせたと考えています。



熊本地震 そのとき阿蘇は！ 熊本地震後の対応について、時系列的に3つのカテゴリーに分けて報告します。1. 発災直後の超急性期（72時間以内）について 2016年4月16日の本震直後、病院内に災害対策本部が設置されました。入院患者の状況把握と、救急患者の受け入れ準備を整えました。この時、前年8月に全職員を対象に行った災害対策訓練と、模擬患者によるトリアージ訓練が大いに役立ちました。地震直後、病院の被害状況を調査したところ、免震機構により躯体（建物全体を支える部分）の被害はありませんでしたが、免震棟（病棟と中央診療棟）と耐震棟（事務棟と外来棟）のジョイント部分のパネルが一部破損しているのが分かりました。電気は自家発電機の備えのおかげで、フルパワーで使用した場合72時間、セーフティーモードの場合で10日間稼働できる状態でした。水は地下に雑用水用の35tタンクが2槽（70t）と、地表に上水用の15tタンク2槽（30t）が備えられていたため、電気も水も途絶えることなく供給されました（図1）。本震翌日の17日、四国電力から高圧電源車を接続し配電してもらい、18時には全電源が回復。翌18日からは通常外来を再開することができました。2. 発災後急性期（3日目～1カ月目）当院の機能が保持されたことで、発災直後から多くの救急患者が搬送されてきました。この非常事

態を乗り越えるため、職員たちはわが身、わが家庭を顧みず、病院の機能維持のため一丸となり不眠不休の対応をしてくださいました。また、全国各地から多くの人的応援をいただきました。DMAT、医師（長野の諏訪中央病院や沖縄のかりゆし病院、熊本大学附属病院）、薬剤師、看護師、医療技術職など、100人を超える皆さんが絶えることのない支援活動を展開してくださいました。患者を治療する際、多種職の医療スタッフの応援体制が充実していないと十分な対応ができないことも実感しました。当院にはADRO（Aso Disaster Recover Organizationの略、阿蘇地区災害保健医療復興連絡会議）という組織が設置されました。阿蘇保健所の服部希世子所長を本部長とし、DMATを統括するリーダーが当院に常駐する体制で、刻々と変化する阿蘇医療圏全体の災害医療に対し、適切な支援活動が展開されました。連日、朝・夕に各関連部署の代表が会議を行い、各避難所からの情報を収集、分析し、その結果を基に各避難所へノロウイルス感染予防や深部静脈血栓予防、心のケアなどに対応する専門チームが派遣されました。統括DMATによる災害医療がうまくいったモデルケースといえるでしょう（図2）

3. 発災後慢性期の問題（1カ月以降～現在）熊本地震後の阿蘇医療圏は、国道57号や豊肥本線の一部崩落で交通インフラが遮断され、この先数年にわたり阿蘇地区の医療環境は厳しい状況が継続すると予想されています。そこで、熊本市内の医療機関でなければ診療ができなかった特殊疾患（神経難病を含む指定難病、重症糖尿病、がんに対する外来化学療法、小児PTSD（Post Traumatic Stress Disorderの略、心的外傷後ストレス障害）、新規抗ウイルス薬を使用した肝疾患など長期的かつ継続的な医療支援を行っていく必要がある患者のために、非常勤の専門医を当院へ招聘し、専門外来を開設しました（図3）。交通インフラの不通に伴うもう一つの問題として、阿蘇地区で発症した重篤な救急患者の搬送が挙げられます。現在、阿蘇市と熊本市間の陸上搬送には、標高683mの峠を越える迂回路を使用しています。通常でも1.0～1.5時間を要していますが、雨季（土砂崩れ）や冬季（積雪・凍結）、不慮の事故発生時などは、通行止めになる可能性が高いことが想定されます。このように陸上の搬送が困難な場合は、航空搬送をすることがあります。熊本県はヘリ搬送体制（防災ヘリ、ドクターヘリ）を確立していますが、冬季のヘリ搬送ができない条件（夜間や天候不良）の対応については、まだ課題が残っていました。その解消のため関係機関に協力を求めたところ、当院で対応することが不可能だったり、あるいは処置後に高度医療機関へ緊急搬送する必要のある患者が発生したりする場合は、自衛隊ヘリによる搬送が可能となりました。当センターは、全職員の約25%が熊本市内から通勤していますが、通勤困難な事態になった場合に備え、該当職員の臨時的宿泊施設確保などを計画しました。地震後、看護職の離職率が高まりました。そこで熊本県と熊本県看護協会が看護職員の確保を目的とし、「熊本復興応援ナース」制度を構築。短期就労による支援体制がとられています。この時に就労したうちの数人は、今でも常勤職員として阿蘇の複数の医療機関で看護業務を継続しています。

さいごに 2017年4月から、災害拠点病院としての指定要件が改正されましたが、特にBCPの策定が義務づけられます。また、災害拠点病院が災害時に医療提供を継続するためには、今までの概念を超えた万全な備えを整えておくことが必要ではないでしょうか。

阿蘇医療センターが、名実ともに阿蘇医療圏の中心（センター）として継続的に機能して

いくためには、今後もさらなる運営努力と体制強化が必要と考えています。今後も職員と一丸となって、地域医療の中核的存在として取り組んでいく覚悟です。どうか今後もご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願いいたします。

図1

図2

図3



●おぎわら耳鼻咽喉科クリニック 荻原一郎 東京慈恵会医科大学卒

「私の剣道ライフ」

まずは連盟創立60周年おめでとうございます。中学入学と同時に始めた剣道も、中学時代こそ先輩諸氏の指導の下、一生懸命剣道に打ち込み、中学2年生で3年生のチームに加えて頂き、舞台は日本武道館での「東京都中学剣道大会」で優勝する栄誉を得ました。しかし都立墨田川高校入学とともに、剣道部には特に指導者もおらず、ほとんど切磋琢磨したとは言えない高校時代を過ごしました。その後いったん工学部に入学し、4年間ほどほとんど竹刀を握らず、慈恵医大入学とともに剣道を再開したのが昭和54年のことでした。関東医歯薬獣医科大学剣道大会をはじめ、東医体の剣道大会と、良き先輩、良き同期そして良き後輩たちとともに、充実した6年間の剣道ライフを過ごしました。しかし卒業とともに耳鼻咽喉科に入局すると忙しさに任せ、またまた10年間以上にわたり竹刀を握ることはありませんでした。平成6年に地元の葛飾区柴又で耳鼻咽喉科のクリニックを開業するとともに、再び竹刀を握ったのは40歳のことでした。地元葛飾区の剣道連盟に加入し、生まれ育った新宿（にいじゅく）剣友会で稽古を始めました。当時剣友会の会長は義足の6段で、高校時代の教え子で会長の娘も5段と、当時私はまだ4段であり、目の前に目標があり、その後5段・6段と順調に段位を伸ばして行きました。更に7段昇段を目指し、週8回稽古したこともあり。また毎週水曜日の5時からの朝稽古で、あの千葉仁先生に2年間にわたり稽古をつけて頂いたのも昨日ことのように。そんな最中に母校の先輩に『全日本医師剣道大会』への参加を勧められると同時に、『関東医師剣道連盟』にも参加することになりました。ここから私の第2の剣道ライフの幕が上がった次第です。平成9年 第32回『全日本医師剣道大会・岩手大会（盛岡）』の初参加にはじまり、3回の不参加と、東日本大震災での東京大会の中止はありましたが、今年の東京大会が記念すべき参加20回目の記念すべき大会とな

りました。米子大会から週末は休診にして、家内を伴い木曜日に現地入りし観光し、金曜日には家内とゴルフといった具合にプラスαの剣道大会を過ごしています。特に高知大会の際に訪れた黒潮カントリーでは、生憎の雨と霧に阻まれたプレーでした。また長崎大会の出発当日の朝に、家内がくも膜下出血で緊急入院となり、琴海パサージュカントリーも予約してありましたが、当然のことながら大会ともども急遽欠場となりました。その家内も元気にゴルフを続けています。また関東医師剣道連盟の先生方と『台湾親善試合』や『香港親善試合』にも足を運びました。七段に昇段して10年が経過し、その間『京都演武会』にも参戦し、原稿を書いている11月には八段審査の資格も得ました。ここに来て昨年からは腰痛やら怪我に見舞われ、いまひとつモチベーションの上まらない日々が続いています。菅先生はじめ、池澤・林・荻原・草ヶ谷・荻荘・大管・中島・塚越・諸木・奥島・永山・笠松先生ななど、同世代の先生方とともに歩んで来た第2の剣道ライフはこれからも続くことでしょう。果たして次に8段に昇段するのはどの先生か興味津々です。来年の沖縄大会には既にエントリーを済ませ、航空チケットも購入済みです。あっという間の1年ですが、また沖縄大会でお会いできる楽しみに稽古に励むことにしましょう。



●武石 浩欣

剣道人生 38 年を振り返って



今日に至るまで、数多くの出会いがありました。今日まで、途中何回か剣道を辞め、再開を繰り返してきた中で、数多くの恩師に出会いました。その中で、特に印象的だった4人の先生について、振り返りたいと思います。父が、市の剣道連盟会長で、町の少年剣道指導をしていた関係で、小学校3年の時に、いつのまにか剣道を習わされている状況でしたので、現在47歳の私は、剣道歴38年になります。中学に入り、市大会、地区大会等(レベルの高くない地域)では優勝することができ、剣道の強い高校になんとか行きたいと思っていた中3の頃、当時、東京で強豪だった、国士舘、巣鴨、正則学園、神奈川の強豪だっ

た、日大、鎌倉学園、横浜商大等（すべて男子校）ありましたが、私は男子校には進学したくないという不純な理由で、東海大相模高校に進学しました。私の代、一学年先輩の代、一学年後輩の代と、かなりの猛者が集まっておりました。ここで出会ったのが、この高校剣道部監督の木田誠一先生です。先生は、あの宮崎正裕、史裕先生を指導した先生です。レギュラーにもなれず、試合にも出れない状況の私に、突然、東海大医学部推薦入試を受験するように言われました。パワハラという単語のない時代、鬼軍曹のような先生の言う言葉には絶対服従が当たり前で受験することになり、その後、奇跡的に医学部合格することができました。木田先生がいなければ、私は医者になっておらず、本当に感謝しております。

医学部卒業し、整形外科に入局し、研修医、出向病院を回っていた 24 歳から 30 になるまで、稽古する機会もなくなり、いったん剣道から離れておりましたが、全く稽古していない中で、5 段審査を東京で 2 回受け不合格。ふてくされ一度、ここで剣道を辞めました。29 歳の時に、千葉県に出向し、鴨川で暮らしていた頃に、どこからともなく、竹刀で打ち合っている音、子供達の気合いが聞こえてきました。何とも言えない懐かしい気持ちになり、どこから声がするのか探していたら、当時借りていたマンションのすぐ近くに剣徳錬心館熊切道場がありました。子供達が稽古している所を、遠目に覗いていたところ、私のことを不審者と思われたのか、館長の熊切隆夫先生が突然、声をかけてきました。

熊切先生：「どなたかの保護者ですか？」

私：「いえ、そうではないんですが・・・」

熊切先生：「何か用ですか？何で見てるの？」

私：「この近所に住んでまして・・・昔、少し剣道やってたので、懐かしくて見てました。すみません、帰ります。」

熊切先生：「ちょっと待ちなさい。防具はあるのか？ 何段持ってる？」

私：「防具はたぶん探せばあります。五段落ちたばかりで、四段です。」

熊切先生：「今から、稽古するから大至急防具持ってきなさい。」

私：「・・・。」

急いで、防具を取りに帰り、強制的にここで剣道再開となりました。

熊切先生は、第 65 回、千葉国体成年男子の部、優勝の大將を務めた、これまたとんでもない先生でした。先生は初回の稽古で、私に、しばらく稽古してない割には、中々いいじゃないかと初対面の私を褒めてくれました。あと 1 年は鴨川にいることを伝えると、来年千葉で、五段審査を受けるよう言われ、先生の指導の半年後には、奇跡的に五段に合格できました。剣道再開第一弾は熊切先生との、あの突発的な出会いがなければ、ありませんでした。熊切先生との出会いがなければ、完璧に剣道を辞めてたかもしれません。本当に感謝です。

その後、神奈川県内に戻り、剣道する機会もなくなり、自然と剣道を中断していた頃に、東京大田区の池上総合病院に出向になりました。ここで、心臓血管外科の志村信一郎先生と再会することになりました。先生は、2 学年先輩で、医学部時代、東医体、関東医師薬獣大会に出るにあたり、部員が少なく、オーダーが組めずに困っていたところ、当時野球部だった、志村先生が、剣道経験者と知り、試合にだけ出てもらおうようお願いしたところ、快く試合に出てくれました。

そんな志村先生と久しぶりに再会したところ、早速声をかけてくれました。

志村先生：「おー。たけちゃん、久しぶり。剣道してる？」

私：「ここ、2年全くしていないんですよ。」

志村先生：「今、僕、世田谷の大蔵剣友会に所属していてさあ。水曜の夜と、土曜の朝、国士舘高校の稽古会行ってるんだけど、一緒に行こうよ。国士舘の先生とか色んな先生と稽古できていいよ。」

私：「……………こ、こ、国士舘！」

志村先生：「あと、関東医師剣道連盟っていうのがあって、東京医大で稽古してるからさ、それも、今度、一緒に行こうよ」

ここで、またまた強制的に剣道再開となりました。気さくな志村先生の誘いがなければ、ここで剣道を辞めていたかもしれません。その後も、六段審査に中々合格できない日々が続き、もう昇段審査を受けるのは辞めようと思ひ、6年間昇段審査を受けなくて、剣道と距離を置いていた時にも、志村先生から、「今度、高知で医師剣道大会あるから、行こうよ」と声をかけていただき、一緒に、高知に行った後輩の石山から、先輩も今度、一緒に昇段審査行きましようと思ひかけられ、受審したところ奇跡的に合格することができました。現在、志村先生は医学部剣道部顧問、監督となりました。大恩人の志村先生に頼まれ、断れる訳もなく、私も、医学部剣道部コーチを拝命となりました。そして、この池上勤務時代に、息子が小学校入学となりました。息子が幼稚園卒業の少し前に、突然、高校の後輩から、10年以上ぶりに、電話が来ました。彼は、高校時代、国体メンバーに入った強者でしたが、大学で剣道を辞め、アメフト部に入ったと聞いてました。

後輩：「先輩、ご無沙汰です。剣道してますか？」

私：「最近、再開したよ。お前も大学で辞めたんだろ？」

後輩：「俺、今、バリバリ剣道やってますよ。うちの息子めちゃくちゃ強いんですよ。先輩の息子ももうすぐ小学校でしょ？ 剣道やらせるんでしょ？」

私：「一応、やらせようか思ってるよ。町田の適当な剣友会に入れようかと思ってるよ。」

後輩：「町田で剣道な習わせたら、絶対ダメですよ！。相模原の光武館に入れてください。あそこはマジで、半端ないっす。一回見学行ってくださいよ。」

とりあえず、1回見学に行ってみたところ、月1回行われる、月例大会という部内個人戦が行われておりました。この時、小学校4.5.6年の子供たちが試合している風景を見て私はレベルの高さに絶句しました。この時、試合していた4年生の伊藤謙剛くんは、6年生で小学校個人日本一となったスーパー小学生で、現在、慶應義塾大学4年で体育会剣道部主将。当時6年生の佐藤大洋くんは、中央大学時代、全日本学生団体、準優勝と素晴らしい実績を残した凄腕選手でした。彼らの小学生時代の試合内容は本当に凄まじく、この子供達を指導してる先生が、光武館館長、茅秋雄先生でした。茅先生は漫画、六三四の剣を知っている方なら、分かると思いますが、小学生時代の六三四が、全国大会の武道館の外で出会った、達人の老人のごとく、見た目は仏様のように穏やかで、愛情持って指導されており、この先生に息子を預けたいと、初対面で一目ぼれしてしまいました。

先生は、本当に、穏やかですが、稽古内容はかなり厳しく、本当に息子がここでやっていけ

るのか心配しておりましたが、小学校、中学校、9年間、茅先生のご指導を親子ともども受けることが出来ました。息子も、剣道を嫌いにならず、剣道を続けてくれて、5.6年時に、全日本都道府県対抗に神奈川県代表で出場し、5年時3位。6年時は、道場連盟の全国大会個人戦に出場させていただきました。中学時も全国中学校大会の個人県予選は3位で全国大会出場は果たせませんでした。全日本都道府県対抗は、神奈川県代表として、準優勝という成績を残すことが出来ました。茅先生は、試合に負けても「負けちゃったのか。しょうがないな」等お話しされる程度で、決して怒るようなことはありませんでした。中学や高校の試合の成績を後日先生に報告に伺うと、はにかんだ笑顔で、「すごいなあ、たいしたもんだ」と喜んでくださいます。そんな息子も、現在高校3年となり、私の母校の東海大相模高校での剣道部を最近引退となりました。インターハイ、全国選抜は出場出来ませんでした。関東大会では、団体、個人ともに、ベスト8まで進出。国体メンバーにも選ばれ、小学校6年の時に、全日本都道府県対抗でチームメイトだったメンバーと再びチームを組むことが出来、茨城国体では4位入賞となりました。茅先生の愛情ある指導がなければ、息子も途中で剣道を辞めていたかもしれません。茅先生との出会いをさせてくれた、後輩に感謝です。以上、私は今まで、ことあるごとに、なんとなく、剣道と距離を置き、辞めそうになる時に、恩師、先輩、後輩と多くの方から支えられ、剣道を続けることが出来ました。他にも数多くの人たちとの出会いがありましたが、代表的な恩師について感謝を込めて、全日本医師剣道連盟年報に寄稿させていただきました。また、七段審査に合格できず、辞めたくなる時が来るかもしれませんが、頑張っ、辞めずに続けていこうと思います。

#### ●元全日本医師剣道連盟会長 伊藤元明

##### 活人剣に栄光あれ

退位改元のとき、時代は平成から令和へと移りました。全日本医師剣道連盟報（第28号）に載る大祢廣伸連盟会長と編集の労を執る林明人の玉稿から東京大会が連盟創立60周年を迎える記念すべき大会であることを知り、60年道の軌跡を感慨深く思いおこ

しました。剣道を愛した戦前の医道の剣士は、大戦後の占領政策とは申せ武道の禁止、なかでも日本刀の理法を本懐とする剣道への抑圧は耐え難い悔しいことでした。昭和34年4月、第15回日本医学会総会の機に、第1回全日本医師剣道大会が東京後楽園の旧講道館で開かれた喜びは筆舌に尽くせません。このとき私は東京医科大学剣道部員の身、亡父の厳命で写真係を拝命してカメラ片手に観戦いたしました。道場に立つ大先輩のお姿は嬉々とした紅顔の少年剣士を彷彿されるものでした。往年の修練によって体得した剣技をあるがままに再現し、みんなちがってみんないい、実に個性的な風格のあるご立派な立合でした。現代



剣道は、生と死の狭間で創始された「殺人剣」の剣術から、剣の理法の修練によって人を活かす「活人剣」に変容した「道」を基盤とする日本固有の伝統 武道です。「活人」とは杏林と同じく医者之美稱です。人として生と死を看て診る活人は鬼手仏心を旨として医道を歩いています。活人剣を手にする私たちは 日本人の独特な知性・武士道の心が息吹く剣道への価値観を医道にとり入れる 工夫をしたいものです。全日本医師剣道連盟創立60周年と令和元年の開闢を慶賀して開催する東京 大会が医師剣道連盟史の一頁を飾る栄光の記念大会となることを期待いたします。一堂に会する活人剣士とご一緒に本連盟草創期の先達のご功績を讃え、昭和・平成・令和の三代にわたって連盟の進歩発展に多大な貢献をされた剣友諸賢に 深い感謝の意を捧呈いたします。

## ● 仙台 今村幹雄

### 全日本医師剣道大会の思い出

手元にある全日本医師剣道連盟報を見ると、古くは平成5年7月の第1号、平成7年の第3号があるが、その後はどこか別のところにでもしまったのか、平成20年3月の第18号に飛び、その後はほぼ揃っている。大会プログラム集は平成3年4月、京都での第26回のものから飛び飛びにあり、平成18年4月、神奈川での第41回からはほぼ揃っている。

このような保存状況からして、自分が全日本医師剣道大会を意識して参加を心がけたのは第29回の東京大会あたりからだと思う。しかし、初参加は第14回の東京大会であったことは覚えている。昭和50年に卒業し、3年間の初期研修を終え、昭和53年4月に東北大学第1外科に入局し、忙しい最中、月1回位の稽古量であった頃、先輩の鈴木仁一先生に誘われたのだと思う。場所、試合などは忘却の彼方だが、稽古で大野操一郎先生に掛かって行き、最後に「元気だね」と言われたのを覚えている。その後は多忙な生活が続き、長いこと遠ざかっていて、次に参加したのは第26回の京都大会であった。川沿いのホテルで懇親会があり、宮坂先生（兄 or 弟）と初めて(?)お話したのを覚えている。宮坂先生は既に多くの方を知っており御挨拶をしていたが、自分はさっぱり知らない人ばかりでつまらなく思ったものだった。この間、第24回大会が鈴木仁一先生により仙台で開催されたが、自分はアメリカに留学中であった。その次に参加したのは第29回の東京大会であった。穏やかな感じの宮地先生が大会会長で、かの有名な中倉 清先生を拝顔し、お話を聞き感激したものだ。また、この大会では初めて優秀選手賞をいただき大変嬉しかった。第32回大会は東北大学の先輩である中村好和先生が盛岡市で開催され、当然のこと参加して学生時代にお世話になった大和田健司先輩と稽古したのを覚えている。第39回の大阪大会の時、会場に向かう電車の駅でお互い防具を担いで、茨城の新井先生にお会いして親しくお話したこと



が懐かしく思い出される。宮城県医師剣道連盟の中心的存在であった鈴木仁一先生は 82 歳時の第 42 回大阪大会まで参加され、宮城県幹事として我々を牽引して下さいました。先生は東北大学学友会剣道部部长、後援会長も務められ、学生剣道にも大変な貢献をされた。また、先生は私が学生時代、乳井道場に引き込んでくれた恩人でもある。さらに、平成 14 年 8 月、私が 7 段に昇段した後には東北大学学友会剣道部の監督に推挙して下さい、その後 7 年ほどを学生指導に貢献する機会を作して下さいました。私は先生の後を引き継ぎ、平成 20 年 4 月の第 43 回兵庫大会から幹事会に出席し、この年に平成 25 年 6 月の第 48 回大会の会長を拝命した。

5 年間はあっという間に過ぎ、平成 25 年 6 月 22（土）～23（日）、第 48 回仙台大会となった。仙台では第 4 回（昭和 44 年）松川金七会長、第 24 回（平成元年）鈴木仁一会長について 3 回目の大会でありました。鈴木先生の時代に存在した宮城県医師剣道連盟は既に消滅していましたが、渡邊哲子先生を実行委員長にして 7 人の実行委員メンバーを速やかに揃えることができ、5 月には第 1 回目の準備委員会を開催することができました。その後、毎月 1 回、当院にて委員会を開催し、当院のスタッフからも大きな援助を受け、大会にこぎつけることができました。大会内容について私の最優先の企画は地区別対抗戦（団体戦）を行うことでした。以前の大会ではトーナメント形式の個人戦がよく組まれていました。幸いに勝ち残って多くの試合を戦えた方は満足でしょうが、たまたま一回戦、二回戦で敗れた場合、せっかく遠くまで来たのに“もう終わりか”と、つまらないことになってしまいます。また、個人戦だけでは同地域からの方々との交流もなく終わってしまいます。そこで、地区別にチームを編成して 4 コートに分かれて戦えば、各コート 4～5 チームとなり、各人最低 3 試合は楽しめます。これをメインイベントとして 2 日目の午前中に行いました。実際、非常に盛り上がり、皆さんに喜んでいただきました。各チームで 5 人揃わない場合は、不戦負けよりメンバーが 2 回楽しんでよいでしょう、としました。その後、このルールも引き継がれているようで感謝しております。各コートの 1 位チーム（福岡、茨城、岩手、宮城）が決勝トーナメントに進み、福岡チーム（吉田武、吉田純、福重、桶田、加野）と茨城チーム（林、佐久間、椋島、林、大柰）で決勝戦を戦い、福岡チームが見事、優勝しました。我が宮城チーム（林、西郡、佐藤、色川、今村）も奮闘し 3 位入賞で、ちょっと残念でしたが喜びでした。2 日目の午後は東西対抗戦でしたが、工夫として、各人が全員の試合が見れるよう、また、東西それぞれの結束を高められるように 1 コートで行いました。東軍は守 正英先生、西軍は中山尚夫先生を大将に 35 組が戦い、13-10 で東軍が勝利しました。

大会を開催して得た感想としてまず思ったことは、若い新メンバーを含め参加者数は多いほど良いではありますが、何よりも常連の先生方が参加して旧交を深め、全企画を通じて喜び、楽しんでいただけることが最も重要で価値あることだということです。私自身、参加回数を重ねるごとに旧友との再会を心から楽しめるようになりました。萬木、日高、宮坂兄弟、篠原、柴田の各先生など多くの先生と稽古をして交剣知愛を実感しております。

その後、同期の友人である萬木君の長崎大会、吉村先生の京都大会、大柰先生の茨城大会、菅先生の岩手大会、稲村先生の東京大会は出席しましたが、平成 29 年、谷木先生の高知大会には行けず、親しくしている谷木、枝重の両先生には大変失礼しました。

多忙で疲れる日々の診療、それに医師会関係の仕事などいつまでも付きまとわれていますが、剣道こそが生活の基盤です。稽古を集中して行うことにより生活力がでてきます。とは言え年には勝てないところもあり、激しい稽古から帰宅するとガックリ疲れが出て、夜は大いびきで眠り周囲に迷惑をかけているようです。そんな生活がいつまでも続いてくれるよう、そして、いつまでも全日本医師剣道大会に参加できるよう祈念しながら筆を置きます。



● プラーカ中村クリニック 中村 茂樹

旅のこぼれ話

「この歳になればどこの家でも夫婦で海外旅行しているのに、あなたは何もしてくれない・・・」ここ数年来続く家内からの波状攻撃（口撃？）について降参。今年の5月、連休

を利用して夫婦でベルギーを旅した。

旅にトラブルはつきもの、旅慣れぬ越後の老夫婦となればなおのことで、3年前の米国行きでは家内が出発時に、免税店のウィンドウショッピングに夢中になりうっかり飛行機に乗り遅れるという大不覚をやらかした。さらに米国に着くや否や、乗せてもらった車がハイウェイで中央分離帯に激突し、後部座席の家内が腰椎骨折し、数泊入院して車いすで帰国する憂き目に遭った。

今回はなんとか無事に出国し、目的地ブリュッセル空港に辿り着いた。車窓から見ると緩やかな緑の丘陵がどこまでも広がり、茶色いレンガの建物が点在する。ところどころ湖や古城もある。ベルギーは美しい国だ。現地の友人ネリーさんと夫のヨーさん夫妻が用意してくれたのは、とある田舎の木賃宿で、客室は全部で3つしかなかった。「有名ホテルは世界中どこも同じでつまらない」旅慣れた二人のお勧めに従ったが、これがなかなか貴重な体験だった。

まず我々は午後5時半頃到着したのだが、すでに玄関は鍵がかかっており、中には誰一人いない。ヨーさんが電話すると、近所の家からのっそりと主人が出てきた。宿を開け、厨房の冷蔵庫を案内され「夜飲んだ分は翌朝自己申告してくれ。うちはHonest bar（正直バー）なんだ」と説明される。客室のドアは、古い真鍮のカギを差し込んで開けるのだが、コツを覚えないと上手く開かない。ギシギシ鳴る木の床の真ん中には、バスダブがどっかり据えられてあったが、ヨーロッパスタイルというか、居間の真ん中で素っ裸になり入浴するのは、同室が夫婦といえど違和感があった。歯ブラシなどいわゆるアメニティは何もない。しかし慣れるとむしろこれはさすががしい。旅の基本は自己責任なのだ。夜はまだ寒かったが、ときおりバーン、ポコッと大きな音がして、その都度暖房が止まった。

今回の旅をベルギーにした理由は、古い友人ネリー・コーイさんがいたからである。彼女は約30年前、新潟大学人文学部に在籍し、日本人のがん告知の研究をしていた。我が家は子育て真最中の頃で、たまたま私が有壬会館で聞いた彼女の講演に興味を持ち、直接話しかけて友人となり、ついでにうちの子供たちに英語を教えてもらう仲になった。彼女はオランダ人だが、現在はベルギー人のヨーさんと再婚して心静かな田舎暮らしをしている。

ベルギーは現在の「大学」の発祥地でもある。大学を中心とする古い町並みは今も中世のまま、石造りの大聖堂や建築物が並ぶ街の中央には必ず石畳の大広場があり、ここで一日中人々がコーヒー片手に人生を、芸術を、哲学を語り合う。アメリカのような派手さはないが、中欧の確固たる自尊心を感じた。

最近私が訪問診療を始めたこともあって、ネリー夫妻にあらかじめ頼んでおいて、現地の老人ホームを大小5つほど見学させてもらった。共通して言えるのは、体が不自由になっても、認知症になっても、老人が自立心を持って生活している様子だった。また自立を何より尊重しサポートしようとする社会の姿勢だった。

私が行った老人ホームでも、老人たちは昼食後横にならず、コーヒーやシャンパンを片手に延々と会話を楽しんでいた。口論になるものや酔い過ぎるものはひとりもない。そして頃合いよくスツといなくなる。こういう知的で上品な老人になりたいものだ。そしてこうい

う老人たちの日常を助けているのは、屈託ない若いスタッフたちだった。

ところで中欧の食事には、木の実（ナッツ）がよく出る。木賃宿で妻と朝食をとっていたある時、「ガリッ」という異常音とともに妻が「いやっ」と顔をしかめた（写真1）。実は出国前、彼女は前歯の治療中で仮歯が入っていたのだが、食事中これがポロリと落ちた。とりあえずテーブルに置いた仮歯をナッツと見間違い、うっかり噛み砕いてしまったのだ。前歯なしでは人前には出られない。ましてベルギーの後はウィーンでのオペラを楽しみにしていたので、「この顔でオペラに行けない」と、彼女の落胆はひと方でなかった。



しかし捨てる神あれば拾う神あり。ネリーさん夫妻の機転で友人の歯科医が応急処置をしてくれることになった。Patrik という名の彼は70才位で、半年前に心臓の手術をしたばかりで午後の診療はしていない。しかし「困っている日本の友人を頼む」という夫妻の願いを聞いて、クリニックを開けてくれた。しかも彼は私に7千円ほどしか治療費を請求しなかった（写真2）。



後からネリーさんから聞いた話だが、彼が「お金はいらない」というのを、夫妻が「相

場10万円はかかるはず、それは困る」と説得した結果という。ほとんど話さず静かに微笑むだけだった彼の熟練の技のお蔭で、私たちはウィーンで無事オペラを楽しむことができた。

この話には後日談がある。帰国後のある土曜日、私が新発田市の実家へ親の様子を見に行っていると、妻からの電話が鳴った。「友人のお琴の演奏家が、バラのトゲが指に刺さって困っている。明日大事な演奏会なので、あなたが至急何とかしてほしい」。こちらは休診日だし、新潟に戻るにしても1時間近くかかる、急患センターにでも行ってくれればいいのに……。しかしベルギーで受けた恩を思うと「ここで断ったら男じゃないぞ」と内なる声が聞こえてきた。医師は患者の求めに応じなければならないのだ。

早速クリニックでお琴の先生と待ち合わせると、トゲが小さすぎて肉眼では見えない。お琴の先生は明日の本番を前に、半ばパニック状態だ。私は一計を案じ、階下の文房具屋に走って一番大きなルーペを購入し、拡大視野下でようやく皮膚に埋没した針先ほどのトゲを同定した。そして先の鋭い鑷子（せっし＝ピンセット）を使って、首尾よくこれを抜くことができた。これは勤務医時代に長年内視鏡手術をやってきた余禄というべきであり、私は自分の技術に密かに、しかし大いに満足した。治療費の請求をしなかったのは言うまでもない。

● 茨城県つくば市 林 明人

私は大分の別府大会から全日本医師剣道大会に参加させていただきました。その際に思ったのはこんなに楽しい大会があるんだということでした。

2016年4月につくば大会で大祢廣伸会長のもと実行委員長として、実行委員の椛島先生、大岩先生、小林先生、増山先生、高橋先生と準備委員会を立ち上げ、1年以上かけて準備してきた大会を無事に終えることができました。目標は参加された方々からとても気持ちのよい大会だったと喜んでもらえるように準備しました。多くの地元の剣道仲間の先生方に大変お世話になりました。また、20名近い8段の先生方にご参加いただきました。大会では、初日、開会式での大会開会宣言に続き、日本剣道形の演武、試合、懇親会、2日目、団体戦、東西対抗戦、閉会式2日間通しての地元の村嶋先生の剣道墨絵と山崎先生の能面の展示など盛り沢山でしたが、細かい点では不備な点多々あったことと思いますが、全精力をこの大会に打込み無事に終えられたことが何よりもうれしく感じつつ皆様に感謝しています。1年以上準備して2日間であつというまに大会が終わり、そのあとに2週間くらいは脱力しておりました。

毎回の大会を主催することはとても労力のいることです。大会のご準備をされる先生方に感謝しつつ、毎年参加できることを楽しみにしております。今後ともなにとぞよろしくお願い致します。



## 第2部

### 年報アーカイブからの抜粋記事



# 全日本医師

## 剣道連盟報

第1号

平成5年7月

全日本医師剣道連盟

事務局 〒154 東京都目黒区豊原1-15-12

TEL 03-3429-8113

FAX 03-3425-2125

# 全日本医師

## 剣道連盟報

第2号

平成6年5月

全日本医師剣道連盟

事務局 〒154 東京都目黒区豊原1-15-12

### 持田盛二先生選訓

剣道は五十歳までは基本を一所懸命勉強して、自分のものにならなくてはならない。普通基礎というところ、初心者のうちに修得してしまつたと思つてゐるが、これは大変な間違いであつて、そのため基礎を頭の中にしまい込んだままの人が非常に多い。私は剣道の基礎を体で覚えるのに五十年かかった。

私の剣道は五十を過ぎてから本当の修行に入った。心で剣道しようとしたからである。

六十歳になると足腰が弱くなる。この弱さを補うのは心である。心を働かして弱点を強くするように努めた。

七十歳になると身体全体が弱くなる。こんどは心を動かさない修行をした。心が動かなくなれば、相手の心がこちらの動きに快つてくる。心を静かに動かさねばならない。心を動かさねばならないよう努めた。

八十歳になると心は動かなくなつた。だが時々雑念が入る。心の中に雑念を入れないように修行している。

### 高野佐三郎 松崎浪四郎を語る

あの当時の試合というものは、今のように行つてから勝つていない。今は面かつかボカンと行つてから勝つたという事になります。松崎先生は勝つ前の後の動作というものが、それは非常に静かです。

松崎先生などは股立を取つて白帯を巻いた大きな人でしたが、正面に構えて、一々攻めなければ打たない、タツタツと攻め、シリシリと攻めて、小手と行つて、それが静かと思つてお面なりと受るので。

打つ前に攻めて、敵に敵腕力を失わして打つのです。

その時の試合は、今の連中は見ることも出来ないし、話す人さえありません。ボカンと行つてから勝つたとか、上帯とか下帯とかいいますが、私共はそういう試合を拝見して勝りまふから、実に距離感やしいまうに思ふんですね。

だから今後大家連中は、そういうところに注目して、本当の剣道の真髄、味わいというものを自分自身で修得して、攻撃に示して行かなければ、剣道の価値が測れないようになります。

武道空想より技師





迎國大会特報



長流流長



源流流長

全日本医師剣道連盟報



源流流長

源流流長  
平成17年3月

挨拶



第21回全日本剣道連盟大会  
会長 永田 義

某所の甲斐であったことや恥の無い、道は本道甲斐道連盟の精神にも影響あり、  
道剣道連盟の精神にも影響ありと云いまして誠に恐縮でございます。  
平素は甲斐、道剣道連盟の精神にも影響あり、道剣道連盟の精神にも影響あり、  
道剣道連盟の精神にも影響あり、道剣道連盟の精神にも影響あり、  
道剣道連盟の精神にも影響あり、道剣道連盟の精神にも影響あり、  
道剣道連盟の精神にも影響あり、道剣道連盟の精神にも影響あり、  
道剣道連盟の精神にも影響あり、道剣道連盟の精神にも影響あり、

源流流長

全日本剣道連盟大会

源流流長

莫動著

全日本剣道連盟大会

莫動著  
源流流長



源流流長

## 岩手大会特稿

### 熊本剣道連盟の三十周年を迎えて

- 一、己れに勝つ
  - 一、健康
  - 一、正しい剣道
- 熊本剣道連盟



熊本剣道連盟 会長 野村 豊

昭和四十二年四月、熊本県剣道連盟の運営において、熊本剣道連盟と名付けて創設した本会は、本年三月第三十周年を迎えました。

この長い歳月、会員の皆さんは、先づ一歩踏進、終極まで交流剣道の精神を以て、学問修業の大業として、健康自身の生活を営み、己れの健康に努めて、只吾、心身の鍛錬に努め、剣道修業による人間形成を目指し、勉めて、歩み続けました。誠に感懐かしい大団円であります。

剣道史の中に輝として輝き出して居るものと承ります。真に感佩、感服した覚えです。

またこれまで、貴連盟の指導を蒙りました貴連盟の御意志、御指導並びに御指導を以て、基志研鑽を以てして、越えつぎ貴連盟の御志の御縁に、心から御礼を申し上げます。

三十年を回顧し、先づ、心から感謝申し上げますのは、本会発足の御縁を蒙り、本会の真実の志の御縁に、心から御礼を申し上げます。三十周年記念式典に当り御挨拶と特別の御言葉を申し上げます。心より御慶びを申し上げます。

三十年を回顧し、先づ、心から感謝申し上げますのは、本会発足の御縁を蒙り、本会の真実の志の御縁に、心から御礼を申し上げます。三十周年記念式典に当り御挨拶と特別の御言葉を申し上げます。心より御慶びを申し上げます。

### ごあいさつ



東北の剣道日本剣道連盟連盟  
大会会長 中村 野村

東北での岩手大会は昭和 44 年昭和 47 年大会の最盛期大会の最盛期であり、近年も平成九年九月以来に一回限り、第 24 回大会が仙台で開催されております。仙台以外では初めての岩手大会が開催されたことになりました。

ようこそ皆さん、みちのくに開催に御慶び申し上げます。心から歓迎申し上げます。岩手県内各地から多くの剣道愛好者が集まってくるとは、誠に喜ばしい限りであります。

皆さんをよむ岩手大会は、岩手県内各地から多くの剣道愛好者が集まってくるとは、誠に喜ばしい限りであります。

この大会に於て貴方剣道を愛する御志の御縁に、心から御慶びを申し上げます。貴方剣道を愛する御志の御縁に、心から御慶びを申し上げます。

東北の剣道連盟は、東北各地に在る皆さんが、今日、貴方と此れ御縁に御慶びを申し上げます。東北の剣道連盟は、東北各地に在る皆さんが、今日、貴方と此れ御縁に御慶びを申し上げます。



— 11 —

### 今こそ剣道立国の時

## 全日本医師剣道連盟報

第 25 回 日本医学連合会  
交歓剣道大会

一、第 24 回 全日本剣道連盟大会

平成 11 年 4 月 23 日 (土) - 24 日 (日)

連盟会  
平成 11 年 2 月



全日本医師剣道連盟  
副会長の御挨拶 岸正 正孝

剣道修業の道、早稲田に立寄り、先づ、心から感謝申し上げます。

貴連盟の御志、早稲田に立寄り、先づ、心から感謝申し上げます。貴連盟の御志、早稲田に立寄り、先づ、心から感謝申し上げます。

剣道修業の道、早稲田に立寄り、先づ、心から感謝申し上げます。貴連盟の御志、早稲田に立寄り、先づ、心から感謝申し上げます。

剣道修業の道、早稲田に立寄り、先づ、心から感謝申し上げます。貴連盟の御志、早稲田に立寄り、先づ、心から感謝申し上げます。

剣道修業の道、早稲田に立寄り、先づ、心から感謝申し上げます。貴連盟の御志、早稲田に立寄り、先づ、心から感謝申し上げます。

と承ります。真に感佩、感服した覚えです。またこれまで、貴連盟の指導を蒙りました貴連盟の御意志、御指導並びに御指導を以て、基志研鑽を以てして、越えつぎ貴連盟の御志の御縁に、心から御礼を申し上げます。

またこれまで、貴連盟の指導を蒙りました貴連盟の御意志、御指導並びに御指導を以て、基志研鑽を以てして、越えつぎ貴連盟の御志の御縁に、心から御礼を申し上げます。

またこれまで、貴連盟の指導を蒙りました貴連盟の御意志、御指導並びに御指導を以て、基志研鑽を以てして、越えつぎ貴連盟の御志の御縁に、心から御礼を申し上げます。

またこれまで、貴連盟の指導を蒙りました貴連盟の御意志、御指導並びに御指導を以て、基志研鑽を以てして、越えつぎ貴連盟の御志の御縁に、心から御礼を申し上げます。

またこれまで、貴連盟の指導を蒙りました貴連盟の御意志、御指導並びに御指導を以て、基志研鑽を以てして、越えつぎ貴連盟の御志の御縁に、心から御礼を申し上げます。

# 鹿児島大会特集

## 挨拶

鹿児島県剣道連盟 会長 橋元 史郎

鹿児島県大会が開催されることになりました。有名人、貴山山師に再会された喜びが胸を膨らませて嬉しかったです。この期に全日本剣道連盟の剣道者にお話をしる機会を得ましたことは、感謝致しまして喜びに感じています。ここに掲げた4年間は参加者も多くなりました。

当地に近代化の波が押し寄せた結果の剣道は、戦時中（自衛隊）と戦後時代を経てこの地に根ざした剣道の歴史も少なくなりました。また、戦後の歴史もなかった剣道界の歴史も、その歴史や現在の歴史など、この歴史の中で生きていくべき歴史の道をたどるべきです。

「全剣連」本部は、この大会の歴史や現在の歴史をたどるべきことを求めて剣道の歴史と向き合います。



第42回 全日本剣道連盟大会（1997年） 鹿児島大会の様子

## 全日本医師剣道連盟報



創刊号  
平成12年2月

## フェアプレーのこゝと



作家 橋元 史郎  
鹿児島県 鹿児島市  
第三大橋通り 日本女子大学付属の書店にある  
1980-1982

小泉 哲三

「フェアプレー」とは何か、「偉業の勝利」を  
のみ用いる日本風は、もっともよく  
それに似てきた。試合の結果に  
よる礼儀、勝利の喜び、勝利の誇り  
を尊厳に、主なる内容としてこの地に  
書き添えられている。

フェアプレーを以ては純正の  
力だ。いさ、スポーツの精神が  
試合は、フェアプレーの精神を要し、  
ちがうのではない。そのもっとも純正  
の精神の一つであるならば、日本の  
ための教育上、フェアプレーに  
取り組むべきものであるか、改めて考  
えられていた。

純正主義と戦うものは全体主義で  
ある。純正主義でも、フェアプレーでも、  
すべて全体主義者はフェアプレーを認め  
ない。彼らにとっては正義への反逆者は、  
仇敵である。仇敵にたいする懲罰は、  
正義の懲罰以外の罰でもあり得ない。  
フェアプレーは、勝利、尊重、勝利、  
勝利の精神で進歩する。この精神の  
たまは、勝利の精神で進歩する。この精神の  
たまは、勝利の精神で進歩する。この精神の  
たまは、勝利の精神で進歩する。

その一方で、この地には、これら心算の  
正義としては、勝利の精神で進歩する。  
その一方で、この地には、これら心算の  
正義としては、勝利の精神で進歩する。  
その一方で、この地には、これら心算の  
正義としては、勝利の精神で進歩する。

フェアプレーとは、フェアプレーは、  
フェアプレーとは、フェアプレーは、  
フェアプレーとは、フェアプレーは、  
フェアプレーとは、フェアプレーは、





# 全日本医師剣道連盟報



第12号  
平成15年2月

# 全日本医師剣道連盟報



第13号  
平成16年2月

## 大会記



大会会典 高橋 豊一



第12回全日本医師剣道大会は、平成14年9月13日～15日、徳島県に於て了しました。全大会の勝者を記して4年、札幌道場の戦士4人で、再びおこなった打ち合わせは、

- 1) 優勝者を記すため、戦士の写真と戦歴をのせたプログラムを作成
- 2) 優勝者は優勝者らしいものにしよう
- 3) 会場費は連盟持ちでしよう
- 4) 入り取り勝ち負け戦をやってみたい

そんな基本案を議論し、実行準備をすすめてきました。会場の地主には、戦歴、写真を添えて行く会費の手配をしました。新聞紙のかわりに、会費名簿と併せてプログラムを作ることにしました。会場費も、主催者より、日本の剣士である、戦士七位・林錦臣、戦士八段・宮内武典、戦士七段・山田和男、戦士七段・松本清彦、それに戦士八段・石井明正、松山源太郎、戦士六段・石野大輔、戦士七段・西村光之助等も光栄として、1時間20分たつた打ち合わせでしたが、この戦歴の作成と、会費の名簿から品定めのごまを言いました。

会場も北館となし、かに、この内へ、さうおききかたて買おうと、ロシアから輸入製の中、何とかがあつて、お母さんに買って来た、優勝者戦歴と戦歴を印刷して印刷した。地下大会場の準備の立派、優勝者名簿の印刷と取りかかってみました。大会日も開始に近づく、新大会も会費の印刷も完了、新



(12)

## 面 打



剣道士 伊野 京造

剣道がすまぬといふ戦いで復興しつつある今年、ここに月刊剣道新聞の発行を見るはまさに戦をえたものとして、お祝いの詞を申しあげて、田中社長、佐野剣士両氏の実宅、剣道中ふと増んだのが武道の面打である。一月二十五日大抵剣道大会における戦長中村吉武のむすびの言葉にあった今年剣道のことがその勇気であるかも知れない。「剣道」剣道にもなんで願のことを述べるのは肝をおさえて、さういふ準備をすすめてみよう。

世の対応さんがたにとり、大変い子供面打をゆすかされた。何をたれたか。お祝詞を讀みかきすることは出来られない大きな面打であるにちがいない。筆者が中学校ごろ(大正中期)は正取として、さういふ一つをおさるのねばならぬ時であったが、剣道をすてまに志った者の理由は「顔をブチ切るのが嫌だから」ということであつたのを記憶している。大正二年軍事教育会発行の乃木大

正武士遺稿の一番中七の九巻に、面「世人は、敵前を奪ふことなきが重なり、剣道見知り」等「今は志より重なり、手ぶへきの肩、替むべきの手多く、勝つて後勝者に死するものからを以て死は願ふが如きことあるやも返りがたし、戦れど面日は決して奪くこと無かりき。」とも始めの間は、面を打たるとは不便を感ずることあるも両腕振らぎて面に感ぜざるに立あり、今日も技術の進歩により、火に障るを完全ならしむるあるが故に各軍隊に於ては、面をなくす所既に有るが故に戦時に入れば、高段入隊を望むの用意ありたきものなり。然らざれば、武士道の修業等は決して遂げずべからず」(源の乃木將軍も「死は願ふが如きことあるやも返りがたし」と述べておられるほど、当時の剣道は面打のため事として進められては居たのであつたと思ひおぼえない。



山崎衛先生（関東医師剣道連盟会長）の書翰より



第38回全日本医師剣道福岡大会 宗像ユリックス 平成15年4月6日









第41回全日本医師剣道大会（初級厚大会）

（平成28年4月15日～16日、於：相模女子大学高等部体育館）



大会会場（野見山）道



このたび、第41回を去るまで本大会を神奈川県横浜市の高等部体育館で開催してきました。皆様のご協力と他道の皆様のご協力で、ご満足いただける会となりましたと喜んでおります。

今、日本は医療制度に際におき、医療制度を中心とした文化から始め、新しい個人主義、社会責任を基礎とした歩みで、いつと神に成り代わるといふ言葉と、神の御代はすべては人は平等というキリスト教文化のうら、責任と美の意識という神代までのわいて、自由平等のみを掲げ出した大中小の各道場がひらき、文化の進展の中心にあるようになりつつあり、そのなかにおいて、剣道は剣道として剣道の教えを今も、従来のよりいっそう守りある精神を伝えてきていると想います。しかしながらその保護のうちにも、社会制度と機を一にすべきような形勢がもたらされる風がするのは、私だけでしょうか。

「剣道一途」、38歳で入道されたという以前の仲生の長年の故です。剣道においては、一輪の剣道が道徳教育の心を成助する役割を担っています。この事をしていくとことごとく正しい剣の舞の中身は、同じものような気がしますが、審判に書かれていることは、素晴らしい剣まではあるものの一歩的、共通事項であり、最新の剣道（空手や格闘技）においては表現になって、そのまゝ進定できるものではなく、一歩一歩が教えをいたした教訓であり、また進定、先生の道徳の教えが心に響くものもなっています。

本大会は剣道界の面でお年を召され、日本を代表する剣道の道場を数多く輩出した、相模女子大学の高等部体育館をお借りして開催させていただきましたこととなりました。皆様ご協力をお願いすることとなりました先生方のご協力を御礼申し上げます。今後も大会にご賛助のお願い、尚書、有文の御礼を申し上げますことを楽しみにしております。

146

＜大会参加者一覧＞

- **大会役員**
  - 大会委員長 野見山 道
  - 副大会委員長 中山 和子
  - 実行委員長 小澤 兼子
  - 副実行委員長 中山 和子
  - 審判委員長 野見山和代子
- **来賓**
  - 全日本剣道連盟副会長 田原清一先生
  - 神奈川県剣道連盟会長 高野 昭明先生
  - 相模原市剣道連盟会長 小池 敏一先生
  - 相模女子大学学長 小倉 美千代氏
  - 相模女子大学助教授 野田 健子先生
- **観士（審査部）**
  - 長澤 照彦先生、 尾形 隆夫先生、 川原 洋 文生、 丸山 一哉先生、 小杉 敏雄先生、 藤村 正仁先生、 藤城 啓輔先生、 瀬村 憲治先生
- **観士八段（審査部）**
  - 片野 隆治先生、 高野 昭明先生、 藤原 隆夫先生、 笠村 清二先生



第41回 全日本医師剣道大会 相模女子大学高等部体育館 平成28年4月15～16日

○ 参加者名簿

- 北海道** 飯岡 寛（七段、80歳）、橋 仁（六段、47歳）
- 青森県** 宮 浩行（六段、30歳）
- 宮城県** 鈴木仁一（七段、80歳）、今村伊雄（七段、38歳）
- 山形県** 川村金剛（五段、46歳）
- 群馬県** 赤中幸司（四段、27歳）
- 東京都** 神宮吉秀（五段、30歳）、橋本信幸（七段、47歳）
- 茨城県** 藤本俊之（七段、36歳）、尾島保雄（七段、84歳）、文部源伸（七段、88歳）、杉 邦人（二段、49歳）
- 千葉県** 尾倉正徳（八段、84歳）、藤原隆平（香取道七段、47歳）、守 謙吾（七段、63歳）
- 埼玉県** 高木尚典（七段、74歳）、吉沢 洋（七段、74歳）、塚田 卓（六段、69歳）、志久高勝（五段、49歳）、藤本尚志子（六段）
- 東京都** 山崎 義（七段、81歳）、渡部健雄（七段、81歳）、大宮昌典（七段、79歳）、伊藤武尚（六段、59歳）、野村俊夫（七段、65歳）、大久保孝一（七段、89歳）、宮崎隆之（七段、89歳）、五藤 晃（二段、88歳）、佐藤明次郎（五段、56歳）、藤井健雄（七段、84歳）、藤原真智（七段、89歳）、藤野一樹（六段、89歳）、高橋尚典（四段、89歳）、大野光則（五段、89歳）、大島 哲（四段）、針浦 孝介（四段）、野田、48歳、伊藤 伸（五段、31歳）、畑中伸也（五段）
- 神奈川県** 野見山道（七段、41歳）、大野俊也（七段、81歳）、藤野隆平（五段、69歳）、神宮隆平（二段、84歳）、藤本由二（七段、61歳）、高野吉秀（七段、84歳）、日比野隆（二段、47歳）、比岡正樹（五段、66歳）、小前 浩（二段）、中山ゆき（四段）
- 愛知県** 赤野尚志（八段、89歳）、岡崎 崇（五段、47歳）、高橋伸一（六段、47歳）
- 滋賀県** 高 弘毅（七段、64歳）
- 静岡県** 笠原和洋（六段、30歳）、宮内修平
- 愛知県** 池田隆太郎（五段、42歳）
- 千葉県** 中山尚子（七段、84歳）、中村 幸（五段、63歳）
- 東京都** 松原英夫（五段、47歳）
- 東京都** 榎本俊介（七段、41歳）、杉村俊加（六段、77歳）、西中 孝（六段、47歳）、塚本三三（二段、41歳）

147

- 大阪府** 池田健雄（五段、72歳）、尾形和正（七段、84歳）、宮崎基之（七段、89歳）、北原繁夫（五段、83歳）、榎本尚志（七段、88歳）、宮 浩史（四段、84歳）、大宮一也（二段、28歳）、榎本千三（二段）
- 兵庫県** 和田美和（七段、77歳）、越山博行（七段、74歳）
- 岡山県** 小倉 肇（七段、82歳）
- 広島県** 藤村和仁（八段、84歳）、藤原進司（四段、82歳）
- 鳥取県** 藤原和史（七段、78歳）
- 島根県** 堀口 真（七段、56歳）
- 香川県** 伊藤孝康（七段、84歳）、石塚英樹（四段、54歳）
- 高知県** 藤本和樹（六段、37歳）、藤本和一（二段、56歳）、山内孝徳（二段、66歳）
- 福岡県** 松野英夫（七段、84歳）、藤原隆平（七段、84歳）、高橋 隆（七段、54歳）
- 長崎県** 高木信夫（六段、88歳）、藤原和夫（五段、88歳）
- 佐賀県** 吉野修平（七段、79歳）
- 大分県** 高橋信雄（七段、66歳）
- 熊本県** 山本健吾（七段、66歳）
- 鹿児島県** 藤本俊一（五段、51歳）
- 沖縄県** 尾島俊子（六段、37歳）、志島博隆（六段、49歳）、杉 義（四段、64歳）
- 宮** 野見山道（四段、35歳）



相模女子大学中等部女子柔道部練習場

# 全日本医師剣道連盟報



第17号  
平成20年2月

## 「医師剣道人の品格」



大会事務局長 西本 孝  
第42回大会を大阪主催で開催させていただき、無事終了できましたことは、会員の皆様のご参加と御寛容の賜物と感謝しております。振り返り、事務局として感じました点を大まかに検閲（自己批判）しておきたいと思っております。

本大会の目的は言うまでもなく医師剣道人相互の親睦を図ることにあります。今回御参加頂いた医師一人あたりに平均試合数は2.7試合であり、過去に比し少なくなりましたようですが、お互いの稽古時間は、昔に比べて少なくなったように感じました。これは最近の傾向として範士八段の先生方を多くお招きしていることも一因であろうと思われまふ。限られた時間の中とは言え、お互いの稽古時間をもう少し増やす努力をするべきでした。しかし、一方で範士八段の先生方に、稽古をお願いできる時間は貴重だとする意見もあり、容易には結論のでないところですが、会員相互の親睦を図ることを第一義とするならば、答えは明らかだろうと思っておりますが如何でしょうか。

また、試合の組み合わせに関する点ですが、従来通り同年代、同段位の先生同士が対戦できるように組み合わせてまいりますと、どうしても毎年同じような組み合わせになってしまい、新鮮味が失われます。この点、もっと大きな区分けのみにして、少々の差を問わず、また少々の段位の高低を問わずに組み合わせた方がお互いに新鮮で、親睦の会話も増え、良かったのではないだろうかと思われました。つまりは「原点回帰」でありましょうか。お年をとられた先生が、より若い先生にたとえ遠慮で打たれたとしても、心や気迫において決して引けを取っているわけでないことは言うまでもありません。打たれてもなお、正しい道を歩み、若い方の剣技や気迫を褒め称えて、次世代の医師剣道人を期待し、育んでいく姿勢を示すこともまた重要な姿であろうと思われまふ。このことは小生のごとき若い外科医が若い外科医を育てていく姿と同質のものであり、本大会は若い先生方に対して医師剣道人としての品格を学んでいただく良い機会であると思っておりますが如何でしょうか。

勝っておごらず、負けて悔やまず、勝ち方にも「良い」「悪い」があるように、負け方にも「良い」「悪い」があると思っております。いかなる試合にも常に品格を高く保ちたいものです。ご承知のごとく、幸いなことに本大会は勝ち負けにこだわらないという点で国内外に例を見ない誠にユニークな大会であります。このユニークさが、さらに生かされ、医師の品格や気風や交際知愛の心がはっきり示せる組み合わせを事務局としてもっと深く考えても良かったのではないかと反省しております。

## 第42回全日本医師剣道大会（大阪大会） 平成19年4月7日、8日、於：豊中市立千原体育館

大会会長 宮坂 昌之



皆様、ようこそ大阪へいらっしゃいました。今回は「生命と医療の原点 - いのち・ひと・夢 -」をテーマとする第27回日本医学会総会と歩調をあわせ、本大会を開催することになりました。全日本医師剣道連盟会員の皆様には、市内で行われる医学会総会で学問、研究活動にいそしんでいただき、その後、大阪府から北方約10kmの豊中市千原地域で、「医剣同心」、「文武両道」のお時間を過ごしていただければと考え、西本事務局長、長野三大阪府医師剣道連盟事務局長を中心に、一昨年から計画を進めさせていただきました。

特に、本大会は3年前にも大阪で開催されていることから、今回は前とは一様異なるものを盛り込もうと考え、大阪府医師剣道のメンバー一同、力をあわせて準備させていただきました。これに加え、今回も、大阪が誇る剣道範士八段の多くの先生方にお出でいただき、皆様と剣を交え、ご指導していただくことになっております。会員の皆様にはこの絶好の機会を逃すことなく、是非、日頃のご稽古の成果を十分に発揮していただくようお願いいたします。幸い、千原地域は新大阪にも近く、交通の便も良いところです。折しも、春うららかな良い季節ですので、ご夫婦ともどもゆっくりお過ごしいただき、大阪の春を満喫していただければ幸甚に存じます。皆様のご観戦をお祈りいたします。



- 14 -

## 第42回全日本医師剣道大会（大阪大会）を振り返って

大阪府医師剣道連盟事務局長 長野 拓三



3年前の第39回全医剣大阪大会は嵐山・長野体制で運営いたしました。そして今回の第42回全医剣大阪大会は宮坂・西本の新体制で臨みました。第39回大会の総括を踏まえ、新企画を折り混ぜて、万全の体制で迎えたのですが、いざ本番になりますと、種々の手落ちがあり、ご迷惑をおかけしたと思われまふ。しかし、参加者の皆様方の御協力で大会も無事乗り切ることができましたし、そして後日、参加者の多くの方々から沢山の御礼状を戴きましたので、大会はなんとか成功裡に終えることができたのではないかと主催者一同安堵致しております。

この第42回大会の運営に当たり、大阪府医師剣道連盟としては経済的にも、企画力においても御力を結集して宮坂・西本体制を支えました。宮坂会長・西本事務局長の息の合った連携プレーで考案された、新しい大会のパターンを創り上げる情熱に全員が賛同して、大会を運営することができました。

今大会の会長の宮坂・阪大教授は日本免疫学会の会長でもあり、同日開催中の日本医学会総会の役員もされていましたので、多忙極まりない立場におられたのですが、まるで千手観音のように全部の役目をこなされました。

一方、今大会の舞台裏を一人で支えたのが西本事務局長です。たとえば懇親会でのショート・ムービーで上映したDVDにしても、過去のビデオ・テープを全て見て、15分間に編集されたり、また、大会の全日程を記録したDVDを製作したりで、大変な作業を一手に引受けてくれました。そして、優秀選手賞の初の本刀にしても西本先生の発案でありましたし、また、次期大会の主賓者にも引き継げる大会備品の調遣・整備も手配されました。このような西本先生の手腕は大阪府三島救命救急センター長として、永年苦勞された時に培われたものと思われまふ。

毎年大会が開催されるたびに問題になるのが、大会参加者が少ないことです。大学も増え、医師数も増えたのに大会参加者数が80~100名程度に止まっていることです。今回も西本事務局長が近畿圏の大学剣道部OB会に働きかけて、参加を呼びかけましたが、うまく行かず、問題の難しさを物語っています。この点について全医剣の皆さん方に各地で努力していただき、大会参加者が増えますよう活動していただきたいと思っています。

# 全日本医師剣道連盟報



中島 達 氏 作

第18号  
平成21年3月

## 第43回全日本医師剣道連盟（兵庫大会）

大会事務局長・剣道七段 中島 達



第43回「全日本医師剣道大会」を平成20年4月19日(土)・20日(日)の両日におたり兵庫県立武道館（郡野中）において開催させていただきました。ハワイの赤城先生を始め全国各県から95名の剣道・剣合道を愛好される医師・歯科医師の先生方にご参加いただきました。ご参加下さいました先生方に厚くお礼申し上げます。今回は「いきいき笑顔」を本大会のテーマに、先生方に十分に剣道を楽しんでいただけるようにと、立合回数と稽古時間をできるだけ多くとれるように企画させていただきましたが、お楽しみいただけましたでしょうか。何分不慣れにて、至らぬところ多々ございました。プログラムの編入写真入り選手紹介で、個人名の先生で後援・出身大学等に誤差をしておりました。予想外に大会が早く終わりました。バスの到着が間に合わずお帰りに大変ご不便をおかけしました。また、宅配業者の手配を忘れて誠に申し訳ございませんでした。心よりお詫言申し上げます。ただ、平儀、至らぬ所多かつた中で、鈴木博徳編主（審判長）が、「先生方の剣道は素晴らしい！」と大変ありがたうお褒めのご言葉を下さったことが私には唯一の救いとなっています。先生方が大変気さくな立会をなさられたその成果がそのまま「素晴らしい」というご褒言に表れたものと思ひ、非常に嬉しく印象に残っています。

最後に、本大会を無事に終えることができましたのも、前回の42回大会をお世話されました大阪の先生方から多くの貴重な物品や会員名簿・お顔写真データ等をいただくことができましたお陰です。そして、大会当日のご来賓・審判の先生方、そして選手の皆様方のご協力のお陰です。感謝、御礼申し上げます。また、会場係をお勤めました、神戸大学医学部と兵庫医科大学の剣道部の学生さん達には大変お世話になりました。ありがとうございました。会員の方の、益々のご健勝とご活躍を祈念申し上げます。お詫言とお礼の「大会誌」とさせていただきます。  
(慶徳大医 347 号)



# 全日本医師剣道連盟報



第19号  
平成22年3月

第19号  
平成22年3月

## 第44回全日本医師剣道大会（千葉大会）

大会会長 遠山 富也



開会挨拶

全日本医師剣道連盟会員の皆様、全国各地より千葉によくおいで下さいました。心よりお礼申し上げます。1年ぶりに皆様とお会い出来、交剣知愛の実を当地で具現出来ることを衷心より嬉しく思います。

漢下厳しい医療情勢の下“流石！剣道人は一味違う”と目に輝きたい、とそのことを念頭に準備をして参りました。皆様は医師として、亦、剣道愛好者としての日常の御精進の結果をご披露頂ければお賞賛致しました我々一同幸甚と存じます。

第四十四回大会実行委員会



遠山 富也 (大会会長)  
長尾 啓一  
西島 浩  
長瀬 聡村  
鈴木 秀  
小出 義雄  
佐々木 健  
川島 隆男  
宇 三英  
廣瀬 彰  
新藤 寛  
田中 誠

# 全日本医師剣道連盟報



第20号  
平成23年3月

全日本医師剣道連盟

事務局 〒154-0021 東京都世田谷区豊徳寺1-18-12

TEL 03-3429-8613

FAX 03-3425-2142

**報告**

願って、東北地方太平洋沖地震被災地・被災者の皆様に被災地の地域医療に献身される全日本医師剣道連盟各会員の御芳に感謝申し上げます。併せて、会員各位の安全を心からお祈り申し上げます。

日本医学合会総会期間中に開催する第46回全日本医師剣道大会（東京大会・四月九日・十日）の中止を願ってお知らせいたします。

合掌  
伊藤 元明

平成23年3月14日  
全日本医師剣道連盟会長  
第46回全日本医師剣道大会会長

**前略**

この度は第46回全日本医師剣道大会の開催にご協力頂きまして誠にありがとうございます。

さて、去る3月11日に発生しました東日本大震災は私たちの想像を絶する甚大なる被害をもたらしております。この壮絶なる現実を鑑みまして今大会会長および実行委員会で討議しました結果、社会的そして人道的見地から大会開催の中止も止むなしと結論するに至りました。大会に向けてご尽力頂きました皆さまにはご理解を賜りたく、ただ深謝あるのみです。

末席となりましたが、被災地の皆様方のご無事と速やかなる復興を心より祈念申し上げます。

第46回全日本医師剣道大会  
実行委員会 代表 衣原幸彦

**追記**

お振込み済みの参加費・宿泊料等は、会員のご口座にお振込みする形でご返金いたします。現在、(株)JTB 首都圏と研修を検討しておりますので、お振込みされた会員に別途お知らせいたします。

**同封の連盟報第20号のお詫びと訂正**

全日本医師剣道連盟報第20号に誤りがございました。お詫び申し上げます。

41頁 剣道七段昇段のお知らせに記載の三先生のほか  
山本晋一郎 先生、菅松 紀雄 先生、藤崎 成 先生が剣道七段に昇段されました。

# 全日本医師剣道連盟報



～江戸流 日本流～

第21号  
平成24年2月

全日本医師剣道連盟

事務局 〒154-0021 東京都世田谷区豊徳寺1-18-12

TEL 03-3429-8613

FAX 03-3425-2142

## ご案内

**第47回 全日本医師剣道大会（米子大会）**



謹啓 初下します。ご挨拶のこととお詫び申し上げます。

平素日頃のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。昨年は東日本を襲った未曾有の地震と津波により、第46回全日本医師剣道大会は急遽中止となりました。私たちは、この現実ある悲劇を悔やみたいと思っています。

皆様待望の第47回大会は、東海復興により、山陰の地、米子市において開催いたします。この大会において医師剣道大会としては久しぶりに選手権大会を行うことといたしました。特に若い世代の新メンバーを多くして、会場の拡大を図るためです。どうか奮ってご参加ください。

この山陰の地は古代河原文化の本拠地でありました。震災発生を中心とした精神の道であります。近くには他にも大山丸輪の巨大なコルクシヤンと日本一の評価を得ている日本酒蔵の「足立酒蔵」、また絶好の地になった米子市に「タダダの鬼太郎」の観音寺など面白いところがあります。

この機会に訪れる機会のない山陰の地を旅してみてください。

第47回全日本医師剣道大会  
大会会長 飯塚 晋次  
実行委員長 藤村 正仁

# 全日本医師剣道連盟報



伊達政宗の騎馬像(仙台市歴史博物館)

第22号  
平成26年3月

## 全日本医師剣道連盟

〒114-0011 東京都文京区本郷4-1-13 TEL 03-3421-9313

TEL03-3421-9313

FAX03-3421-2347

～発行・編集・印刷まで一括サービス～

# ご案内

## 第48回 全日本医師剣道大会(仙台大会)



多年以前に決めていただいた仙台での大会も、早いものであと3か月弱になりました。例年のごぼろ大会を盛り上げ、大会の開催をしなければならぬ、実行委員会の方々とともに準備を進めているところであります。

仙台での大会は、昭和48年 田村善也会長、平成9年 鈴木功一会長による開催について決意しております。

東北地区は2年間の大震災・大津波・原発事故による甚大な被害を受け、ここ仙台西郊地区においても多くの人命の犠牲がありました。仙台部こそは被害を受けましたが、治療には困っていません。

このような状態ではありますが、仙台に全国から医師剣道の仲間をお呼びして大会を開催することが出来るのは望みの喜びであります。

仙台大会では、しばらく行われていない地区別対抗戦をメインイベントとし、さらに選手招待も取り入れ、多くの方々が剣道同好会を交わされるようにしました。また、2日間とも8時の方針を元にした自由参加の開催を予定しております。皆様のご参加をお楽しみ下さい。

お申し込みには高年への会報と抽選で映画・福祉券を当たる観覧券プレゼントを実施しました。

他業からの皆様のご来会を望みながら、是非、この機会に仙台に足を運んでいただくことよりお待ちしております。

謹言

第 48 回 全日本医師剣道大会

大会会場	仙台 動体館
実行委員会	佐藤 浩一

## 【 特別寄稿 】

### ～平野直樹：矢と矢の衝突～

全日本剣道連盟副会長

本村 隆太郎

から よるとろ

全日剣道で文武両道は高野先生以来である。剣道 剣術、東洋体育大学入学、併せて剣道教員部。剣道 41年、東京府剣道協会会長、東道主部長。高野先生と出陣奉告、東道主部長の任期満了直前、東道主部長、剣道会長の任期中に引退。平成17年、全日本剣道連盟副会長として初代直樹に就任。平成19年、全日本剣道連盟副会長を退任。平成21年、副会長(専任)就任。



専任の副会長本村

### 第十三回 進歩の基本

先ず初めに、剣道道場者が多くの人々の健康を促す。年取、日本剣道連盟員に認めることには非常に喜ばしい。

武道部職員は、知識自身の非に一致して、その発展を促されるように努めます。

この機会に、日本剣道連盟の新しい姿を簡単に話して置こう。

十年前、学生時代にこの機会、正力先生が私に「剣道一の武道館を建てようではないか」と呼びかけてきたのがきっかけで、正力氏が主となって剣道に踏み込んだのである。

まず、現在の状況に基づいてという事で、剣道連盟で正力氏が経営者を行ない、再成長を促す各団体等一致で賛成となった。これが機運で、この状況に基いて武連協建設を始めたのだが、いままさに稼働しているのは、本野直樹の意欲的な協力のおかげだ。

東道主の意向のままならぬ武連協をこつとも、武連協建設事務所に就任してくれた。あのような理想的な状況を推進する所においてくれたことは大変なことだ。いぼとなつては、実はこの大きな協力を加れない人が無い。

また本野氏が中心となって、剣道会を協同も助けて、世界の道を呼びかけた。それこそ、大変な活躍をしてくれた。

その結果で、いろいろ事情を承けて、経営計画の策定に専ら従った。

それに乗ってそれが大きな問題であったが、世界の一流の技術者、その先頭は

建設者が決まった。ところが、この建設現場には警察官が居た。それでこの建設現場も警察に注意された。警察官によっても大規模な工事がある。当時の警察局長が77歳も高齢者が居た為、話してはくれず断られた。

また建設現場の許可の申請で、労働局長と面接をしたことも忘れられなかった。

かくして、正力直樹を中心として、武連協の方針、東道主の意向、剣道日本村の意向、また本野直樹、佐藤浩一が副会長となって、体制を整え「正力直樹が主として稼働した。

ところが正力氏が地味、好むのが大規模な建設で、建設に重点を置いた。これは多くの人々の協力によって、建設の道に踏み出した。知事とも交渉したことは誠に喜ばしい。

武連協建設の観点で、いかにやらせてもらいたい。

また、建設現場の状況は、東道主の再三三回ある、東道主中野氏の協力に促された。それと、その建設現場の現場で、建設現場の進捗に促された。

それは、

「健康、教育、経済が中心となって建設現場も計画しているが、健康の方は非常に重要である。健康をもう一つにおいて建設現場は非常に重要であるから、健康と教育の二つが建設現場の方針についてよければいい。

この経営に力を入れ、これに関連して、全日本剣道連盟では「剣道の本拠地(剣道同好会)を建設したので、ここに建設する。

――建設現場の建設は、建設現場の建設による人間の健康と安全である。

――建設現場の本拠地と建設現場の建設による人間の健康と安全を確保して健康な生活を送る。――建設現場の本拠地と建設現場の建設による人間の健康と安全を確保して健康な生活を送る。――建設現場の本拠地と建設現場の建設による人間の健康と安全を確保して健康な生活を送る。

全日本剣道連盟の中に、専任の副会長が居た。建設現場の現場で、建設現場の進捗に促された。



# 全日本医師剣道連盟報



伊豆フーデ、ネオフ（福々治人）の会の建

第 23 号  
平成 26 年 3 月

## 全日本医師剣道連盟

事務局 〒114-0001 東京都中央区日本橋区牛1-15-11  
TEL 03-3429-6001  
FAX 03-3429-2142

会報、会報副会報とインターネットによる発行

# 全日本医師剣道連盟報



第 24 号  
平成 27 年 3 月

## 全日本医師剣道連盟

事務局 〒618-0011 大阪府三島郡島本町広敷3丁目6-1  
西本会館 TEL 079-951-0101, FAX 079-951-0501  
info@japan-medical-kendo.jp

## ご案内

### 第 49 回 全日本医師剣道大会（長峰大会）



皆様におかれましてはますますご清祥の歳、お慶び申し上げます。

第 49 回大会は、梨枝聖徳の通り、高松府で開催することになりました。

今大会では、梨枝太夫で歴代だった地区別対戦戦を習い続けて、新しい歴史の瞬間も充分にとりたいと思います。

会報に集らば、笑顔あふみの八角の先生方にも準備をお願いしています。

有意義な大会となるよう、準備を致していますので、一人でも多くの医師剣士の先生方の準備をお願いしております。

「チカラケ」全盛期との...

梨枝府、チャンボン、鼓うどん、長崎の料理、コッパシツ、獅子舞、  
舞鶴島、ホステラ、美味しい飯、和牛焼肉、嵐の社中、オランダ屋敷、  
諏訪の宮、徳山神社、さだまさし、長崎ばらばら船、津波船、大川丸、  
フジちゃん、長崎美人、シーボルト、長崎レジャーズ、奉天館、イブニング、  
世界新三大漁業、への学術工、オランダ屋敷、ヤクシユ、マードラ、内和歌子、  
日経新、早稲科次郎、早稲科史、お茶、長崎の輪、さらさら、糖蜜屋、  
出島、二重、舞多屋、水虎堂、... 等など  
これが、長崎です。

皆で準備を下さ、お心いってくださいませ。

謹白

長崎府 全日本医師剣道大会

長崎大会会長 西本 信久

## ご案内

### 第 50 回 全日本医師剣道大会（京都大会）



皆様におかれましてはますますのご清祥の事、お慶び申し上げます。

第 50 回大会は、別紙要項の通り、4 月の桜満開の時期に京都市で開催されることになり、御高配頂りました関係者の皆様から心からお礼申し上げます。京都での大会は、第 5 回（昭和 45 年）高岡謙次会長、第 10 回（昭和 50 年）会長不詳、第 21 回（昭和 61 年）根本浩介会長、第 26 回（平成 3 年）

横間誠夫会長による開催について 24 年振りに 5 回目となります。今大会では、最近定例になりました地区別対戦戦を引き継いで行いますと共に、47 回大会に続いて個人戦を新たに年代別に分けて復活し、日頃の稽古の成果を存分に出して頂ける様に企画しております。2 日間とも 8 校の方々を元立ちにお越し、また合同稽古にて皆様相互の稽古もお楽しみ下さい。

有意義な、そして京都らしい大会となりますよう、現在、実行委員会の方々と準備を致しておりますので、一人でも多くの医師剣士の先生方の参加をお待ちしております。

謹白

第 50 回 全日本医師剣道大会

京都大会会長 宮村 了勇  
実行委員長 西本 知二

# 全日本医師剣道連盟報



第25号  
平成28年2月

## 全日本医師剣道連盟

事務局 〒619-0011 大阪府三島郡高井町広通1丁目6-1  
西本館前 TEL. 075-961-0107, FAX 075-961-0501  
info@japan-medical-kendo.jp

### 全日本高剣道友会

名誉会長 高崎 慶男



#### プロフィール

大正十二年一月十六日生 (八十番歳)  
十歳より高井小学校剣道部で先生の指導で  
きで竹刀を握る  
石原養学校卒 (現、石原一高)  
高井小学校教員辞職  
高倉に居る 陸軍少尉 北支那の戦場で  
大死に一生を得る  
(無期懲役 (現、無期禁錮) に入行し懲  
束、江戸崎、古巣文高を越えて、本道世傳  
部長、取締役兼部長、 経理部長、本店  
営業部長を経て、退任する  
元茨城県剣道連盟副会長、現担任役  
元全日本高剣道友会長、現名誉会長  
剣道八段 七十四歳にて合格  
剣道七段 八十四歳にて授与  
文部科学大臣表彰(剣道の普及振興による)  
全日本剣道連盟より剣道有功賞授与  
全日本剣道連盟より剣道功労賞授与



### ご案内 第51回全日本医師剣道大会 (茨城大会)



皆様にはますますご健勝のこととお慶び申し  
上げます。来春、第51回大会を茨城県つくば市  
にて開催いたします。

茨城県での本大会は、平成2年の第25回大会  
(大伴一郎会長)から26年の時空を超えて2回  
目となります。

今回の大会では、全国で医師として剣道家と  
して活躍されている皆様が日本の医療活動に加  
えて、剣道の修養を通じて心身を鍛磨しつつ、文武両道・生涯剣道を  
実践されている姿を地域住民が気軽にみられるように公開しようと思  
います。本大会の期間中には、伝統文化である剣道と芸術の融合を1  
つのテーマとして、会場つくばカピオにおきまして、地元茨城県の剣  
道家による剣道の絵巻と絵巻の展示も企画しております。より多くの  
剣道に動かしむ青少年や地域住民に広くアピールしたいと考えています。

大会では審判員に佐藤成徳様八段を、審判には茨城県内の八段の  
先生の他、筑波大学ゆかりの先生や願うきせていただいている県外  
の八段の先生にもお声かけさせていただきました。模範試合は県外 vs  
県内の先生方のすばらしい試合が見えるものと思っております。  
今回の試合形式は、1日目に審査形式拝見試合、2日目には地区別対抗  
団体戦と東西対抗戦を予定しております。

本会を開催するに当たりましては、実りの多い会になりますように精  
一杯努力を致す所存であります。

つくば市は、歴史ある近隣の土浦市とともに、筑波大学、宇宙航空  
研究開発機構 (JAXA) をはじめとする数多くの研究所などの最先端の  
科学技術と万葉の時代から歌われていた常陸朝山を代表とする大自  
然が融合する魅力あるふるまちは、是非、観光もお楽しみください。

竹刀を握り始めてから八十五年たちました。折角曲折はありましたが、よくぞ  
動きながら練ったと思います。竹刀から学んだ美意識は息の長い営みの中で試行錯  
誤しながら体幹に深く蓄えられたものがあります。一筋縄でない得心の技を追い  
求めてそこにかもしだす人間模様は計り知れないものですが、剣道という切  
極極極もたらす情愫 (思いやり) みたいなものがうずまきます。高齢化社会  
の到来になり生涯云々という言葉が聞かれるようになり、剣道界にもご多分に  
洩れずその波が押しよせる現象は明らかであります。生涯剣道について語れ  
との名題を頂きましたが、私は未経験の最中ではありますが、その一端にふれさせ  
て頂きます。

活人剣を提唱する大先輩の石原忠美様は生涯剣道とは老後の剣道の工夫だ  
と申されております。具体的には第一には健康維持の大前提で次に無駄打を省  
略する、即ち、自分の持っている調整力をうまく使うことです。そして気取め、  
抑える、弱いところを見せない工夫で、いわば俳句のようなもので西文字使  
て表現したいものを十七文字に表わす、そして見る人読む人に余韻を残し、感  
動を与えるものだとの特許です。前の東京都剣道連盟の会長だった伊藤元明先  
生は医術家一途という籍子の中で剣道美学にふれられている。「正確さ、滑らか  
さ、律動、拍子、そして調和」があれば美しく見える。だがこの美学は夫々個々  
様々であってこれだというものでもない、習っていい、それが理にかなない貴な  
ものとして執るものであれば美学として審判三人が一致に手をあげるのでは  
ないでしょうかと問いかけています。そしてヒポクラテスの論しの言葉「生命  
は短い」「技術は長い」剣道に終りはない、美には奥の世界があると修行の求め  
方にふれて、「打つ機会」の判断は難しい、私達医療の世界での診断、判断も同  
様で軽々しいものでない、そして人間は死に向かって成長するものだと知見を  
述べておられます。

一〇四歳になられる黄色の縁起書家の種田桃紅さんは「一〇三歳になってわ  
かったこと」の様子で、歳をとって失うものもあるが歳をとらねばわからな  
かったことがある、若い時は客観視しているつもりでも自分がその渦中にある  
ので限度がある、歳をとるにつれ自分や他人を見る目の高さが上がってきます  
と桃紅さんは感覚を磨くこと、そして感覚は語で学ぶことも大切だが体感とし  
磨を磨くことが大切だと力説している。先輩の言い分を時に学ぶが気持ちで引用  
させて頂きました。お三方の求めているものは生涯剣道をたしなむものにと  
って大事な示唆であると思えます。

◆ 幹 極 発 動  
せいきわまればどうにほつ



## 全日本医師剣道連盟報



第 26 号  
平成 29 年 2 月

### 全日本医師剣道連盟

事務局 〒619-0011 大阪府三島郡島本町広瀬 3 丁目 9-1  
西本医院 TEL 075-961-0167, FAX 075-961-0501  
info@japan-medical-kendo.jp

11

## ご案内

### 第 52 回全日本医師剣道大会（高知大会）



会員の先生方にはますますのご健勝、ご祝賀のこととお喜び申し上げます。「第 52 回全日本医師剣道大会～わざわび行く高知大会～」を平成 29 年 4 月 6 日（土）9 日（日）に、高知市で開催する運びとなりました。

高知での開催は昭和 47 年、川辺慶堂先生が第 7 回大会を主催されて以来、約半世紀 45 年を経過して 2 度目になります。今回は、「1 日目に審判研修の立ち会い、会員同士の親睦行事、2 日目に年代別個人戦を予定しております。有意義な大会になりますようお趣意申稱を致しておりますので、一人でも多くの医師剣士の先生方の参加をお待ちしております。

高知県は、東は室戸岬から西は足摺岬までの 200km の超長い海岸で、南は東海諸島太平洋、北は県の 84% を占める閑寂に満ちた山々に囲まれ、平安時代に土佐日記を書いた紀實之、戦国武将では若狭平定の長宗我部元親、幕末より坂本龍馬、中岡慎太郎、三愛勤助等の留陣所太郎、通称ジョン万次郎、戦国大名を西めた百田茂らの偉人を輩出しております。

食文化は素晴らしい「地元のおいしい食べ物」部門でのランキング 1 位に輝いております。自慢には全国的に有名な白滝市が隠れております。観光では丹の毛存の稲刈・坂本龍馬像、美知城歴史博物館、百田民権記念館、よきこい情報交流館、龍馬の生まれた町記念館、ひろゆ市場、現存する国内最古の電車では最古の踏切電車、五台山には高 31 巻札所竹林寺、牧野植物園があります。

## ご案内

### 第 54 回全日本医師剣道大会 ～どんとこい東京大会～

（全日本医師剣道連盟創立 60 周年記念大会）



第 54 回全日本医師剣道大会が東京で開催されることになり、第 4 回全日本医師剣道大会が東京で開催される予定でしたが東日本大震災で開催中止となりました経緯があり、今回も平成最後の年となり 5 月に成立することになり（新発号にするため）1 日間の大会が実施されることになりました。1 周年 2020 年にはオリンピック・パラリンピック大会が東京で開催予定されており、一時は大会運営上大きな困難を伴うことが予想され、再度、医師剣道大会の開催の延期、または中止を考えざるを得ない状態でしたが、大会準備委員の皆さん、大会開催への熱意とその他多くの関係者の協力・尽力により、大会開催に向け努力することとなり、今日にまいりました。

「どんとこい東京」第 54 回全日本医師剣道東京大会  
全国の先生方は日々「医剣一如」「医剣不離」の理念をもち医師剣道の修行に励まれておられると思います。

毎日の生活は剣道修行そのものと思ひ、毎日を送っているつもりですが、剣の道は道が深く、百鬼の北風との激闘は話がるばかりです。竹刀をとりて 50 年単位以上の時が過ぎ、ただ、続ける事と思ひながらも、生活環境の変化や変化の速い時代と闘っております。ただただ続けるのみです。これが生活剣道でしょう。

先生方の全日本医師剣道東京大会でのご活躍を念願いたします。

### 第 54 回全日本医師剣道大会（どんとこい東京大会）

大会会長 稲村征夫

## 全日本医師剣道連盟報



（全日本医師剣道連盟創立 60 周年記念ロゴ）

第 28 号 平成 31 年 2 月  
全日本医師剣道連盟

事務局 〒305-0044 茨城県つくば市登木 3-23-25

林 樹人 TEL & FAX: 029-855-7446

e-mail: info@japan-medical-kendo.jp

第49回  
全日本医師  
剣道大会  
長崎大会

平成26年4月5日(土)～6日(日)

- 長崎県立体育館中ブアリーナ
- 全日本剣道連盟
- 長崎県剣道連盟 長崎府全日本医師剣道大会実行委員会
- 長崎県医師会 長崎県医師会
- 全日本剣道連盟 長崎県剣道連盟 長崎会剣道連盟

優秀選手

東軍：中山尚次、長野拓三、林 明人、宮坂信之  
西軍：棚澤知子、吉賀行雄、園田崇史、竹崎達也  
保 雅和、福田航介、藤本浩一、吉田武史

大会の模様



第49回全日本医師剣道大会(長崎大会) 実行委員会(左から) 長崎県立体育館中ブアリーナ

新聞記事



第五十一回  
全日本医師剣道大会  
茨城大会

医剣一如

日時：平成二十八年四月二日・三日(土・日)  
場所：つくばカピオ  
主催：全日本医師剣道連盟  
主賓：茨城県医師剣道連盟  
共催：つくば市  
入場無料、四月二日正午～三日午後三時

伝統文化の剣道と芸術の融合  
剣道墨絵と能面の展示

守山 尊

医剣一如  
剣道を愛好する医師が日常の医療活動にかえて  
剣道の情をこめて心をこめて  
文武両道・生涯剣道を實踐し、  
広く社会に貢献することを  
第五十一回 全日本医師剣道大会にて宣言します。

後援： 日本医師会、全日本剣道連盟、茨城県医師会  
茨城県剣道連盟、つくば医師会、つくば地区剣道連盟  
つくば市体育協会剣道部、土浦市剣道連盟

表紙印刷「風波山と櫻花」：林 京平

第五十一回  
全日本医師剣道大会  
茨城大会

剣道と芸術の融合  
剣道墨絵と能面の展示  
入場無料

日時 平成二十八年四月二日・三日(土・日)  
場所 茨城県つくば市クビオ  
主催 全日本医師剣道連盟  
主管 茨城県医師剣道連盟  
共催 つくば市

守破離

能面 - 山崎 洋一

第52回  
全日本医師剣道大会  
高知大会

平成29年  
日時 4月8日(土)~9日(日)  
場所 高知県立武道館

主催 全日本医師剣道連盟  
主管 高知県医師剣道連盟  
共催 高知県立武道館、高知市医師会、高知市剣道連盟

第53回  
全日本医師剣道大会  
いざ いわて北上大会

平成30年  
日時 4月14日(土)~15日(日)  
場所 北上総合体育館

主催 全日本医師剣道連盟  
主管 岩手県医師剣道連盟、北上市剣道連盟  
共催 岩手県医師会、岩手県剣道連盟、北上市医師会、北上市剣道連盟、岩手県立大学、岩手県立大学附属高等学校

第54回全日本医師剣道大会  
～どんとこい東京～

日時 令和元年5月18日(土)~19日(日)  
場所 東京医科大学 記念会館

主催 全日本医師剣道連盟  
主管 関東医師剣道連盟  
共催 東京医科大学校友会

全日本医師剣道連盟創立60周年記念大会

## 会員登録・変更の手続き

全日本医師剣道連盟 連絡用 PDF

入会、退会、ならびに連絡先・段位・称号・連絡手段などに変更がある場合、この PDF に記載して、以下のいずれかの方法で連盟事務局にお知らせ下さい。

1. FAX する。 029-855-7446
2. 連盟専用 e-mail : [info@japan-medical-kendo.jp](mailto:info@japan-medical-kendo.jp) に添付して送る。
3. 郵送する。 送付先：〒305-0044 茨城県つくば市並木3丁目23-25  
全日本医師剣道連盟事務局 林明人

いずれかに○	入会・退会	段位・称号変更	住所変更	電話番号変更	メールアドレス変更
--------	-------	---------	------	--------	-----------

以下のすべての項目に記載し、変更点のある場所を大きい○で囲ってください。

ふりがな			生年月日	年	月	日
氏名			出身大学	学歴		
			段位		称号	

連絡先住所（郵便物送付先）	〒	
いずれかに○	自宅	
	勤務先	
	固定電話	
	携帯電話	
	メールアドレス1	
	メールアドレス2	

以下の欄には、連盟に知らせたいこと等を、ご自由にお書き下さい。

# 全日本医師剣道大会記録

回次	開催年月日	開催地	備考
第54回	R1/05/18-19	東京医科大学記念会館	大会会長：稲村征夫 実行委員長：荻原幸彦
第53回	H30/04/14-15	北上総合体育館	大会会長：菅 義行 実行委員長：川上 格 事務局長：茂木 隆
第52回	H29/04/08-09	高知県立武道館	大会会長：谷木利勝 実行委員長：枝重恭一
第51回	H28/04/2-3	茨城県つくば市（つくばカピオ）	大会会長：大柁廣伸 実行委員長：林 明人
第50回	H27/04/11-12	京都市武道センター	大会会長：吉村了勇 実行委員長：西本知二
第49回	H26/06/05-	長崎県立総合体育館サブアリーナ	大会会長：萬木信人 実行委員長：吉田善春
第48回	H25/06/22-	仙台市青葉体育館	大会会長：今村幹雄 実行委員長：渡邊哲子
第47回	H24/04/07-	鳥取（鳥取県立武道館）	大会会長：飯塚幹夫 実行委員長：湯村正仁
第46回	H23/04/09-	東京 東日本大震災により中止	大会会長：伊藤元明 運営委員長：荻原幸彦
第45回	H22/04/10-	三重（県営サンアリーナ）	大会会長：中山尚夫
第44回	H21/05/23-	千葉（千葉ポートアリーナ）	大会会長：遠山富也 実行委員長：西嶋浩 事務局長：長尾啓一
第43回	H20/04/19-	兵庫（兵庫県立武道館）	大会会長：松井英互 運営委員長：佐藤義典
第42回	H19/04/07-	大阪（豊中市立体育館）	大会会長：宮坂昌之 事務局長：西本 孝
第41回	H18/04/15-	神奈川（相模女子大体育館）	大会会長：野見山延
第40回	H17/04/16-	大分	大会会長：広瀬信道 運営委員長：河野信一
第39回	H16/04/17-	大阪（大阪コスモスクエア国際交流センター）	大会会長：鏡山博行 運営委員長：長野拓三
第38回	H15/04/05-	福岡（宗像ユリックス）	大会会長：加野資典
第37回	H14/09/14-	札幌（札幌市総合体育館）	大会会長：道下俊一
第36回	H13/04/14-	熊本（熊本大学総合体育館）	大会会長：笹原 登 事務局長：由布雅夫
第35回	H12/04/15-	広島（広島県立総合体育館武道場）	大会会長：十河勝正 大会副会長：瀬尾憲司 運営委員長：渋川哲治
第34回	H11/04/03-	東京（東京医科大学記念会館）	大会会長：山崎 衛 運営委員長：伊藤元明
第33回	H10/11/21-	鹿児島（鹿児島アリーナ）	大会会長：楠元忠雄 実行委員長：諸木浩一
第32回	H9. 9. 14	岩手（岩手県営武道館）	大会会長：中村好和 実行委員長：小西 一
第31回	H8. 9. 22	沖縄（沖縄県立武道館）	大会会長：永山 薫 運営委員長：永山盛隆
第30回	H7. 4. 9	愛知（江南市民会館）	大会会長：村瀬守男 運営委員長：吉尾 豪
第29回	H6. 10. 16	東京（東京医科大学記念会館）	大会会長：宮地 誠 大会副会長：山崎 衛 運営委員長：伊藤元明
第28回	H5. 10. 10	福岡（県立久留米体育館）	大会会長：熊丸 治 運営委員長：加野資典
第27回	H4. 9. 27	高松（高松市総合体育館）	大会会長：畠瀬 修 運営委員長：伊藤保憲
第26回	H3. 4. 17	京都（京都市武道センター）	大会会長：横関誠夫 運営委員長：横関保彦
第25回	H2. 9. 23	茨城（つくば第3県民センター）	大会会長：大瀬一郎
第24回	H1. 9. 15	仙台（県武道館）	大会会長：鈴木仁一
第23回	S63. 9. 11	米子（市民体育館）	大会会長：中曾栄吾
第22回	S62. 4. 4	東京（東京医科大学記念会館）	大会会長：大瀬一郎
第21回	S61. 9. 14	京都（京都市武道センター）	大会会長：根本浩介
第20回	S60. 9. 15	千葉（千葉県武道館）	大会委員長：綿貫重雄
第19回	S59/10/27-	岡山（岡山武道館）	大会委員長：日下 連

全日本医師剣道大会の記録			
第18回	S58.4.9	大阪（久保田鉄工中央体育館）	大会委員長：中村周吉郎
第17回	S57.10.10	広島（キリンビール広島工場体育館）	大会委員長：藤井 実
第16回	S56.11.7	静岡（市民体育館）	大会委員長：内田智康
第15回	S55.5.25	長崎（市民体育館）	大会委員長：前田信良
第14回	S54.4.8	東京（東京慈恵会医科大学体育館）	大会委員長：海老原千春
第13回	S53.9.23	名古屋（愛知県スポーツ会館）	大会委員長：三輪田薫
第12回	S52.11.13	下関（市立山ノ田中学校体育館）	大会委員長：桃崎正香
第11回	S51.5.16	新潟（県立総合体育館）	大会委員長：外山司郎
第10回	S50.4.6	京都（武徳殿）	
第09回	S49.5.25	熊本（県武道館）	大会委員長：笹原 登
第08回	S48.10.13	札幌（札幌体育館）	大会委員長：内藤詩郎
第07回	S47.9.15	高知	大会終了後の会議にて 高岡謙次先生が連盟会長
第06回	S46.4.3	東京（日本武道館）	大会会長：伊藤京逸
第05回	S45.10.24	京都（武徳殿）	大会会長：高岡謙次
第04回	S44.8.15	仙台（県立スポーツセンター）	大会会長：松川金七
第03回	S43.2.18	東京（衆議院第一議員会館剣道場）	大会会長：伊藤京逸
第03回	S42.4.1	名古屋（名鉄体育館）	大会会長：伊藤京逸
第02回	S38	大阪（大阪城内・修道館）	大会会長：伊藤京逸
第01回	S34	東京（後楽園・全剣連・中央道場）	初代連盟会長：伊藤京逸

## 今後の大会開催予定地

- 2020年 第55回 沖縄大会（奥島憲彦先生）  
2021年 第56回 岡山大会（山本晋一郎先生）  
2022年 第57回 新潟大会（荻莊則幸先生）  
2023年 第58回 未定（日本医学会総会は東京）

## 幹事会メンバー（2020年1月時点、順不同、敬称略）

朝日 茂樹、飯塚 幹雄、池澤 清豪、石井 靖隆、伊藤 保憲、稲村 征夫、  
今村 幹雄、枝重 恭一、大柵 廣伸、荻莊 則幸、奥島 憲彦、鏡山 博行、  
笠松 紀雄、加野 資典、菅 義行、新藤 寛、十河 勝正、谷木 利勝、  
中島 進、長野 拓三、中山 尚夫、野見山 すずむ、濱 弘樹、林 明人、  
日高 久光、堀江 貴、箕田 修治、宮坂 信之、宮坂 昌之、森 能史、  
守 正美、萬木 信人、諸木 浩一、山本晋一郎、湯村 正仁、吉村 了勇

## 事務局からのお知らせ

- 1) 全医剣連ホーム ページは  
<http://japan-medical-kendo.jp> です。

全日本医師剣道連盟事務局

〒305-0044 茨城県つくば市並木 3-23-25 林明人

Tel & Fax: 029-855-7446

専用メールアドレス: info@japan-medical-kendo.jp

住所・段位・称号の変更などのお知らせは次のページの用紙 をご使用するか、  
上記のメールアドレスでご連絡下さい。

- 2) 年会費（1万円）を下記銀行にお振り込みの程よろしくお願ひします。  
なお、振り込み名は会員の先生のお名前でご記入ください。

みずほ銀行・新浦安支店(342)  
普通口座 1984793  
全日本医師剣道連盟  
(ゼンニホンイシケンドウレンメイ)

- 3) ご寄付のお願い。  
ご賛同の会員の先生は、  
年会費に追加して1口につき1万円を上記銀行口座にお振り込み  
をお願いいたします。

## 編集後記

全日本医師剣道連盟が1959年に創立され60年が経ちました。この60年間には多くの医師剣道家の先生方がご尽力された歴史があります。この歴史ある全日本医師剣道連盟を引き継ぎ継続して未来に繋ぐことに大切な意味があります。医師剣道家が交剣知愛・お互いの切磋琢磨を実践していただく場を提供することが全医剣連の大きな役割の1つです。

今回の創立60周年記念年報では、会長の奥島憲彦先生と実行委員長の永山盛隆先生から沖縄大会のご案内、会員の先生方からの寄稿文と写真、また年報アーカイブからの抜粋を掲載いたしました。会員の先生方からは剣道のほかにも興味深いお話をいただきました。年報はホームページに掲載されておりますが、その中から抜粋させていただきましたが、掲載しましたものは紙面の関係で字が小さく読みづらいのでルーペでご覧ください。掲載されたもの以外にも大変興味深いお話がホームページには満載ですので是非ご覧ください。

最近、注目されているワードとしてSDGs (Sustained Developmental Goals、持続可能な開発目標)という言葉があります。2015年に国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された国際目標であり国内でも広がりを見せ、SDGsの取り組みがなされつつあります。これを全日本医師剣道連盟に当てはめてみますと、10年後、20年後の未来に向けてどんなことをしていくかということになります。個人として、どんな剣道を目指して今なにをするのか、どんな団体を目指して今なにをしていくか?ということになるかと思えます。剣道に出会えたこと、全日本医師剣道連盟の皆様へ感謝しつつ、剣道を通じて楽しく前向きに進めたらと感じております。

皆様には全日本医師剣道連盟の歴史を感じていただきながら、この連盟報をご覧くださいませ幸いです。

編集

林明人

